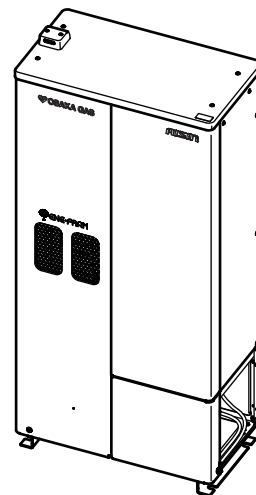


エネファーム type S 燃料電池発電ユニット

商品仕様	型式	ガスの種類
停電時自立発電モデル	192-AS15	都市ガス 13A
		LPガス
標準モデル	192-AS16	都市ガス 13A
		LPガス
停電時自立発電モデル (DC出力仕様)	192-AS17	都市ガス 13A
		LPガス



取扱説明書の見かた

エネファーム type Sの取扱説明書は下記3冊で構成されています。
目的に合った取扱説明書をご確認ください。

本書	※	※
燃料電池 発電ユニット 取扱説明書	リモコン 取扱説明書	給湯暖房用 熱源機
発電設定関係	給湯設定関係	熱源機 メンテナンス関係

※ リモコンと給湯暖房用熱源機の取扱説明書名称は4ページを参照願います。

お客さまへ

このたびは大阪ガスのエネファームtype S 燃料電池発電ユニットをお買い上げいただきまして、まことにありがとうございました。
保証書とともに、この「取扱説明書」を大切に保管してください。

- ご使用前にこの取扱説明書をよくお読みのうえ、正しくお使いください。
- 安全についての注意事項を記載しておりますので、必ずお守りください。
- お読みになった後、いつでも見られるところに必ず保管してください。
また、お使いになる方が変わる場合は、必ずこの取扱説明書をお渡してください。
この取扱説明書には、巻末に保証書がついています。大切に保管してください。
- 取扱説明書を紛失された場合は、販売店またはもよりの大阪ガスにご連絡ください。
- 製品改良により、本体・仕様などが説明書の内容と異なる場合がございますので、あらかじめご了承ください。

停電時自立発電モデル(DC出力仕様)をお買い上げのお客さまへ

- 接続する機器(ハイブリッド蓄電システム、パワーコンディショナー、蓄電池ユニットなど)の取扱説明書に記載された注意事項もご使用前に必ずお読みいただき、正しくお使いください。

もくじ

ご使用の前に

ご確認ください.....	4
本書の見方.....	5
エネファームについて.....	6
安全のため必ず守ってください.....	10
各部のなまえ.....	18
ご使用前の確認.....	21

発電

リモコンについて.....	23
発電について.....	29
発電をする.....	34
発電を止める.....	42
停電時に電気を使う.....	46
自立 概要（停電時自立発電モデルをお使いのお客さまへ）.....	46
自立 主な電気製品の消費電力（停電時自立発電モデルをお使いのお客さまへ）.....	48
自立 停電発生時の対応（停電時自立発電モデルをお使いのお客さまへ）.....	49
自立 過負荷2回目以降の復帰操作（停電時自立発電モデルをお使いのお客さまへ）.....	52
自立 自動排湯について（停電時自立発電モデルをお使いのお客さまへ）.....	53
自立 発電出力を上げる場合（戻す場合）（停電時自立発電モデルをお使いのお客さまへ）...	56
停電時にお湯を使う.....	58
停電時に電気を使う.....	59
DC 概要（停電時自立発電モデル（DC出力仕様）をお使いのお客さまへ）.....	59
DC 停電発生時の対応（停電時自立発電モデル（DC出力仕様）をお使いのお客さまへ）.....	61
DC 自動排湯について（停電時自立発電モデル（DC出力仕様）をお使いのお客さまへ）.....	62
停電時にお湯を使う.....	64

こんなときは

こんなときは.....	65
断水のときは.....	65
長期間使用しないときは.....	65
気温が-10℃を下回るときは.....	65
ガスの供給が途絶えたときは.....	65
ガスの供給が途絶えたときに温水を使いたいときは（ヒーター給湯モード）.....	66
災害時等緊急停止のときは.....	70
自立 停電のときは（停電時自立発電モデルをお使いのお客さまへ）.....	70
自立 工事などで停電、断水、ガス停止が事前に分かっているときは （停電時自立発電モデルをお使いのお客さまへ）.....	71

停電のときは（標準モデルをお使いのお客さまへ）	71
工事などで停電、断水、ガス停止が事前に分かっているときは （標準モデルをお使いのお客さまへ）	72
DC 停電のときは（停電時自立発電モデル（DC 出力仕様）をお使いのお客さまへ）	72
DC 工事などで停電、断水、ガス停止が事前に分かっているときは （停電時自立発電モデル（DC 出力仕様）をお使いのお客さまへ）	73
DC 蓄電池ユニットの蓄電池残量が0%のときは （停電時自立発電モデル（DC 出力仕様）をお使いのお客さまへ）	73
水抜きするときは	74
発電ユニットの水を抜く	74
災害時などに貯湯タンクのお湯を取り出す	78
お手入れ	
お手入れと周囲の確認	79
貯湯タンクの洗浄をする	80
貯湯タンクの水抜き手順	80
水張り手順	82
困ったときに	
故障・異常かな？と思ったら	84
エラー発生時の処置方法	86
エラー表示	88
知っておいてください	
点検について	90
おもな仕様	91
外形図	92
アフターサービスと保証について	93
保証書	94

下記はリモコンの取扱説明書をお読みください。

お湯・お風呂・暖房
 エネルックの操作方法
 無線 LAN の通信設定

■ 本書では、以下の表示で説明をしています

- ・ 停電時自立発電モデルに関する内容 **自立**
- ・ 停電時自立発電モデル（DC 出力仕様）に関する内容 **DC**

ご確認ください

ご使用の前に

発電

こんなときは

お手入れ

困ったときに

知っておいてください

■ リモコンと給湯暖房用熱源機の取扱説明書名称

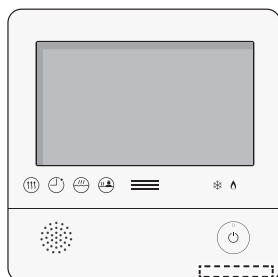
	リモコン	給湯暖房用熱源機	チェック
リモコン A 【138-N*** シリーズ (138-N454 は除く)】	取扱説明書 リモコン操作編 給湯暖房機 ガスふろ給湯器	取扱説明書 機器本体編 潜熱回収型 給湯暖房機	<input type="checkbox"/>
リモコン B 【138-T*** シリーズ】	リモコン取扱説明書	給湯暖房機 取扱説明書	<input type="checkbox"/>
リモコン C 【138-R*** シリーズ】	取扱説明書 リモコンセット	取扱説明書 給湯暖房機	<input type="checkbox"/>
発電リモコン 【138-N454】	取扱説明書 リモコン操作編 後付構成用発電連携リモコン	_____	<input type="checkbox"/>

■ 本機は各種熱源機とセットでご使用できるように構成されています

お客さまがお買い上げになられたリモコンに、チェックを入れてご使用ください。



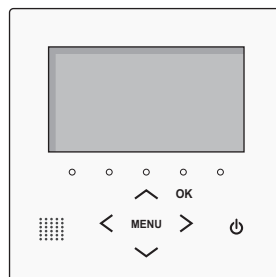
リモコン A



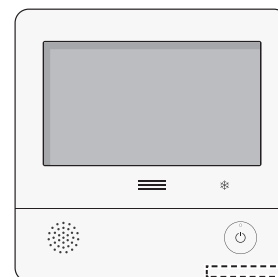
リモコン B



リモコン C

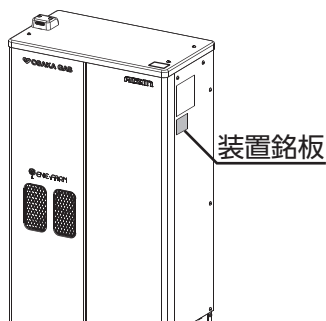


発電リモコン



■ お買い上げいただいた商品仕様の調べ方

- 製品側面の装置銘板に表記された『機種』をご覧ください、下表と照合しチェックを入れてご使用ください。



商品仕様	機種	ガスの種類	チェック
停電時自立発電モデル 自立	(N)192-AS15	都市ガス	<input type="checkbox"/>
	(P)192-AS15	LP ガス	<input type="checkbox"/>
標準モデル	(N)192-AS16	都市ガス	<input type="checkbox"/>
	(P)192-AS16	LP ガス	<input type="checkbox"/>
停電時自立発電モデル (DC 出力仕様) DC	(N)192-AS17	都市ガス	<input type="checkbox"/>
	(P)192-AS17	LP ガス	<input type="checkbox"/>

本書の見方

■ 本書では、下記の呼びかたで説明をしています

- 燃料電池発電ユニットと熱源機を合わせたシステムを「エネファーム」
- 燃料電池発電ユニットを「発電ユニット」
- 発電ユニットと専用の熱源機を組み合わせた構成を「セット構成」
- 発電ユニットと専用ではない熱源機を組み合わせた構成を「後付構成」
- セット構成用台所リモコンを「台所リモコン」
- セット構成用浴室リモコンを「浴室リモコン」
- 後付構成用発電連係リモコンを「発電リモコン」
- ガスメーター（マイコンメーター）を「ガスマイコンメーター」

ご使用の前に

発電

こんなときは

お手入れ

困ったときに

知っておいてください

エネファームについて

ご使用の前に

発電

こんなときは

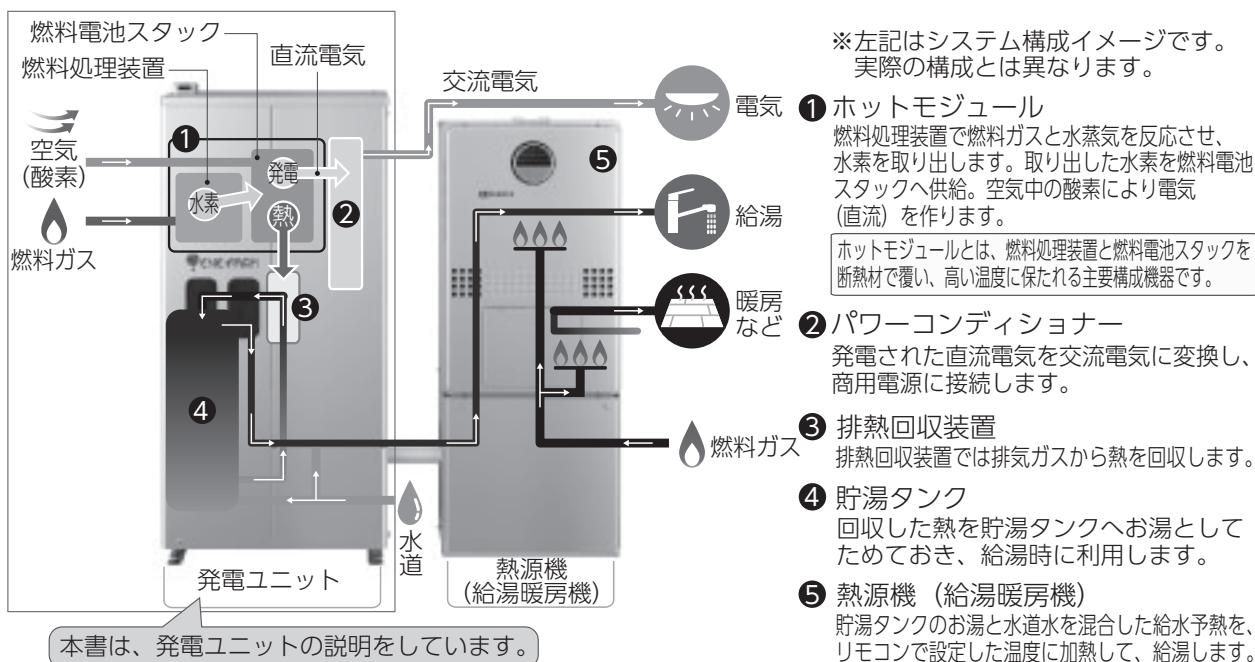
お手入れ

困ったときに

知っておいてください

■ エネファーム type S のシステム構成イメージ

発電ユニットは、燃料ガスから水素を取り出し、その水素と空気中の酸素を反応させて、自宅で電気を作るシステムです。発電時に出る熱を利用してお湯も一緒につくるため、エネルギーを有効利用できます。



■ この機器は対応する熱源機と組み合わせて使用することで、電気および熱（お湯）を供給します

発電ユニットから発生する排熱により、水を最高約35℃に加熱し熱源機に供給します。その後熱源機にて設定温度に調整されて、給湯・お風呂に利用されます。

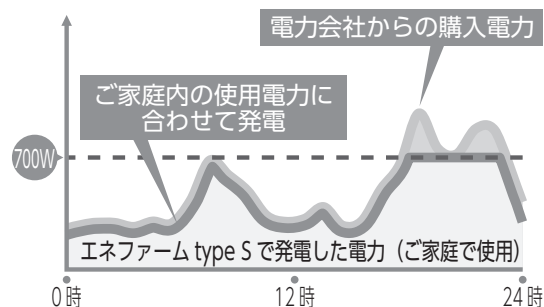
蛇口を少し開けたとき等、給湯流量が少ないときは、熱源機が燃焼しない場合でもお湯が出る可能性があります。

■ 発電ユニットは自動運転です

発電ユニットは24時間連続運転で、ご家庭の電力需要に合わせて自動的に50W～700Wの範囲で発電します。（逆潮流なし運転）

※ガスマイコンメーターの保安機能を正常に動作させるために、26日間連続して発電した場合は、27日目に約7～9時間発電を停止します。

- 発電ユニットで作られた電気を優先的に使用し、不足分は電力会社から供給される電気を使用します。
- 発電ユニットで作られた電気は、ご家庭内（照明、テレビなど）で使用します。



■ 逆潮流ありの設定を選択されたお客さまへ

◆ 逆潮流に関してのご説明

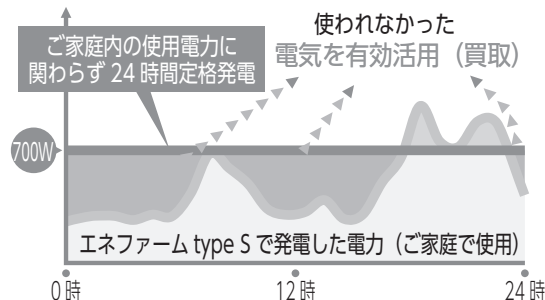
- 逆潮流とは、発電ユニットにて発電された電力を電力系統を介して取引等を実施する仕組みです。
- 逆潮流を実施する場合、大阪ガスまたは発電ユニットからの電力の買い取りを実施する事業者さまへの申込みが必要となります。

◆ 逆潮流ありの場合、発電ユニットはお客さまの消費電力以上で発電運転（最大約700W）を実施します。余剰となった電力は、大阪ガスまたは発電ユニットからの電力の買い取りを実施する事業者さまが買い取ります。

◆ 逆潮流有無はご購入時にお客さまに選択していただき、施工業者が設定いたします。お客さまご自身で設定変更はできませんのでご了承ください。設定変更をご希望されるお客さまは、もよりの大阪ガスまでご相談ください。（別途費用がかかります）

◆ 逆潮流に関する詳細は大阪ガスホームページ等をご覧ください。

◆ 逆潮流のリモコン表示に関してはリモコンの取扱説明書をご覧ください。

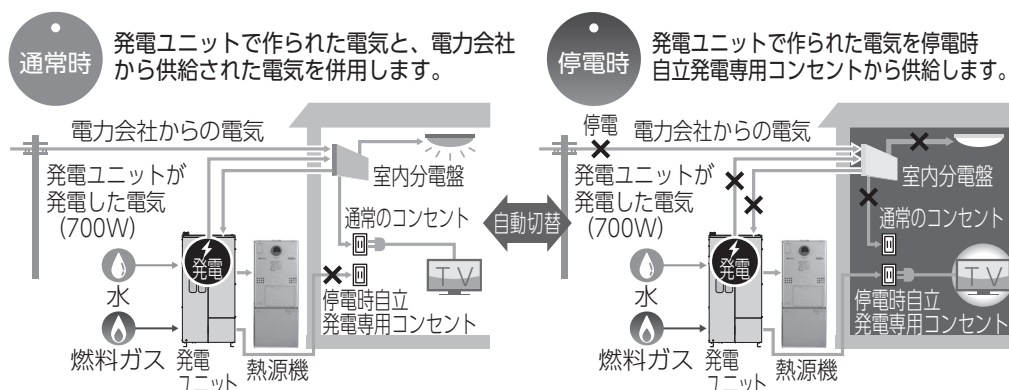


自立 停電時自立発電モデルをお使いのお客さまへ

- 停電時自立発電モデルは、発電中に停電が発生した場合も引き続き発電を続けます。したがって停電中でも発電した電気と熱源機のお湯を使うことができます。

※発電ユニットが発電を停止しているときに停電した場合は、発電することができません。また、地震等の災害などでガスの供給が停止している場合にも、発電することができません。

<停電時自立発電の電気の流れ>



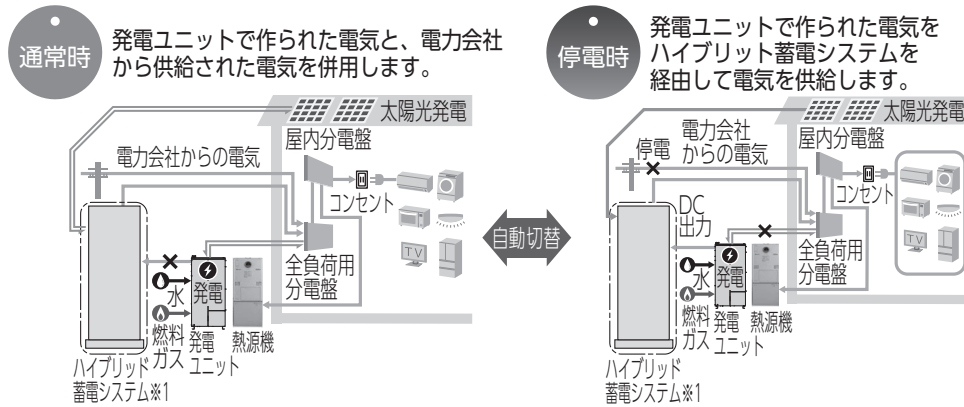
- 停電時自立発電機能で使用できる電力は最大約700Wです。
- ※セット構成の場合は熱源機で使用する電気の量を含みます。停電時自立発電専用コンセントでご使用できる電気の量は700Wよりも、少なくなります。
- 停電時自立発電時は自動的に停電時自立発電専用コンセントに電気が供給されます。
- ※停電時自立発電専用コンセントには「エネファーム 停電時自立発電専用」と表示されています。
- ※停電時自立発電専用コンセントは停電しているときだけ、ご使用ください。なお、停電が復旧すると自動的に停電時自立発電専用コンセントへの電気の供給は止まりますので、使用できません。
- ※停電時自立発電機能の詳細は、「停電時に電気を使う（46～57ページ）」をご覧ください。

エネファームについて

DC 停電時自立発電モデル (DC 出力仕様) をお使いのお客さまへ

- 停電時自立発電モデル (DC 出力仕様) は、発電中に停電した場合、ハイブリッド蓄電システム ※ へ供給・蓄電することが可能です。したがって停電中でも発電した電気と熱源機のお湯を使うことができます。
- ※太陽電池用のパワーコンディショナーと蓄電池用のパワーコンディショナーを一体化したハイブリッドパワーコンディショナーと蓄電池ユニットで構成される蓄電システム

<停電時の電気の流れ> (接続例)



※1 接続可能なハイブリッド蓄電システム

メーカー	名称	システム型式
エリーパワー(株)	POWER iE5 GRID	EPS-40S、EPS-40D

- 蓄電池残量が0%の状態、発電ユニットが停電時自立発電 (DC 出力) を開始する場合、蓄電池ユニットの保護制御が働き停電時自立発電 (DC 出力) 出来ない場合があります。
- 蓄電池ユニットの残容量が0%になった場合の復帰手順は「こんなときは (73 ページ)」をご覧ください。
- ※停電時自立発電機能 (DC 出力仕様) の詳細は、「停電時に電気を使う (59 ~ 64 ページ)」をご覧ください。
- ※発電ユニットが発電を停止しているときに停電した場合は、発電することができません。また、地震等の災害などでガスの供給が停止している場合にも、発電することができません。

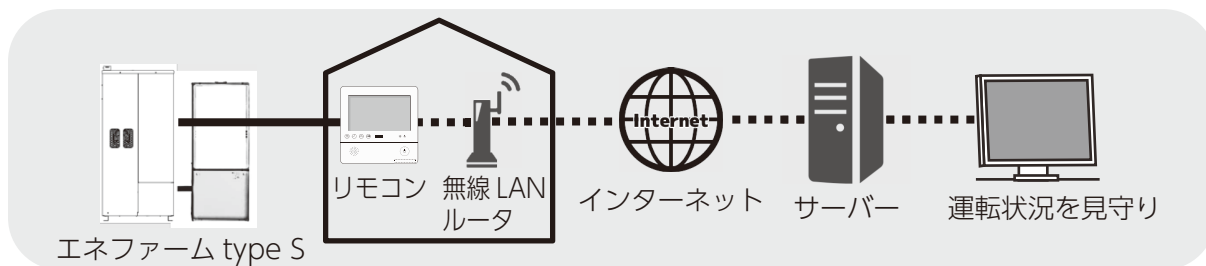
■ その他

- 異常がある場合、リモコンにエラーを表示し、お知らせします。
- 断水で水道水を使用できない場合でも、貯湯タンクのお湯 (水) を取り出して雑用水として利用できます。詳細は「災害時などに貯湯タンクのお湯を取り出す (78 ページ)」をご覧ください。
- ガスの供給が途絶え熱源機が使用できない場合に温水が必要になったときは、ヒーター給湯モードにて、最高で 40℃ (発電ユニットの出口温度) の温水を供給することができます。

■ ネットワーク機能をお使いのお客さまへ

ネットワークに接続しますと、1) 運転状況の遠隔見守りサービス、2) 自立発電継続サポート、3) スマートフォンアプリがご利用できます。

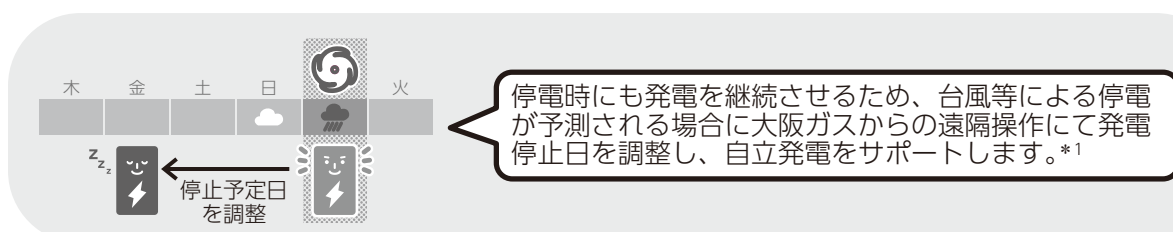
1) 運転状況の遠隔見守りサービスのイメージ



運転状況の遠隔見守りサービス

エネファームが正常に運転しているかを大阪ガスが遠隔で見守ります。

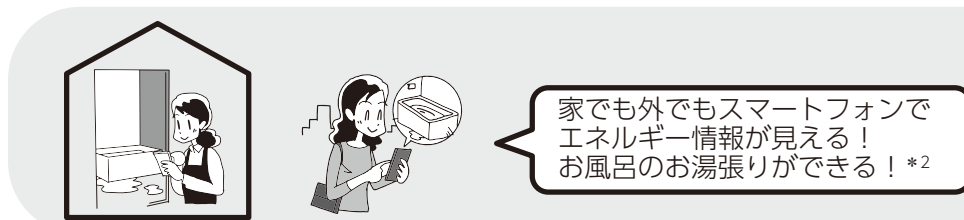
2) 自立発電継続サポートのイメージ



*1 ・発電停止日とは・・・マイコンメーターの安全機能確認のため、26日間連続してエネファームが発電した場合、27日目に発電を1日停止させます。

- ・自立発電機能付きのモデルの機器のみの機能です。
- ・実施を希望されない場合は、大阪ガスまたはもよりの販売店までご連絡ください。
- ・当社の事業環境などにより本サービスを終了せざるを得ないと判断した場合は、予告なく本サービスの提供を終了する可能性があります。
- ・2台以上のエネファームをご使用の場合サービスが利用できない可能性があります。大阪ガスグッドライフコールまでお問い合わせください。
- ・インターネット接続から自立発電継続サポートの登録までに数日かかる場合があります。
- ・インターネット接続されていない場合は、本サービスをご利用いただけません。
- ・お客さま宅内の通信環境によっては、本サービスを提供できない場合があります。
- ・本サービスは台風による停電時に自立発電を確約するものではありません。

3) スマートフォンアプリ利用のイメージ



*2 発電リモコンの場合、お風呂のお湯張りはできません。

スマートフォンアプリ

お使いのスマートフォンにアプリをインストールすると、スマートフォンでエネルギー情報の見える化やガス機器の遠隔操作がご利用になれます。スマートフォンアプリに関してはリモコン取扱説明書をご覧ください。



ネットワーク機能をお使いになる場合の注意事項

- ・サービスのご利用には常時接続のインターネット環境と無線 LAN 環境が必要です。
- ・インターネット環境・無線 LAN 環境・スマートフォンはお客さままでご準備ください。
- ・無線 LAN ルーターは、WPA2/WPA の暗号化方式に対応したものがが必要です。
- ・ご使用の無線 LAN ルーター、スマートフォン、通信環境によっては本サービスをご利用できない場合があります。
- ・エネファームリモコンがサーバと通信するため、インターネットの通信費がかかります。
- ・接続方法に関しては各リモコンの取扱説明書をご覧ください。

安全のため必ず守ってください

ご使用前に、この「安全のため必ず守ってください」をよくお読みいただき、正しくお使いください。ここに示した注意事項は、危害・損害の程度によって次のように分類されます。

■ 表示の説明

 警告	この表示を無視して取り扱いを誤った場合、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容です。
 注意	この表示を無視して取り扱いを誤った場合、人が傷害を負う可能性や物的損害が想定される内容です。
お願い	安全に快適に使用していただくために、理解していただきたい内容です。

■ 絵表示の説明

 必ず行うこと	 接触禁止	 一般的な禁止
 分解禁止	 発火注意	 火気禁止
 アース線を接続すること	 高温注意	

異常のときは

警告

ガス漏れに気付いたら

◆ 屋内でガス臭がする場合は、次のことはしない。
引火し、爆発事故を起こすことがあります。

- 火をつけない
- 電気器具（換気扇・電灯など）のスイッチを ON/OFF しない
- コンセントを抜き差ししない
- 周辺で電話を使用しない

◆ 次の処置を行ってください。

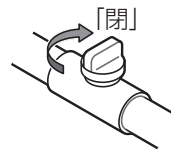
1. ガス栓 ① を閉める。（ガス栓を閉めると、エラーコード [A0F00] がリモコンに表示されます）
2. 屋内でガス臭がするときは窓や扉をあける。
3. 販売店またはもよりの大阪ガスに連絡する。② そのままにしておくと、火災や爆発の原因になります。また、絶対に火を近づけたりしないでください。ガス漏れ異常（エラーコード [10F00]、[10F01]、[10F10]、[10F11]）は、リモコンでのエラー解除はできません。



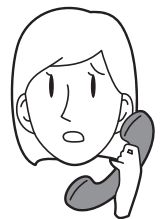
火気禁止



確認



②



異常のときは

警告

異常時の処置

発電ユニットから異常な臭い（こげ臭い・ガス臭い）・発火・煙・異常に大きい音・振動があるときは、次の処置を行ってください。

1. ガス栓を閉める。（ガス栓を閉めるとエラーコード[A0F00] がリモコンに表示されます）
2. 屋内分電盤の発電ユニット専用ブレーカーと熱源機ブレーカーをOFFにする。

・ 停電時自立発電モデル（DC 出力仕様）の場合、発電ユニット専用ブレーカーは全負荷用分電盤に設置されています。

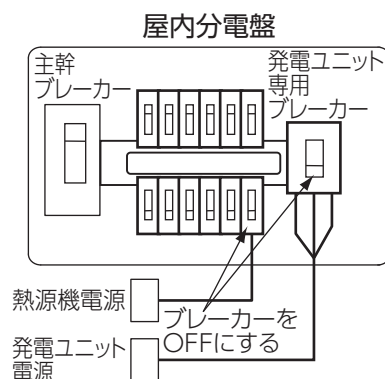
3. 販売店またはもよりの大阪ガスに連絡する。

異常のまま運転を続けると感電・火災・故障などの原因となります。

※ ブレーカー部は濡れた手で触れないでください。



確認



設置のときは

警告

設置・付帯工事は販売店またはもよりの大阪ガスに依頼する

工事に不備があると、感電・水漏れに加え、排気ガスの建物内流入による中毒、火災の原因になりますので販売店またはもよりの大阪ガスに依頼してください。

（設置・付帯工事は工事説明書に従い、有資格者が行います）



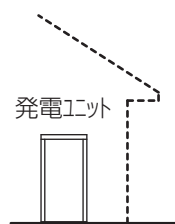
確認



禁止

屋内に設置しない

屋外設置据置型ですので、絶対に屋内に設置しないでください。酸欠・一酸化炭素中毒を起こすおそれがあります。



確認

離隔距離とメンテナンススペースの確認

周囲の可燃物に対して、防火上の離隔距離をとってください。

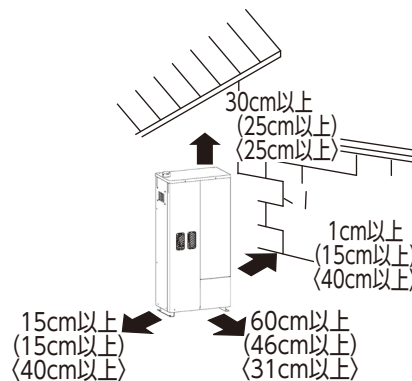
距離が不足すると火災の原因になります。この離隔距離に加えて、メンテナンススペースが必要です。スペース内には物を置かないでください。

上：防火上の離隔距離（前吹き出しの場合）

中：（幅が狭い場合のメンテナンススペース）

下：〈奥行きが狭い場合のメンテナンススペース〉

詳細は工事説明書 14 ～ 17 ページをご覧ください。



ご使用前は

警告

必ずアース工事を確認する

アース工事（D 種接地工事）が不完全な場合は、感電・火災の原因となります。

アース線が、ガス管・水道管・避雷針・電話のアース線に接続されていないことを確認してください。

詳しくは工事説明書をご覧ください。



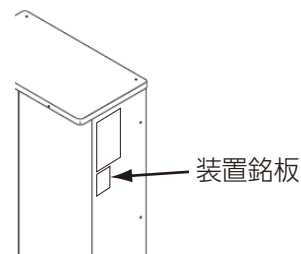
アース



確認

ガスの種類・電源の確認

ガスの種類・電源が異なる場合、火災や感電の原因となります。装置銘板に表示されている燃料種と使用するガスが一致していることを確認してください。また、電源が「単相 3 線式 100/200V」であることを確認してください。



安全のため必ず守ってください

ご使用の前に

発電

こんなときは

お手入れ

困ったときに

知っておいてください

ご使用中は

警告



燃えやすい物を周りに置かない

洗濯物・新聞紙・灯油など燃えやすい物を周りに置かないでください。火災の原因になります。



火気を近づけない

換気出口・排気口に火気を近づけないでください。火災の原因になる場合があります。



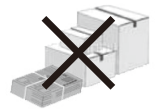
引火のおそれがある物を周りで使用しない

灯油・ガソリン・ベンジンなど引火のおそれがある物を機器の周りで使用しないでください。火災の原因になります。



スプレー缶を周りに置かない、使用しない

スプレー缶を周りで使用したり、置かないでください。熱でスプレー缶の圧力が上がり、爆発・火災の原因になります。周りでスプレーを使用すると、スプレーに含まれる成分により、機器故障の原因となります。



LP ガス容器を周りに置かない

所定の離隔距離が必要です。



排気ガスを建物内に入れない

この機器の排気ガスが建物（自宅および隣家など）の吸排気口や窓などから建物内に入らないようにしてください。排気ガスが建物内に流入すると、一酸化炭素中毒などの原因になります。



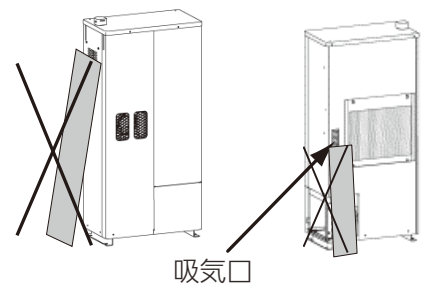
排気口の向きを無断で変更しない

火災の原因、一酸化炭素中毒の原因となる可能性があります。



排気口・換気出口に顔を近づけない

大量の排気ガスを吸い込むと、一酸化炭素中毒の原因となる可能性があります。



排気口付近で子供やペットを遊ばせない

一酸化炭素中毒のおそれがあります。



排気口・吸気口・換気出口を塞がない

空気の取り入れが不足すると、不完全燃焼による一酸化炭素中毒の原因となります。

こんなときは

警告



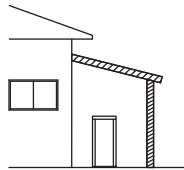
地震・水害・火災の発生したときの処置

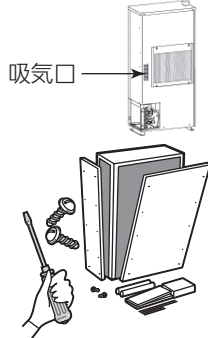
地震・水害・火災が発生したときは、ガス栓を閉め、分電盤内の発電ユニット専用ブレーカーと防水コンセントに接続されたブレーカーを OFF にしてください。おさまりましたら、機器が安全に使用できるかどうかの確認を販売店またはもよりの大阪ガスに依頼してください。



積雪時の点検・除雪

積雪時は、排気口・換気出口・吸気口が塞がれないように点検・除雪を行ってください。空気の取り入れが不足すると、不完全燃焼による一酸化炭素中毒の原因となります。

増改築・移設時などのときは		警告
禁止	<p>囲いをしない 設置後、発電ユニットを波板やビニールなどで囲んで屋内状態にしないでください。火災や酸欠事故の原因となります。</p>	
禁止	<p>外壁の塗装、増改築、屋内の修繕時などに、機器本体が養生シートで覆われた場合は機器を使用しない 不完全燃焼による一酸化炭素中毒の原因となります。 ※ 機器故障原因となり、有償での修理対応が必要となります。</p>	
強制	<p>移設時の確認 増改築や引越しなどで移設する場合は、販売店、またはもよりの大阪ガスにご相談ください。工事に不備があると、感電・水漏れに加え、排気ガスの建物内流入による一酸化炭素中毒、火災の原因となります。(移設は工事説明書に従い、有資格者が行います) 移設後は、電力会社への手続きが完了した後でない限りと運転することはできません。(手続きについては、販売店、またはもよりの大阪ガスに確認してください)</p>	
強制	<p>熱源機・リモコン・ハイブリッド蓄電システムを買い替える場合</p> <ul style="list-style-type: none"> 熱源機との組み合わせ、リモコンとの組み合わせ、ハイブリッド蓄電システムとの組み合わせによっては、安全・性能が担保できず、やけど等の事故が発生する可能性があります。 熱源機・リモコン・ハイブリッド蓄電システムを買い替える場合は必ず販売店またはもよりの大阪ガスにご相談ください。 	

お手入れのときは		警告
強制	<p>機器の吸気口がホコリ・ゴミなどで塞がっていないか確認する 不完全燃焼による一酸化炭素中毒の原因となります。</p>	
禁止	<p>高水圧での、水洗いはしない 感電・火災の原因になることがあります。</p>	
分解禁止	<p>分解・修理・改造をしない 分解・改造を行わないでください。感電・火災・水漏れの原因となります。移設・付帯工事・修理をする場合は、必ず販売店、またはもよりの大阪ガスに依頼してください。</p>	

エラーの処置は		警告
禁止	<p>お客さま自身で部品の点検・調整はしない 感電・火災・水漏れの原因となります。</p>	
強制	<p>機器の異常に気付いたときは、販売店またはもよりの大阪ガスに連絡する 異常のまま運転を続けると感電・火災・故障などの原因となります。</p>	

ヒーター給湯モードのときは		警告
強制	<p>発電リモコンの場合は、必ず熱源機の運転スイッチを OFF にする OFF にしない場合、高温の温水が出てやけどをするおそれがあります。</p>	

安全のため必ず守ってください

ご使用の前に

ヒーター給湯モードのときは



強制

温水のご使用中は、温水の温度低下に注意する

ご使用状況や機器の状態等によっては、温水のご使用中に突然温度が下がることがあります。

発電

こんなときは

お手入れ

困ったときに

知っておいてください

自立 停電時自立発電のときは

(停電時自立発電モデルをお使いのお客さまへ)



禁止

停電時自立発電専用コンセントには以下の製品をつながない

停電時自立発電専用コンセントには停電時にのみ電気が供給され、停電が復旧すると自動的に電気の供給が止まります。途中で電源が切れると生命、財産に損害を受けるおそれがある以下の機器は接続しないでください。

- 全ての医療機器
- 灯油を用いた暖房機器
- バッテリーを搭載していないパソコンなどの情報機器
- 炊飯器、電子レンジなどの調理機器
- その他、電源が切れると生命、財産に損害を受けるおそれのある機器

消費電力が合計で 700W 以上になる機器は接続しないでください。

【注意】停電時自立発電機能で使用できる電気の量は最大約 700W です。

※ セット構成の場合は、熱源機の消費電力*¹ も含まれますので、停電時自立発電専用コンセントからご利用できる電気の量は 700W よりも少なくなります。

*¹ 冬季時の凍結予防など、熱源機の運転状態によって消費電力が大きく変わりますので、リモコンで消費電力を確認しながらお使いください。



禁止

停電時自立発電専用コンセントを商用電力線につながない

停電時自立発電専用コンセントと家庭内の普通のコンセントを延長ケーブルなどで絶対に接続しないでください。感電、発火などの事故になるおそれがあります。



強制

停電時自立発電専用コンセントは停電時のみ使用する

停電時自立発電専用コンセントは停電時のみ使用することができます。停電時以外に停電時自立発電専用コンセントに電気製品を接続しないでください。接続した機器に突然電流が流れ、機器を損傷したり、突然の動作による事故の原因になります。



禁止

停電していないときに停電時自立発電を行わない

思わぬ事故の原因になります。また、本来の機能が損なわれ、故障の原因となります。



強制

**停電時自立発電時は浴槽の排水栓を抜く
(入浴の際は、浴槽の栓をしてください)**

停電時自立発電時は運転を継続するために排湯機能により自動でお風呂にお湯を出すことがあります。浴槽の排水栓を抜かないと、思わぬ事故や、浴槽のお湯があふれるなどの原因となります。(セット構成のみ)

DC 停電時自立発電 (DC 出力) のときは

(停電時自立発電モデル (DC 出力仕様) を
お使いのお客さまへ)



強制

**停電時自立発電 (DC 出力) 時は浴槽の排水栓を抜く
(入浴の際は、浴槽の栓をしてください)**

停電時自立発電 (DC 出力) 時は運転を継続するために排湯機能により自動でお風呂にお湯を出すことがあります。浴槽の排水栓を抜かないと、思わぬ事故や、浴槽のお湯があふれるなどの原因となります。(セット構成のみ)

設置のときは

⚠ 注意



禁止

排気ガス・換気ガスを動植物に当てない
動植物に悪影響を及ぼす原因になることがあります。



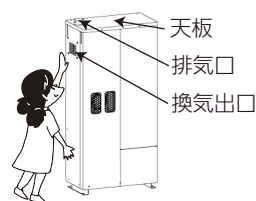
ご使用中は

⚠ 注意



高温注意

排気口、換気出口、天板に触れない
高温になっており、やけどの原因になることがあります。



禁止

発電ユニットの上に乗らない、物を載せない
落下・転倒などにより、けがの原因になることがあります。



禁止

発電ユニットと熱源機間の周辺にある配管の上に乗らない、物を載せない
けが・やけど・水漏れのおそれがあります。



高温注意

熱源機行き配管（高温側）に触れない
熱源機行き配管（高温側）は高温になることがあります。
やけどのおそれがあります。



禁止

排気口・換気出口・吸気口に指や棒など異物を入れない
けが・やけど、機器故障のおそれがあります。

給湯・お風呂のときは

⚠ 注意



強制

機器や配管に長時間たまった水や朝一番のお湯は、雑用水として使用する
飲用したり調理に使用すると、健康を害するおそれがあります。



強制

飲用する場合は、必ず沸騰させてから使用する。また必ず水道法に定められた
飲用水の水質基準に適合した水道水を使用する
飲用すると、健康を害するおそれがあります。



禁止

異物・変色・濁り・異臭があった場合は飲用しない
飲用すると、健康を害するおそれがあります。
※ 販売店またはもよりの大阪ガスへ点検を依頼してください。



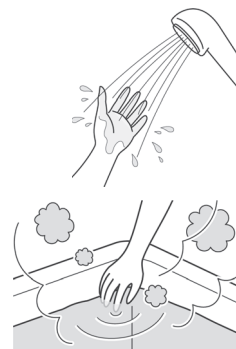
高温注意

シャワーなど、お湯の使用時に熱いお湯が出た場合は、
すぐに使用を中止する
やけどのおそれがあります。機器の故障等により使い始めは正常
でも、使用中にあつくなる場合もあります。



高温注意

浴槽の湯温を手で確認してから入浴する
やけどのおそれがあります。



安全のため必ず守ってください

ご使用の前に

こんなときは



断水時には給水・給湯栓を開けない
発電ユニットより低い位置にある給湯栓は設定温度以上のお湯が出る場合があります。



水抜き時タンク排水配管や排出される湯には触れない
場合によっては熱いお湯が排出されることがあり、やけどの原因になることがあります。



水抜き時はエア抜き栓の正面に身体を置かない
場合によってはお湯が飛び出すことがあり、やけどの原因になることがあります。

発電

お手入れのときは



パネルを開けて、発電ユニット内部に触れない
けが・やけど・感電のおそれがあります。

こんなときは

廃棄のときは



お客さまご自身で解体・廃棄は絶対にしない
法規制の対象物質が含まれるため、決められた方法で解体・廃棄をする必要があります。
解体・廃棄につきましては、本製品を購入された販売店に依頼してください。
※ ご使用には、人体・周辺環境への影響はありません。

お手入れ

自立 停電時自立発電のときは

(停電時自立発電モデルをお使いのお客さまへ)



ガスファンヒーターを使用すると、過負荷で停電時自立発電が中断する場合は使用しない
過負荷が発生するとガスファンヒーターの冷却が正常に行われず、温風の吹き出し口や機器背面（エアフィルタ部や取っ手部分）が高温になり、手で触れるとやけどのおそれがあります。



停電時自立発電専用コンセントでガスファンヒーターを使用中に異常を感じた場合は、使用を中止する
ただちにガス栓を閉じて、販売店またはもよりの大阪ガスに連絡してください。

困ったときに

お願い

■ 低温になる場所への設置について

気温が -10℃より低温になる場所に設置しないでください。
設置すると、凍結により重大な破損が発生することがあります。

■ 降雪地域での使用について

この機器を降雪地域で使用するとき、吸気口に雪などが固着する場合があります。固着が進むと、この機器は吸入不足になり正常に運転できません。
雪などの固着物は、吸気口を塞がないよう取り除いてください。

■ 地下水・井戸水・温泉水の使用禁止

給水は必ず水道法に定められた、飲料水の水質基準に適合した水道水を使用してください。
地下水・井戸水・温泉水を使用すると、機器内配管の異物付着、腐食による水漏れ、機器の不具合が発生することがあります。

知っておいてください

お願い

■ ドレン配管のつまりに注意する

ドレン配管の排出先は大気開放とし、泥や落ち葉などでつまらせないでください。故障の原因となることがあります。

■ 家庭用で使用してください

この機器は家庭用です。業務用に使用しないでください。業務用に使用して事故や故障が発生した場合、保証の対象外になります。

■ 電源について

緊急の場合以外は分電盤内の発電ユニット専用ブレーカーを「OFF」にしないでください。凍結予防運転のために電気を使用しています。

■ 配管バルブを閉めない

メンテナンス作業時以外は、配管に接続されているバルブを閉めないでください。正常な動作が妨げられ、故障の原因になります。

■ 知っておいてください

- ・ 雷や無線などのノイズが、この機器に悪影響を与えることがあります。
- ・ ご自宅の電気工事などで、分電盤内の電流センサーを外す場合は、事前に販売店またはもよりの大阪ガスへ連絡してください。(電流値の読み込み不良により、発電ができなくなる場合があります)
- ・ 発電ユニットの換気口から自動車の排気ガスが直接吸い込まれると、発電ユニットの故障・性能低下の原因になりますので、自動車の排気ガス出口から 1.5m 以上離してください。

■ 長期間使用しない場合の処置

不在などで 10 日間以上連続で電気・お湯を使用しない場合は、不在停止を行ってください。長期間(1 か月以上) 連続して使用しない場合、または 1 か月未満でも凍結の心配があるときにブレーカーを「OFF」にする場合、必ず水抜きを実施してください。詳細は 65 ページをご覧ください。

■ 停電時の注意

停電時に約 48 時間以上、発電(アイドリング状態も含む)が停止した場合は、暗証番号の入力、現在時刻の設定を行ってください。

■ 純正部品を使用してください

純正部品を使用しないと、故障の原因になります。

■ 後付構成の給湯に関して

- ・ 熱源機が「給湯切」でも発電ユニットから最高で 30℃の水が供給されます。水をご使用されたい場合は、混合水栓を水側にしてご使用ください。
- ・ 熱源機が「給湯切」の状態でお湯を使用すると、お湯の温度が変動したり、湯切れで急に水になることがありますので、「給湯切」の状態ではシャワー等のご使用はお控えください。
- ・ 給湯切時もお湯の温度を確かめていただいてからお湯をお使いください。
- ・ 熱源機が給湯「切/入」にかかわらず、発電ユニットから最高で 30℃の水が供給されますので、熱源機のふる「足し水」機能をご使用いただいても、お風呂がぬるくなりになる場合があります。

■ BL 認定品について

BL 認定品は「優良住宅部品」「瑕疵保障・賠償責任保険付」です。一般財団法人ベターリビングお客様相談窓口の電話番号は「03-5211-0680」です。

自立 (停電時自立発電モデルをお使いのお客さまへ) お願い

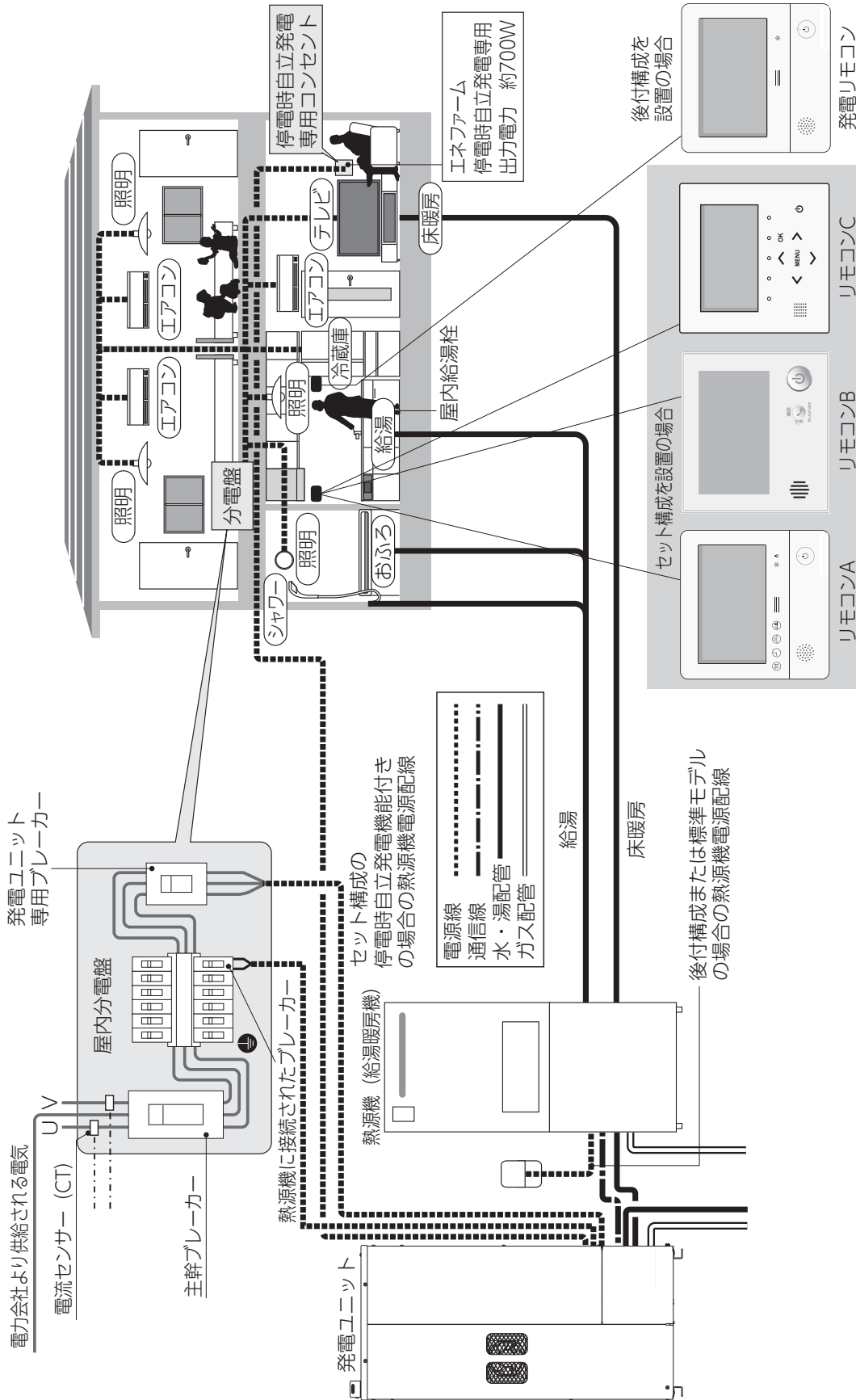
■ 停電時自立発電専用コンセントが設けられていることを確認する

停電時に発電ユニットで発電した電気を使用するには、停電時自立発電専用コンセントが必要です。「エネファーム停電時自立発電専用」と表示のあるコンセントが、停電時自立発電専用コンセントです。

各部のなまえ

■ 標準モデル

自立 停電時自立発電モデルをお使いのお客さまへ



お湯、お風呂、暖房、エネファームなどの操作については、各リモコンの取扱説明書を参照願います。

ご使用の前に

発電

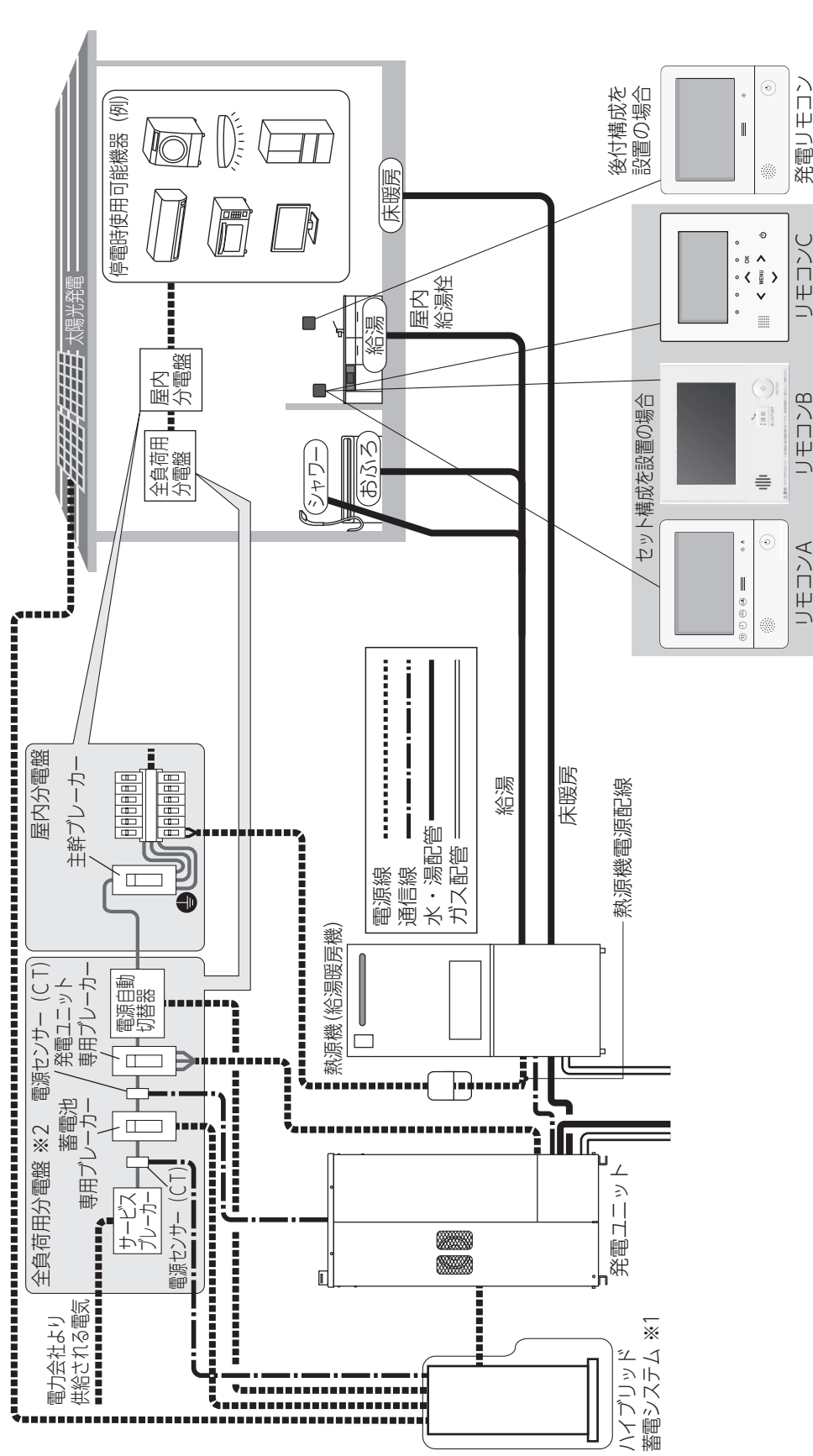
こんなときは

お手入れ

困ったときに

知っておいてください

DC 停電時自立発電モデル (DC 出力仕様) をお使いのお客さまへ



・お湯、お風呂、暖房、エネネットなどの操作については、各リモコンの取扱説明書を参照願います。

※1 接続可能なハイブリッド蓄電システム

メーカー	名称	システム型式
エーパワー(株)	POWER IE5 GRID	EPS-40S、EPS-40D

※2 全負荷用分電盤

電力供給の中継点で、発電ユニット、ハイブリッド蓄電システム、太陽光発電、電力会社からの電力を屋内分電盤に送ります。

知っておいてください

困ったときに

お手入れ

こんなときは

発電

ご使用前に

各部のなまえ

ご使用の前に

発電

こんなときは

お手入れ

困ったときに

知っておいてください

製造番号ラベル
(記載内容は一例です)

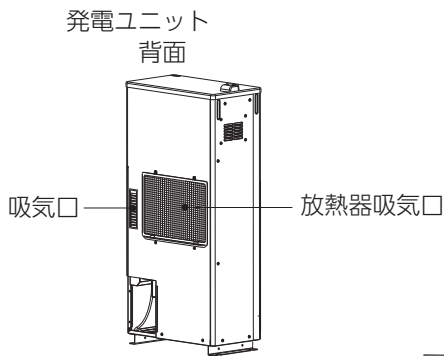
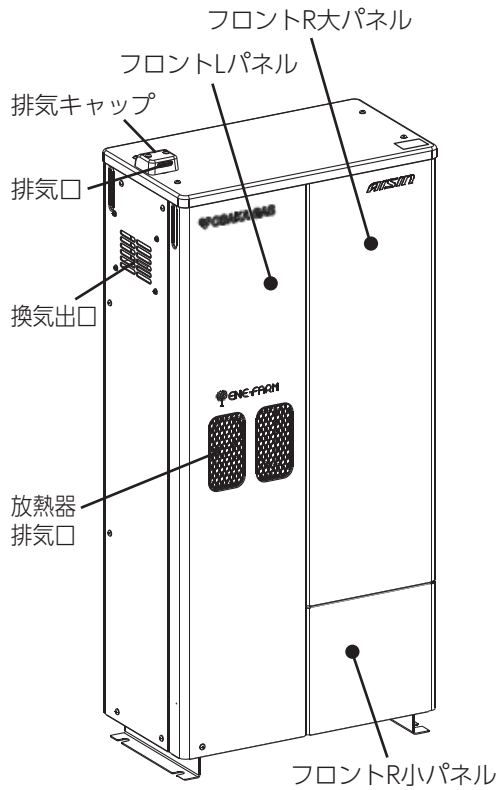
大阪ガス株式会社
(N)192-AS15
22041200001

安全ラベル

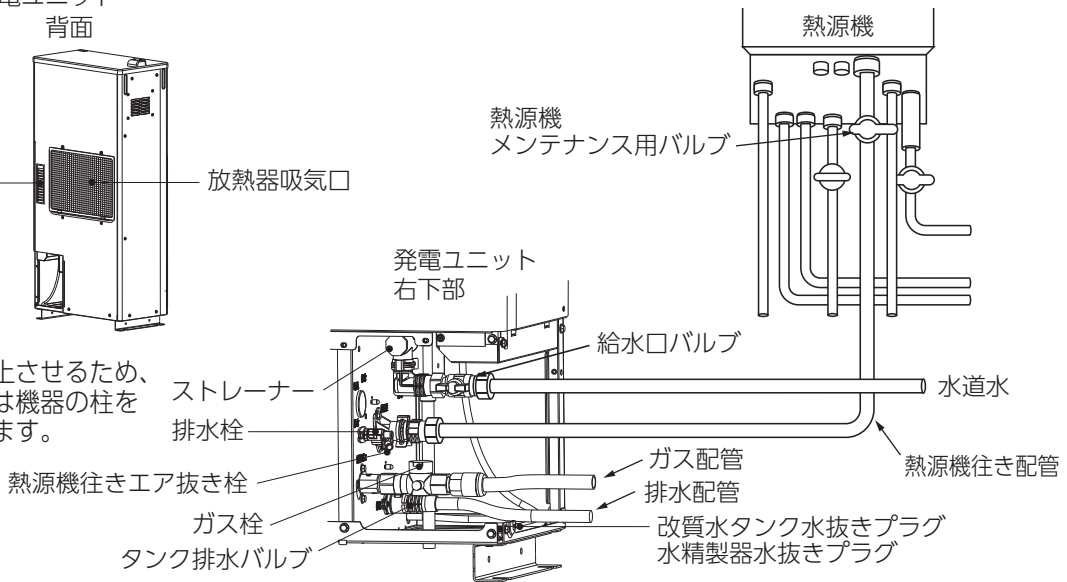
⚠ 警告																											
⚠ 火災のおそれあり	・発電ユニットの周りに燃やさない物を置かない。 ・発電ユニットの周りにスプレー缶を置かない。使用しない。 ・発電ユニットの周りに引火のおそれのある物を使用しない。																										
⚠ 窒息のおそれあり																											
⚠ 窒息のおそれあり	・発電ユニットを密閉空間に入れて燃焼時の状態にしない。 ・排気出口、排気口、排気口カバーを閉めない。 ・排気口付近で可燃物を燃やさない。																										
⚠ 感電のおそれあり																											
⚠ 感電のおそれあり	・発電ユニットを分解・修理・改造しない。																										
⚠ 注意																											
⚠ 汚損のおそれあり	・排気出口、排気口に物をかけない。 ・排気口を閉鎖して、発電ユニット内部に燃やさない。																										
⚠ けがのおそれあり	・発電ユニットの上に乗らない。 ・排気出口、排気口、排気口カバーに指や指輪など異物を入れない。																										
お読みください																											
・取扱説明書をよく読んで正しくご使用ください。 ・製品の取扱いに当たっては必ず取扱説明書をお読みください。 ・お買い上げ時にご確認ください。取扱説明書は必ずお読みください。 ・取扱説明書の記載事項を必ず守ります。取扱説明書に記載されていない事項は、必ず取扱説明書をお読みください。																											
<table border="1"> <tr> <th colspan="2">片式燃料電池発電システム</th> </tr> <tr> <td>製品規格</td> <td>片式燃料電池発電システム (FCM)</td> </tr> <tr> <td>型式</td> <td>FCM1000</td> </tr> <tr> <td>定格出力</td> <td>1.1kW</td> </tr> <tr> <td>定格電圧</td> <td>100/200V</td> </tr> <tr> <td>周波数</td> <td>50/60Hz</td> </tr> <tr> <td>設置条件</td> <td>屋外式 -10~43°C</td> </tr> <tr> <td>質量</td> <td>86kg</td> </tr> <tr> <td>使用圧力/低熱面積</td> <td>0.48MPa以下/0.17m²</td> </tr> <tr> <td>機種</td> <td>FCM1000</td> </tr> <tr> <td>製造番号</td> <td>22041200001</td> </tr> <tr> <td>製造年月</td> <td>2022-04</td> </tr> <tr> <td>製造者</td> <td>株式会社アイシン</td> </tr> </table>		片式燃料電池発電システム		製品規格	片式燃料電池発電システム (FCM)	型式	FCM1000	定格出力	1.1kW	定格電圧	100/200V	周波数	50/60Hz	設置条件	屋外式 -10~43°C	質量	86kg	使用圧力/低熱面積	0.48MPa以下/0.17m ²	機種	FCM1000	製造番号	22041200001	製造年月	2022-04	製造者	株式会社アイシン
片式燃料電池発電システム																											
製品規格	片式燃料電池発電システム (FCM)																										
型式	FCM1000																										
定格出力	1.1kW																										
定格電圧	100/200V																										
周波数	50/60Hz																										
設置条件	屋外式 -10~43°C																										
質量	86kg																										
使用圧力/低熱面積	0.48MPa以下/0.17m ²																										
機種	FCM1000																										
製造番号	22041200001																										
製造年月	2022-04																										
製造者	株式会社アイシン																										

装置銘板
(記載内容は一例です)

(N)192-AS15	
大阪ガス株式会社	
燃料電池発電ユニット	
種類	固体燃料電池形
型式	FCCS0702NJ
原燃料種	都市ガス 13A/12A
原燃料供給圧力	1.0~2.5kPa
定格原燃料消費量	1.30kW(1.44kW-HHV)
定格出力	0.7kW
定格電圧	100/200V
相数	単相3線式
周波数	50/60Hz
設置条件	屋外式 -10~43°C
質量	86kg
使用圧力/低熱面積	0.48MPa以下/0.17m ²
機種	FCCS0702NJ
製造番号	22041200001
製造年月	2022-04
製造者	株式会社アイシン



※視認性を向上させるため、イラストでは機器の柱を省略しています。



- この機器を安全に使用していただくために、機器には安全ラベルが貼ってあります。
- 安全ラベルを全て読んでからご使用ください。
- ラベルは、はっきり見えるようにきれいにしておいてください。

ご使用前の確認

ご使用前に次の確認を行ってください。

※ 長期間使用しない場合の水抜き後の起動は、専門のサービスマンによる試運転をご依頼ください。

参考 ・ エラー 67F00 が表示された場合は水抜き済みです。

■ 確認

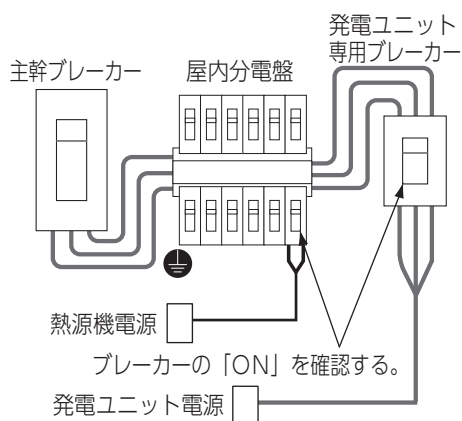
発電ユニット、熱源機周辺に異常がないことを確認します。
「安全のため必ず守ってください」(10 ページ) を参照願います。

1. 機器の周囲に可燃物および、障害物がないことを確認する
2. 機器の排気口、吸気口・換気出口が塞がれていないことを確認する
3. 据付金具が緩んでいないことを確認する
4. 発電ユニットに接続された分電盤内の発電ユニット専用ブレーカー(※) と熱源機に接続された屋内分電盤のブレーカーが「ON」になっていることを確認する(図1 参照)

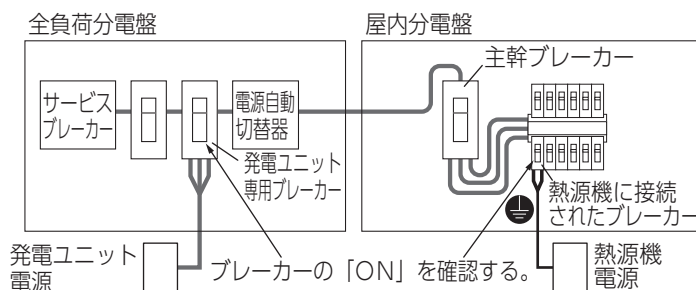
※ 停電時自立発電モデル(DC 出力仕様) の場合は全負荷用分電盤の発電ユニット専用ブレーカー

<図1>

〔自立〕 停電時自立発電モデル・標準モデル

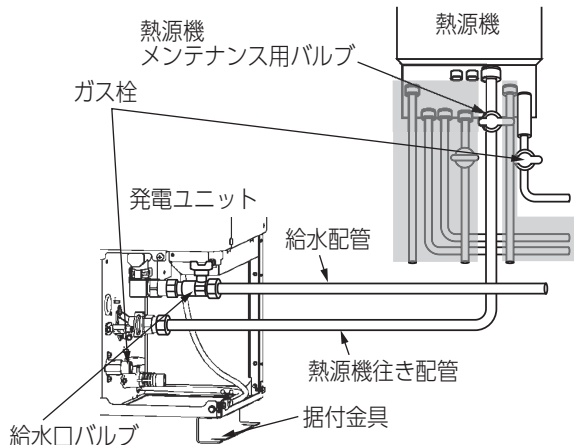


〔DC〕 停電時自立発電モデル(DC出力仕様)



5. 台所リモコンまたは発電リモコンにて日時設定、暗証番号設定が完了していることを確認する
確認方法は各リモコンの取扱説明書を参照してください。
6. 「■フロント R 小パネルの取り外し方法 (22 ページ)」を参照してフロント R 小パネルを取り外し、ガス栓、給水口バルブ、熱源機メンテナンス用バルブが開いていることを確認する(図2 参照)
確認後、「■フロント R 小パネルの取り付け方法 (22 ページ)」を参照してフロント R 小パネルを取り付けてください。

<図2>



※ 視認性を向上させるため、イラストでは機器の柱を省略しています。

この後は台所リモコン(本書のお客さまご使用リモコン)での操作を行い発電を行ってください。

ご使用前の確認

ご使用前の前に

発電

こんなときは

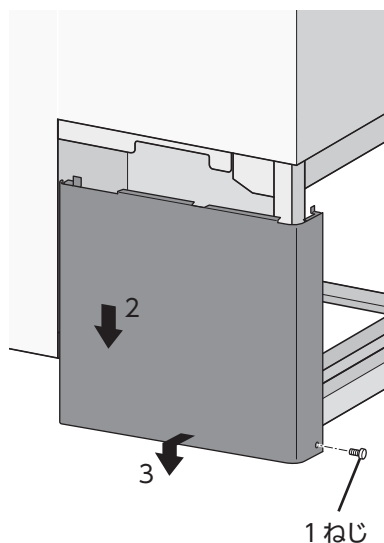
お手入れ

困ったときに

知っておいてください

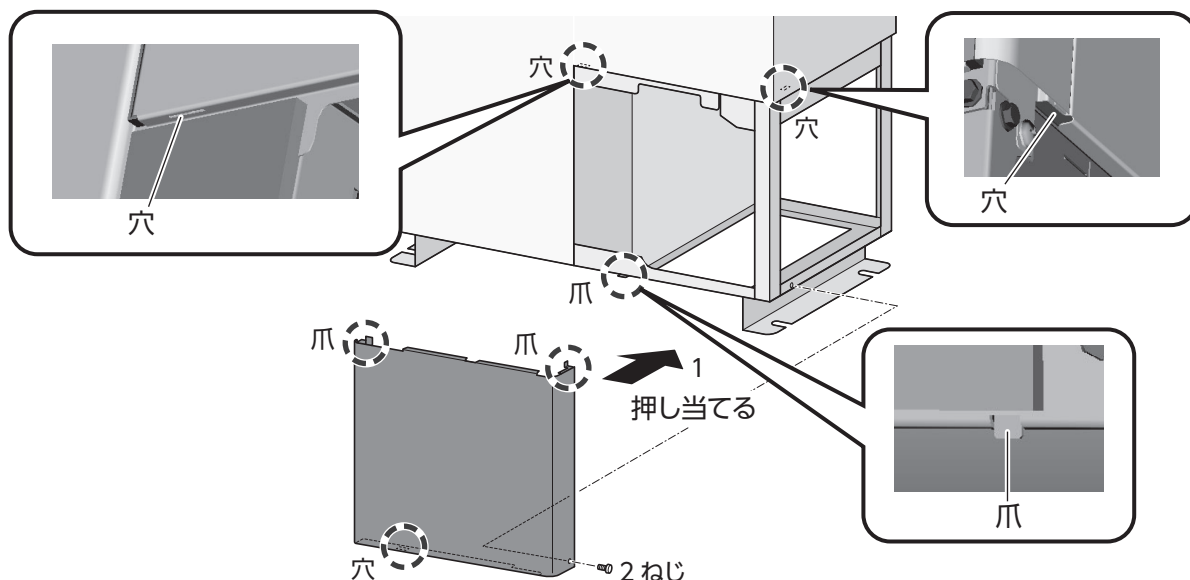
■ フロント R 小パネルの取り外し方法

1. フロント R 小パネル右側面下のねじを外す
2. フロント R 小パネルを下に数 mm スライドさせる
3. フロント R 小パネルの下端を手前に寄せながら下方向にスライドさせて取り外す



■ フロント R 小パネルの取り付け方法

1. 爪 (3箇所) をそれぞれの穴に差し込み、フロント R 小パネルを下から持ち上げながら取り付ける
2. フロント R 小パネル右側面下のねじを取り付ける



お願い

爪 (3箇所) がそれぞれの穴に差し込まれていることを確認してください。

リモコンについて

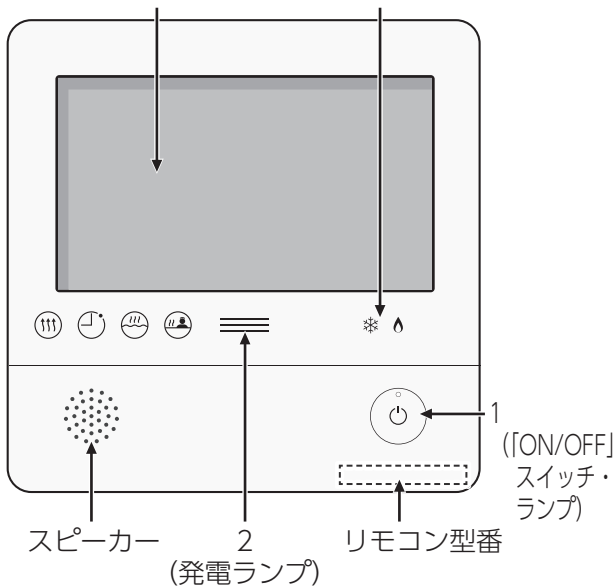
ここでは発電ユニットの運転・停止を行う以下のリモコンについて、その操作方法を説明します。
 停電時自立発電中の排湯については台所リモコンでは対応できません。
 その他のリモコンの詳細機能についてはリモコンの取扱説明書（リモコン操作編）を参照してください。

- リモコン A (台所リモコン)
- リモコン B (台所リモコン)
- リモコン C (台所リモコン)
- 発電リモコン

■ 各部のなまえとはたらき

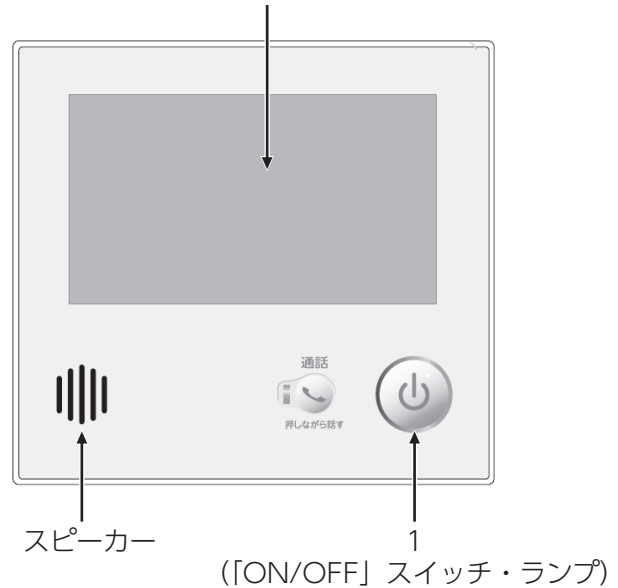
リモコン A

表示画面（タッチパネル） 3（凍結予防運転中マーク）



リモコン B

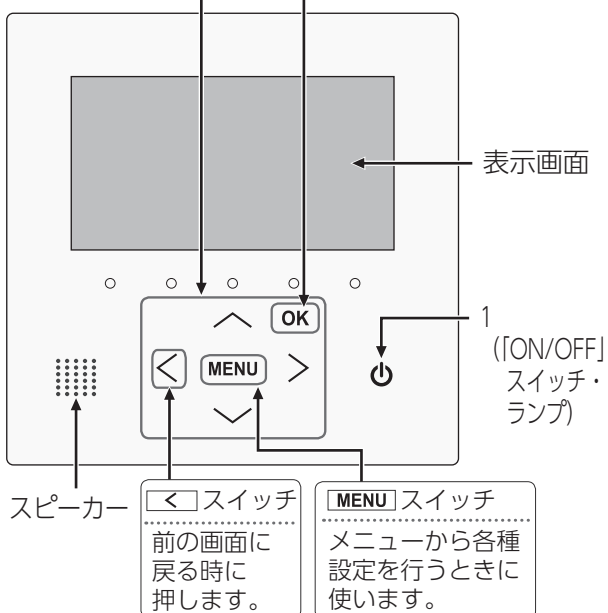
表示画面（タッチパネル）



リモコン C

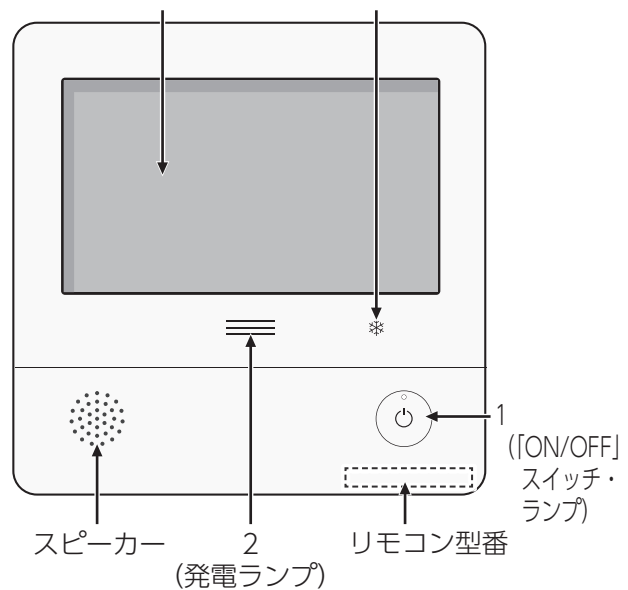
選択 < > スイッチ
 設定を変更するときに
 使います。

OK スイッチ
 設定を確定して
 終了するときに
 押します。



発電リモコン

表示画面（タッチパネル） 3（凍結予防運転中マーク）



リモコンについて

ご使用の前に

発電

こんなときは

お手入れ

困ったときに

知っておいてください

図番	名称	内容																					
1	「ON/OFF」スイッチ・ランプ	<ul style="list-style-type: none"> 熱源機の運転「入」「切」の操作に使用します。「入」でランプが点灯します。 画面を表示させたり消したりするときに使用します。 【発電リモコンのみ】 <ul style="list-style-type: none"> 画面を表示するとランプが点灯します。 不在停止中はランプが点滅します。 																					
2	発電ランプ リモコン A 発電リモコン のみ	<ul style="list-style-type: none"> 発電ユニットで発電中に点灯します。 現在の使用電力の状態を、色で表します。 <p>使用電力が多い</p> <table border="1"> <tr> <td>↑</td> <td>オレンジ色 (節電お知らせ)</td> <td>購入電力が増えています 節電してください。</td> </tr> <tr> <td>1.2kW</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>青色</td> <td>使用電力が少し増えて います。</td> </tr> <tr> <td>0.7kW</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>↓</td> <td>緑色</td> <td>発電ユニットの発電内で 上手に使用されています。</td> </tr> </table> <p>使用電力が少ない</p> <ul style="list-style-type: none"> 逆潮流の場合は、買電中か売電中かを表示します。 <table border="1"> <tr> <td></td> <td>オレンジ色 (節電お知らせ)</td> <td>使用電力が発電電力より 多いので買電しています。</td> </tr> <tr> <td></td> <td>青色</td> <td>使用電力が発電電力より 少ないので売電しています。</td> </tr> </table>	↑	オレンジ色 (節電お知らせ)	購入電力が増えています 節電してください。	1.2kW				青色	使用電力が少し増えて います。	0.7kW			↓	緑色	発電ユニットの発電内で 上手に使用されています。		オレンジ色 (節電お知らせ)	使用電力が発電電力より 多いので買電しています。		青色	使用電力が発電電力より 少ないので売電しています。
↑	オレンジ色 (節電お知らせ)	購入電力が増えています 節電してください。																					
1.2kW																							
	青色	使用電力が少し増えて います。																					
0.7kW																							
↓	緑色	発電ユニットの発電内で 上手に使用されています。																					
	オレンジ色 (節電お知らせ)	使用電力が発電電力より 多いので買電しています。																					
	青色	使用電力が発電電力より 少ないので売電しています。																					
3	凍結予防運転中マーク リモコン A 発電リモコン のみ	【リモコン A のみ】 凍結予防のために給湯機器のポンプが作動しているとき（熱源機の取扱説明書）や、発電ユニットのヒーターが作動しているときに点灯します。 【発電リモコンのみ】 凍結予防のために発電ユニットのヒーターが作動しているときに点灯します。																					

■ 基本操作

リモコン A 発電リモコンの場合

- このリモコンの表示画面は、指でタッチするとスイッチ操作ができます。
- 圧力を感知するタイプのタッチパネルです。ある程度の力で確実にタッチしてください。
- 「ON/OFF」スイッチや画面を押さないまま約 10 分（初期設定時間）経つと表示が消えます。

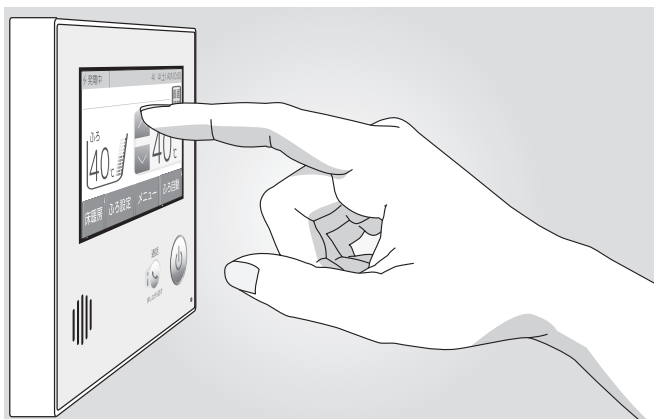
表示がグレーになっている部分は、タッチしてもスイッチ操作できません。



※説明中のリモコン表示画面は一例です。
実際の表示画面は、設置状態や使用状況によって異なります。

リモコン B の場合

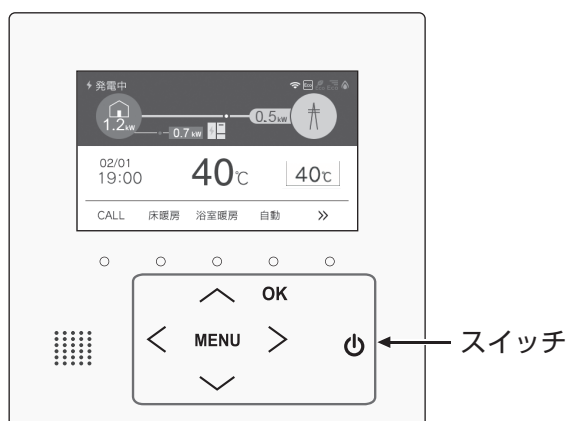
- このリモコンの表示画面は、指でタッチするとスイッチ操作ができます。
- 圧力を感知するタイプのタッチパネルです。ある程度の力で確実にタッチしてください。



※説明中のリモコン表示画面は一例です。
実際の表示画面は、設置状態や使用状況によって異なります。

リモコン C の場合

- このリモコンはスイッチを指でタッチして操作します。

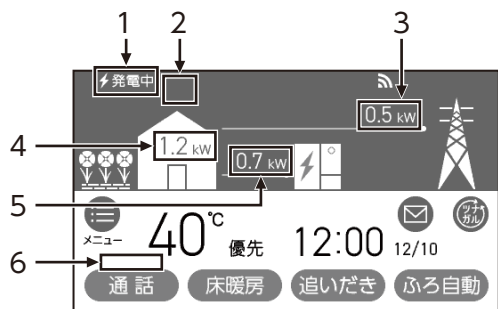


※説明中のリモコン表示画面は一例です。
実際の表示画面は、設置状態や使用状況によって異なります。

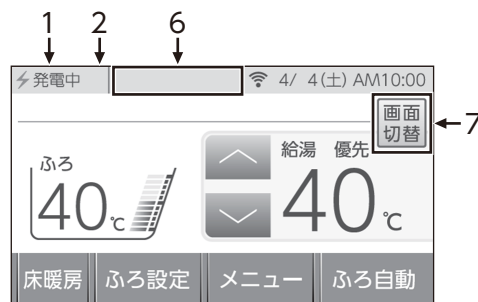
リモコンについて

■ 台所リモコン画面（トップ画面）

リモコン A

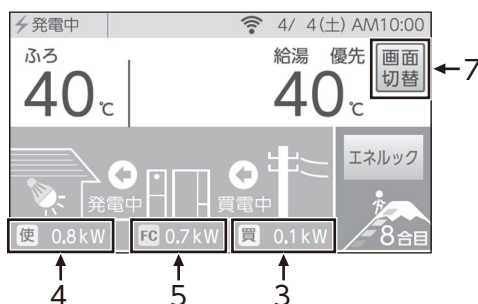


リモコン B



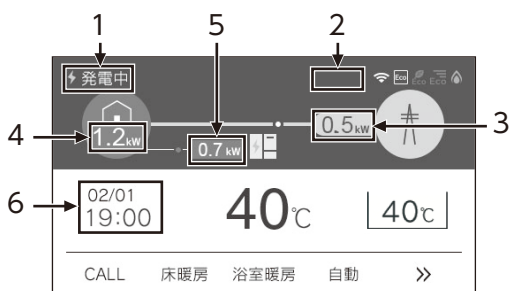
<給湯トップ画面>

画面切替

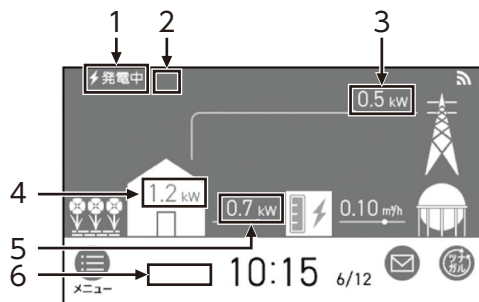


<エネルギートップ画面>

リモコン C

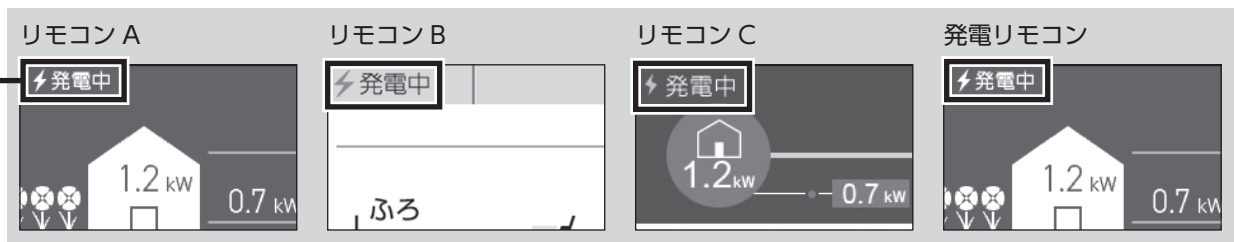


発電リモコン



図番	名称	内容
1	発電状況表示	現在の発電状況を表示します。(詳細は 27 ページを参照してください)
2	発電モードマーク	発電ユニットの運転状況を表します。(詳細は 28 ページを参照してください)
3	購入電力	現在の購入電力量を表示します。
4	消費電力	現在、使用している電力量を表示します。
5	発電電力	現在の発電量を表示します。
6	エラー表示	エラーを表示します。(詳細は 88 ページを参照してください) 【リモコン C のみ】 時刻表示に代わり、エラー表示を行います。
7	画面切り替え	給湯トップ画面とエネルギートップ画面の表示を切り替えます。

① 発電状況表示の見かた (下図は画面上部を拡大してます)
現在の発電状態や、発電の設定を表示します。



⚡ 発電中

リモコン A	リモコン B	リモコン C	発電リモコン	内容
⚡ (点灯)	⚡ (点灯)	⚡ (黄色点灯)	⚡ (点灯)	発電しています
⚡ (点滅)	⚡ (点滅) 表示部が回転	⚡ (黄色点滅)	⚡ (点滅)	起動中 (発電準備中) です
⚡ ↔ ⚡ (交互表示)	⊖	⚡ ↔ ⚡ (交互表示)※2	⚡ ↔ ⚡ (交互表示)	発電停止の動作中です
↓ ↔ ↓ (交互表示)	—	↓ ↔ ↓ (交互表示)※2	↓ ↔ ↓ (交互表示)	(電気使用量が少ない状態が続いたため) 発電停止の動作中です※1
↓ (点灯)	—	↓ (黄色点灯)	↓ (点灯)	(電気使用量が少ない状態が続いたため) 発電ユニットは停止しています※1
—	⏸	—	—	(電気使用量が少ない状態が続いたため) 発電ユニットは発電停止の動作中または停止しています※1
(表示なし)	(表示なし)	(表示なし)	(表示なし)	発電ユニットは停止しています

※1 電気使用量が少ない状態が続くと、発電が停止するしくみになっています。

※2 黄色と灰色が交互に表示します。

⚡ 発電中

	リモコン A	リモコン B	リモコン C	発電リモコン	内容
	発電中	発電中	発電中	発電中	発電しています
	起動中	起動中	起動中	起動中	起動中 (発電準備中) です
	停止中	停止中	停止中	停止中	発電停止の動作中です
	(表示なし)	(表示なし)	(表示なし)	(表示なし)	発電ユニットは停止しています
	発電禁止	⊘ 禁発電	発電禁止	発電禁止	発電を強制的に禁止しています
	発電 ×	⊗ 発電	発電 ×	発電 ×	発電ユニットが使用できない場合に表示します
	出力抑制	出力抑制	出力抑制	出力抑制	機器の保護のため、発電ユニットの出力を抑えています
	不在停止	—	—	不在停止	発電を停止しています
逆流の場合	電圧抑制※1	電圧抑制※1	電圧抑制※1	電圧抑制※1	発電ユニットの出力を一時的に抑えています
	売電中	売電中	売電中	売電中	発電した電力を売電しています
停電時の場合	自立 ↔ 自立 (交互表示)	自立	自立 ↔ 自立 (交互表示)※2	自立 ↔ 自立 (交互表示)	停電時自立発電しています
	自立・高 ↔ 自立・高 (交互表示)	自立・高	自立・高 ↔ 自立・高 (交互表示)※2	自立・高 ↔ 自立・高 (交互表示)	高出力設定 (56 ページ) で停電時自立発電しています (停電時自立発電モデルのみ)

※1 自宅につながれている送電線の系統の電圧が高くなりすぎたとき、発電ユニット側の電圧が上限値を超えないよう、発電ユニットの出力を抑えます。電圧が正常範囲に戻ると、この機能は自動的に解除されます。

※2 黄色と灰色が交互に表示します。

リモコンについて

② 発電モードマークの見かた（下図は画面上部を拡大してます）



リモコン A	リモコン B	リモコン C	発電リモコン	マークの名前
				タンクリフレッシュ運転マーク
				ガスマイコンメーター確認マーク
—			—	凍結防止マーク
				ヒーター給湯モードマーク

※Hマークは画面左上に表示します。（26ページ図番1の箇所）

■ マークの説明

マークの名前	内容
タンクリフレッシュ運転マーク	長時間お湯の使用がなかったときなどに、貯湯タンク内の水質を維持するための運転をしています。
ガスマイコンメーター確認マーク	<ul style="list-style-type: none"> お客さま宅のガスマイコンメーターの保安機能を正常に作動させるため、発電ユニットは 26 日間連続して発電すると、27 日目の 2 時より 7～9 時間停止します。この機能により停止している間は、この表示が出ます。 <p>参考</p> <p>発電中に停電となった場合は、発電停止予定日が来ても発電ユニットは発電を続け、停電復旧後の発電停止時刻（22時）に停止となります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ リモコン A・リモコン B・リモコン C の場合 この表示が出た場合、午前 2 時から発電ユニットの起動開始（午前 5 時から 7 時の間）の間で最低 70 分間以上同時にすべてのガス機器（給湯・床暖房・ガスコンロ等）のご使用を停止してください。（トップ画面上に以下を表示して、経過を表示します） <ul style="list-style-type: none"> リモコン A： リモコン B： リモコン C： ※ 連続で 70 分間以上停止しただけなかった場合は、「ガスマイコンメーター確認マーク」に加えて [01900] を表示し、停止を継続します。この場合は、「エラー発生時の処置方法」（86 ページ）を参照し、処置を行ってください。 ◆ 発電リモコンの場合 この表示が出た場合、午前 2 時から発電ユニットの起動開始（午前 5 時から 7 時の間）の間で最低 70 分間以上同時にすべてのガス機器（給湯・床暖房・ガスコンロ等）のご使用を停止してください。 ※ 連続で 70 分間以上停止しただけなかった場合は、ガスマイコンメーターがガス漏れと誤警報（ガスマイコンメーター本体のランプが点滅）する場合があります。
凍結防止マーク	機器は凍結予防のために自動的に凍結予防運転をします。その動作中に表示されます。
ヒーター給湯モードマーク	点滅はヒーターにてタンク内を昇温していることを表しています。点灯は昇温が完了していることを表しています。

発電について

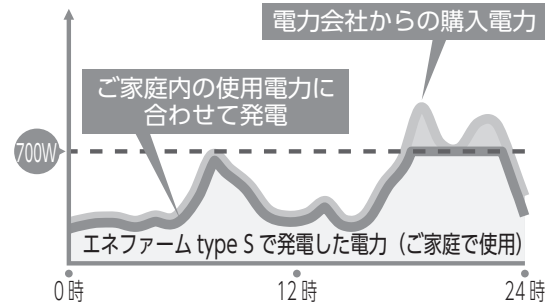
- 発電ユニットは、運転開始から発電に至るまでに約 4 ～ 5 時間、発電を停止してから装置が停止するまでに約 3 ～ 5 時間かかります。(いずれの時間も気温や発電ユニットの状態により変化します)
- 発電ユニットは、27 日サイクルで 24 時間連続発電しますが、発電パターンは「逆潮流なし運転」と「逆潮流あり運転」の 2 パターンあります。

■ 1 日の運転イメージ例 (実際の運転はご家庭ごとに異なります)

● 逆潮流なし運転

ご家庭の電力需要に合わせて自動的に 50W ～ 700W の範囲で発電し、不足分は電力会社から供給される電気を使用します。

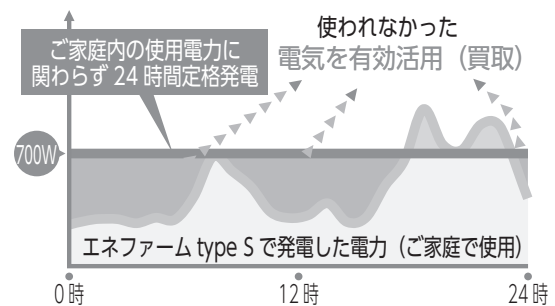
※ご家庭内の使用電力が 85W 未満のときは、発電出力が 0W のアイドリング運転になります。



● 逆潮流あり運転

ご家庭の電力需要に関係なく、定格出力 (最大 700W) で発電し、余剰となった電力は、大阪ガスまたは発電ユニットからの電力の買い取りを実施する事業者さまが買い取ります。

※逆潮流有無は、ご購入時にお客さまに選択していただき、施工業者が設定いたします。お客さまご自身で設定変更はできませんのでご了承ください。設定変更をご希望されるお客さまは、販売店またはもよりの大阪ガスまでご相談ください。(別途費用がかかります)



ご使用の前に

発電

こんなときは

お手入れ

困ったときに

知っておいてください

発電について

■ ガスマイコンメーターがガス漏れの有無を確認するために一時的に停止させるとき

ガスマイコンメーターには、30日以上連続してガスが流れ続けた場合、ガス漏れの疑いがあると判断し、警報ランプが点滅する機能があります。発電ユニットが発電し続けると、この機能によりガスマイコンメーターがガス漏れと誤判断し、警報ランプが点滅してしまいます。誤判断を防止し、この機能を正常に動作させるために、発電ユニットが26日間連続して運転した場合、27日目に約7～9時間停止する仕組みとなっています。その停止期間中はリモコンにMマークが表示されます。

(発電ユニットは自動で運転を再開します)

ガスマイコンメーターの警報ランプの点滅を発見された場合は、ガス供給事業者に連絡してください。

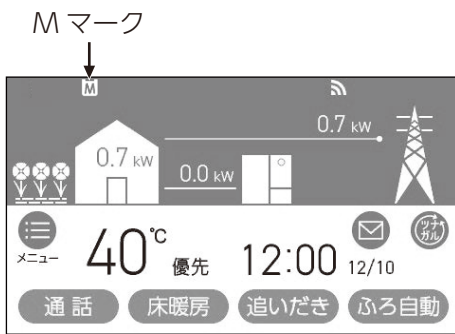


連続で70分間、ガスの使用を停止してください

※停止予定日までに24時間以上の停止があった場合は、サイクルはリセットされて運転再開時がサイクルのスタートとなります。

(2世帯設定でご利用されているお客さまは除く)

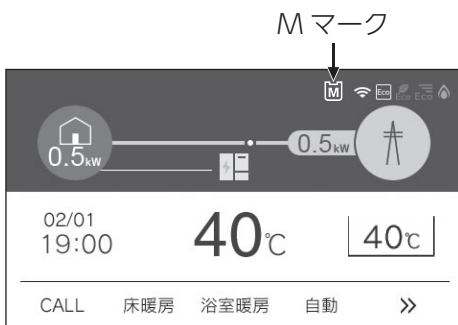
リモコン A



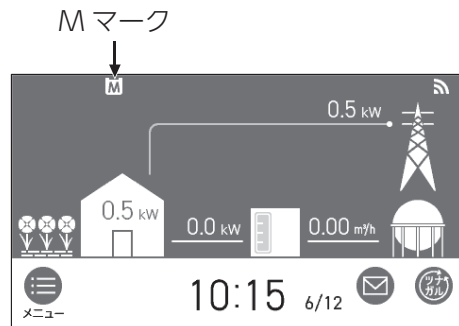
リモコン B



リモコン C



発電リモコン



発電ユニットが自動停止する場合

下記の場合は、「ガスマイコンメーターがガス漏れの有無を確認するために一時的に停止させるとき」に関係なく発電が停止します。

■ 不在停止機能が作動したとき

リモコンA リモコンB リモコンCの場合

リモコンの操作または、お湯・暖房が連続して10日以上使用されなかったときは、自動的に不在と判断して発電を中止し、発電ユニットを停止させます。

発電リモコンの場合

リモコンの操作または、給湯栓からお湯（水）が連続して10日以上使用されなかったときは、自動的に不在と判断して発電を中止し、発電ユニットを停止させます。

■ 機器保護運転停止をしているとき

夏季に外気温度が高いときや、発電ユニットの周囲に熱が滞留している場合、電気使用・お湯使用が少ないとき等に、機器保護のため停止することがあります。この場合、リモコンにエラーコード [03F00]、[03F07]、[08F00] を表示することもあります。故障ではありません。（停止後は自動で運転を再開しますので、操作は必要ありません）

■ 故障診断をしているとき

リモコンに [セルフチェックを実施しています] を表示し、一定時間停止したままの場合があります。（停止後は自動で運転を再開しますので、操作は必要ありません）

発電について

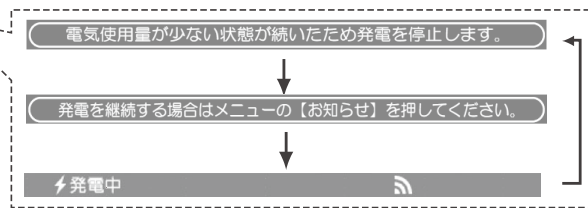
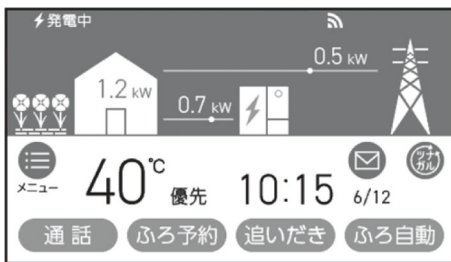
発電ユニットが自動停止する場合 (つづき)

■ 電気使用量が少ない状態が続いたとき

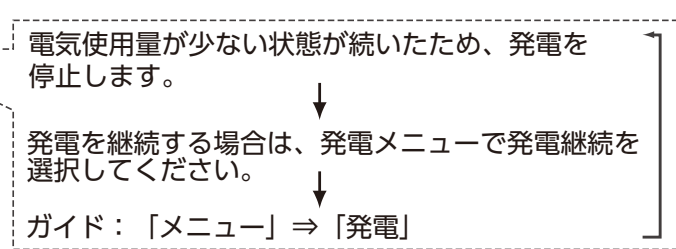
当月の電気使用量が少ない場合は、毎月末日、リモコンのトップ画面にメッセージが 24 時間表示され、翌月 (1 か月間) は自動停止します。

- 翌月も発電を継続したい場合は、「■ 翌月も発電を継続する」(40 ページ参照) を実施してください。
- 自動停止後発電ユニットを起動したい場合は、「■ 発電の再開をする」(38 ページ参照) を実施してください。
- 自動停止中の電気使用量が多くなった場合は、翌月より自動で再起動します。

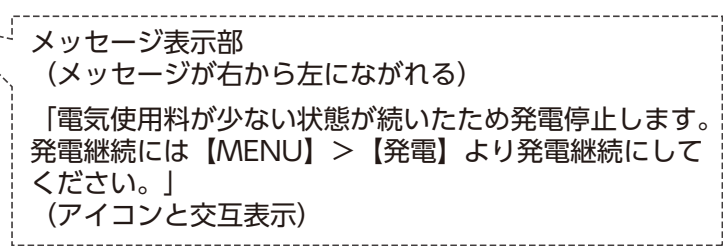
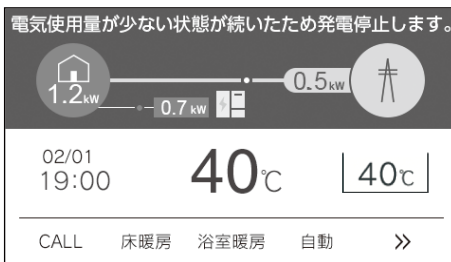
リモコン A



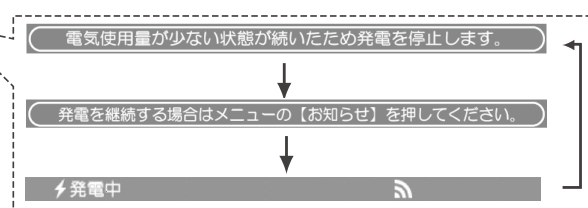
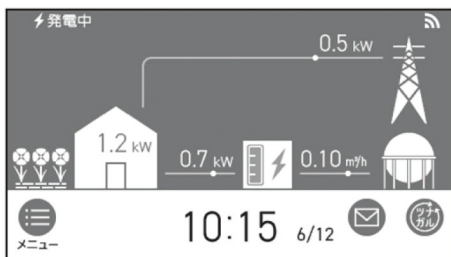
リモコン B



リモコン C



発電リモコン



発電ユニットが発電出力を下げる場合

下記の場合は、発電パターン（逆潮流なし・逆潮流あり）に関係なく発電出力を下げます。

■ 機器保護運転をしているとき

- 夏季に外気温度が高いときや、発電ユニットの周囲に熱が滞留している場合、電気使用・お湯使用が少ないとき等に、機器保護のため発電出力を自動的に下げ、リモコンの発電状況表示に [出力抑制] を表示する場合があります。
- 発電出力が低出力から急に高出力に切り替わった場合は、発電出力を自動的に下げる場合があります。
- ご家庭の消費電力変動が著しく大きい状態が継続する場合、機器保護のため発電出力を下げる場合があります。
- 発電ユニットの内部センサーの補正動作のため、稀に発電出力を数分間 0W に下げる場合があります。
- 自宅につながれている送電線の系統の電圧が高くなりすぎたとき、発電ユニット側の電圧が上限値を超えないように、リモコンの左上に [電圧抑制] を表示して発電ユニットの出力を抑えます。電圧が正常範囲に戻ると、この機能は自動的に解除されます。

■ 経年劣化したとき

- ご使用による経年劣化により、ある程度の発電出力が低下します。

下記の場合は、発電パターン（逆潮流あり）で発電出力を下げる場合があります。

■ インターネットを通じて外部から遠隔制御された場合

- 発電ユニットは、インターネットを通じた遠隔制御が可能となっています。「遠隔制御サービス」等に加入されている場合は、インターネットを通じた遠隔制御で発電出力を下げる可能性があります。

発電をする

※ 起動には約 4 ～ 5 時間かかります。(時間は気温や発電ユニットの状態によって異なります)
停止動作中に発電操作を行った場合は、停止動作 (約 3 ～ 5 時間) 完了後に起動します。

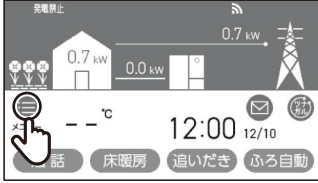
■ 発電禁止を解除し発電をする

「発電禁止」(42 ページ) で停止しています。以下操作で「発電禁止」を解除してください。

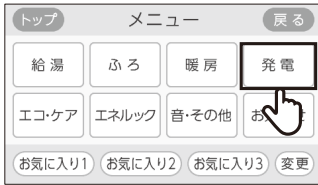
リモコン A

発電禁止となっている場合、画面左上に「発電禁止」と表示されます。

1. トップ画面より [メニュー] をタッチする



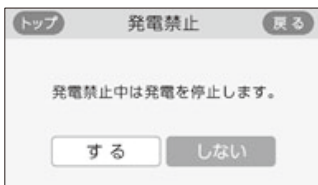
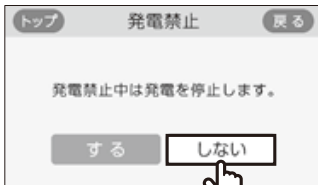
2. メニュー画面より [発電] をタッチする



3. 発電画面より [発電禁止] をタッチする
表示されていない場合は、▼でページを送ってください。



4. 発電禁止画面より [しない] をタッチする
発電禁止画面が [しない] に変わります。



※ トップ画面に、戻すには「トップ」を押してください

リモコン B

発電禁止となっている場合、画面左上に「禁発電」と表示されます。

1. トップ画面より [メニュー] をタッチする



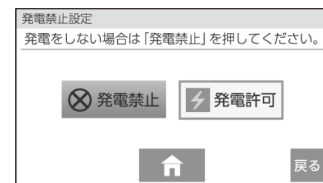
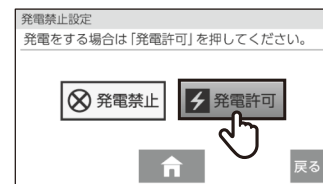
2. メニュー画面より [発電] をタッチする



3. 発電メニュー画面より [発電禁止] をタッチする



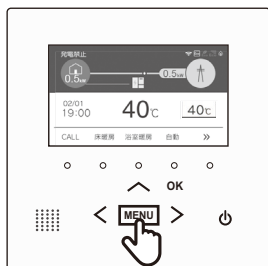
4. 発電禁止画面より [発電許可] をタッチする
表示が [発電許可] に変わり、発電ユニットが起動をはじめます。



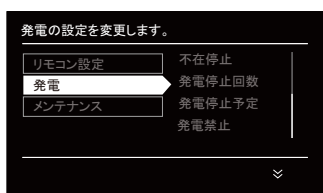
リモコンC

発電禁止となっている場合、画面に「発電禁止」と表示されます。

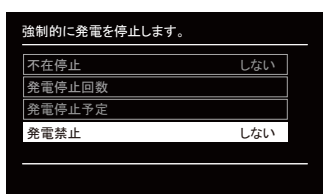
1. 「MENU」スイッチを押す



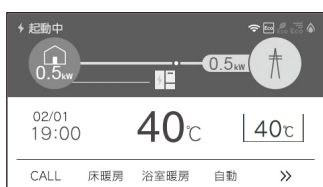
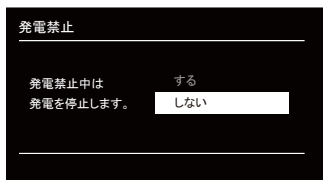
2. へまたは▽で「発電」を選択し、または「OK」を押す



3. へまたは▽で「発電禁止」を選択し、または「OK」を押す



4. ▽を押し、「しない」を選択して「OK」を押す
トップ画面の発電状況表示部が「起動中」に変わり、発電ユニットが起動をはじめます。

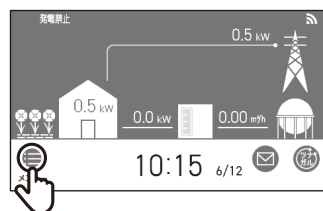


※発電ユニットが停止動作完了後でなかった場合は、表示は「停止中」と表示します。この場合は停止動作完了後に「起動中」に切り替わります。

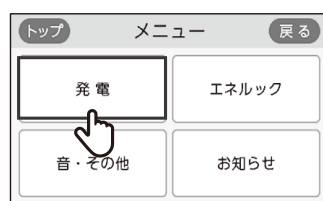
発電リモコン

発電禁止となっている場合、画面左上に「発電禁止」と表示されます。

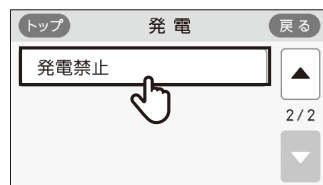
1. トップ画面より「メニュー」をタッチする



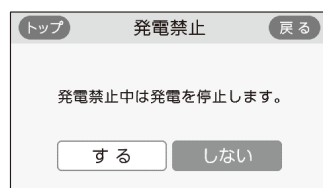
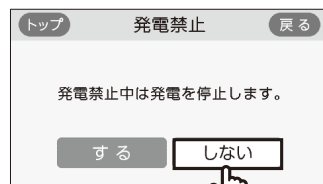
2. メニュー画面より「発電」をタッチする



3. 発電画面より「発電禁止」をタッチする
表示されていない場合は、▼でページを送ってください。



4. 発電禁止画面より「しない」をタッチする
発電禁止画面が「しない」に変わります。



※トップ画面に、戻すには「トップ」を押してください。

発電をする

■ 不在停止を解除し発電をする

リモコン A

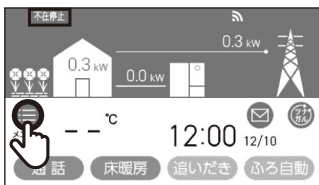
画面をタッチしたとき、画面左上に「不在停止」が表示されます。

「不在停止」(44 ページ) で停止しています。リモコンの「ON/OFF」スイッチの「ON」操作で「不在停止」を解除してください。

※以下の操作でも「不在停止」が解除されます。

- 1) 熱源機による暖房運転。
- 2) 不在停止設定後の経過時間が 5 時間以上のときの、リモコン表示画面タッチ。
- 3) 不在停止設定後の経過時間が 5 時間未満のときの、メニュー画面からの解除操作。
(以下手順を参照)

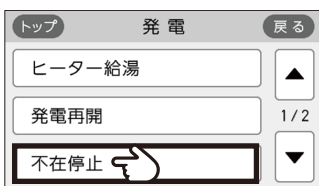
3) -1. トップ画面より [メニュー] をタッチする



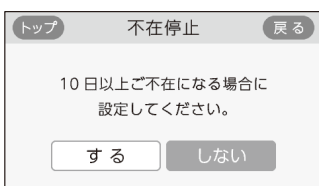
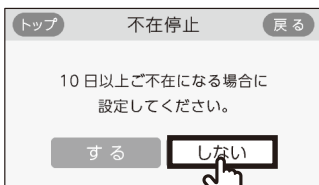
3) -2. メニュー画面より [発電] をタッチする



3) -3. 発電画面より [不在停止] をタッチする



3) -4. 不在停止画面より [しない] をタッチする 不在停止画面が [しない] に変わります。



※トップ画面に、戻すには「トップ」を押してください

リモコン B

「不在停止」(44 ページ) で停止しています。リモコンの「ON/OFF」スイッチの「ON」操作で「不在停止」を解除してください。

※以下の操作でも「不在停止」が解除されます。

- 1) 熱源機による暖房運転。
- 2) 不在停止設定後の経過時間が 5 時間以上のときの、リモコン表示画面タッチ。
- 3) 不在停止設定後の経過時間が 5 時間未満のときの、メニュー画面からの解除操作。
(以下手順を参照)

3) -1. トップ画面より [メニュー] をタッチする



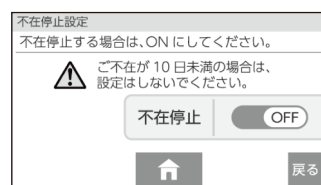
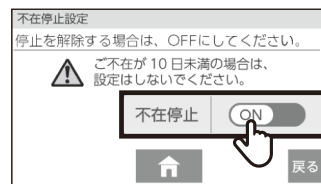
3) -2. メニュー画面より [発電] をタッチする



3) -3. 発電メニュー画面より [不在停止] をタッチする



3) -4. 不在停止設定画面より [ON] をタッチする 表示が [OFF] に変わり、発電ユニットが起動をはじめます。



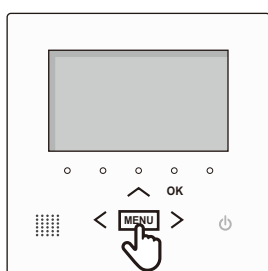
リモコンC

「不在停止」(44 ページ) で停止しています。
リモコンの「ON/OFF」スイッチの「ON」操作で「不在停止」を解除してください。

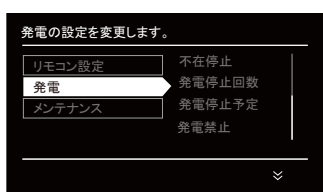
※以下の操作でも「不在停止」が解除されます。

- 1) 熱源機による暖房運転。
- 2) 不在停止設定後の経過時間が5時間以上のときの、リモコンのスイッチ(全てのスイッチに対応)操作。
- 3) 不在停止設定後の経過時間が5時間未満のときの、MENU 画面からの解除操作。
(以下手順を参照)

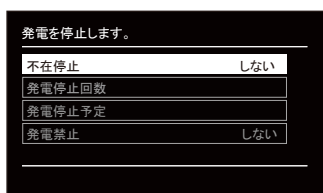
3) -1. 「MENU」スイッチを押す



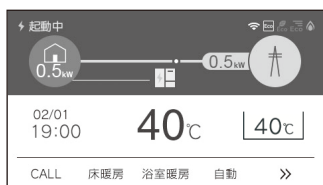
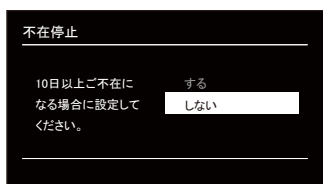
3) -2. へまたは∨で「発電」を選択し>または「OK」を押す



3) -3. へまたは∨で「不在停止」を選択し>または「OK」を押す



3) -4. ∨を押し、「しない」を選択して「OK」を押す トップ画面の発電状況表示部が「起動中」に変わり、発電ユニットが起動をはじめます。



発電リモコン

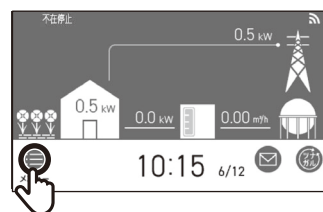
画面をタッチしたとき、画面左上に「不在停止」が表示されます。

「不在停止」(44 ページ) で停止しています。
リモコンの「ON/OFF」スイッチの「ON」操作で「不在停止」を解除してください。

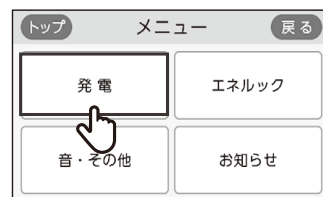
※以下の操作でも「不在停止」が解除されます。

- 1) 不在停止設定後5時間以上経過している場合
リモコンの液晶画面をタッチ、またはリモコンの「ON/OFF」スイッチをONします。
- 2) 不在停止設定後5時間未満の場合
メニュー画面から再開操作をします。
(以下手順を参照)

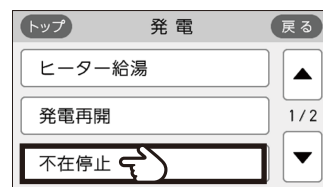
2) -1. トップ画面より「メニュー」をタッチする



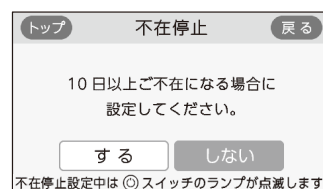
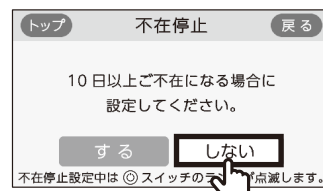
2) -2. メニュー画面より「発電」をタッチする



2) -3. 発電画面より「不在停止」をタッチする



2) -4. 不在停止画面より「しない」をタッチする 不在停止画面が「しない」に変わります。



※トップ画面に、戻すには「トップ」を押してください。

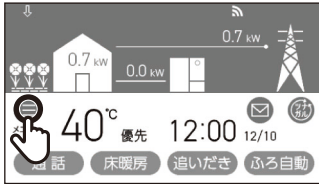
発電をする

■ 発電の再開をする

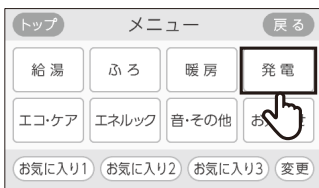
「■ 電気使用量が少ない状態が続いたとき」(32 ページ) で停止しています。
停止中は画面左上に「⏏」が表示されます。
以下操作で「発電再開」してください。

リモコン A

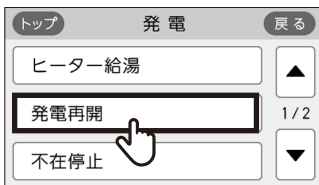
1. トップ画面より [メニュー] をタッチする



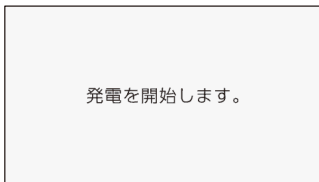
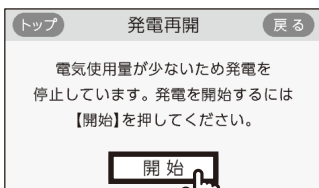
2. メニュー画面より [発電] をタッチする



3. 発電画面より [発電再開] をタッチする



4. 発電再開画面より [開始] をタッチする
「発電を開始します」と画面に表示され、発電ユニットが起動をはじめます。



リモコン B

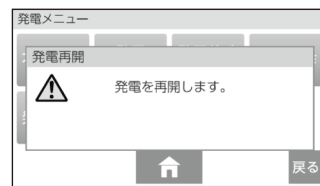
1. トップ画面より [メニュー] をタッチする



2. メニュー画面より [発電] をタッチする

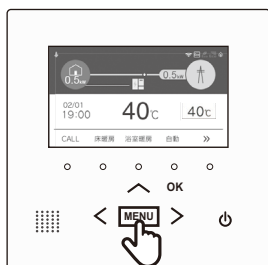


3. 発電メニュー画面より [発電再開] をタッチする
「発電を再開します。」と画面に表示されます。
(5秒程度)
トップ画面に移行し、発電ユニットが起動をはじめます。

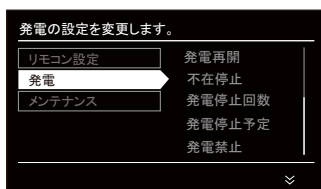


リモコン C

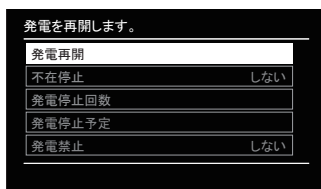
1. 「MENU」スイッチを押す



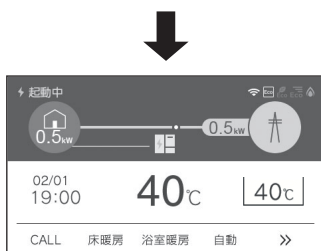
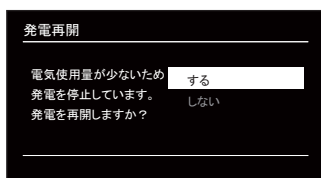
2. へまたは∨で「発電」を選択し、>または「OK」を押す



3. へまたは∨で「発電再開」を選択し、>または「OK」を押す

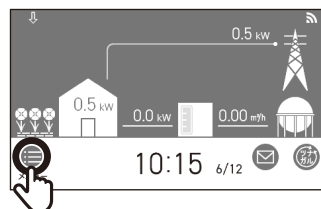


4. へを押し、「する」を選択して「OK」を押す
トップ画面の発電状況表示部が「起動中」に変わり、発電ユニットが起動をはじめます。

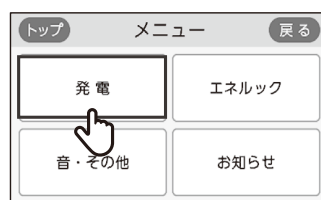


発電リモコン

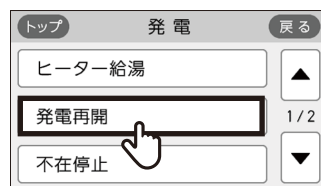
1. トップ画面より「メニュー」をタッチする



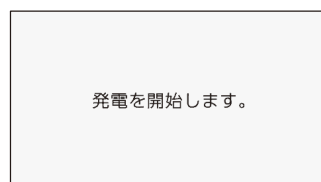
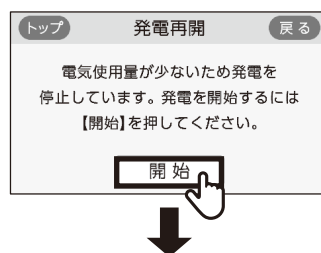
2. メニュー画面より「発電」をタッチする



3. 発電画面より「発電再開」をタッチする



4. 発電再開画面より「開始」をタッチする
「発電を開始します」と画面に表示され、発電ユニットが起動をはじめます。



発電をする

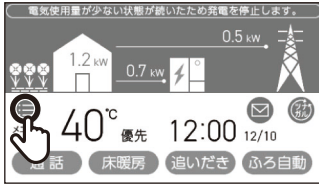
■ 翌日も発電を継続する

電気使用量が少ない状態が続いたため（32 ページ）、もうすぐ発電を停止しようとしています。以下操作で発電を継続できます。

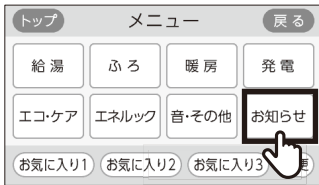
リモコン A

画面上部に「電気使用量が少ない状態が続いたため、発電を停止します。発電を継続する場合はメニューの【お知らせ】を押してください。」が表示されます。

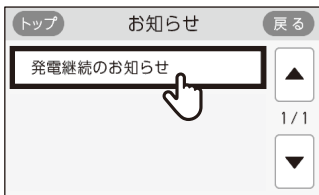
1. トップ画面より [メニュー] をタッチする



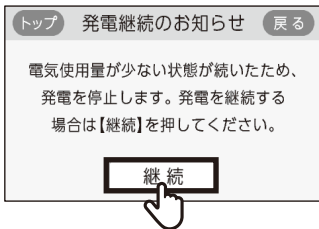
2. メニュー画面より [お知らせ] をタッチする



3. お知らせ画面より [発電継続のお知らせ] をタッチする



4. 発電継続のお知らせ画面より [継続] をタッチする
画面が手順 3 に戻り翌日も発電が継続されます。



リモコン B

画面上部に「電気使用量が少ない状態が続いたため、発電停止を継続します。発電を再開する場合は、発電メニューで発電再開を選択してください。」が表示されます。

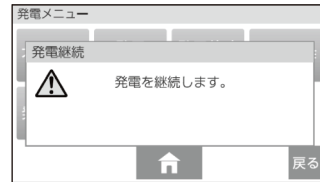
1. トップ画面より [メニュー] をタッチする



2. メニュー画面より [発電] をタッチする



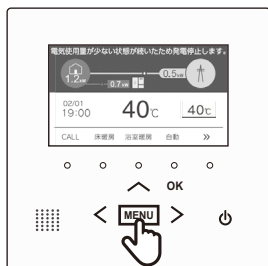
3. 発電メニュー画面より [発電継続] をタッチする
「発電を継続します。」と画面に表示されます。
(5秒程度)
トップ画面に移行し、翌日も発電を継続します。



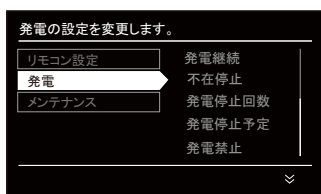
リモコン C

画面上部に「電気使用量が少ない状態が続いたため発電停止します。発電継続には【MENU】>【発電】より発電継続にしてください。」が表示されます。

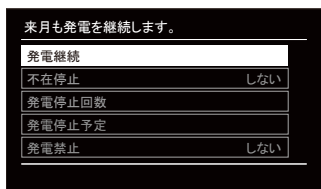
1. 「MENU」スイッチを押す



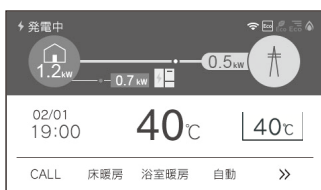
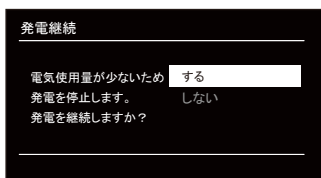
2. へまたは∨で【発電】を選択し、または「OK」を押す



3. へまたは∨で【発電継続】を選択し、または「OK」を押す



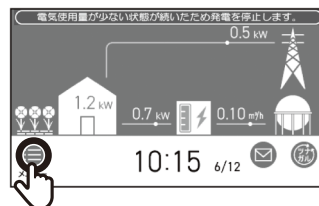
4. へを押し、「する」を選択して「OK」を押す トップ画面に移行し、メッセージ表示が消え翌月も発電を継続します。



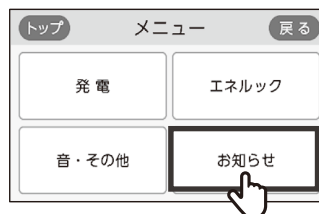
発電リモコン

画面上部に「電気使用量が少ない状態が続いたため、発電を停止します。発電を継続する場合はメニューの【お知らせ】を押してください。」が表示されます。

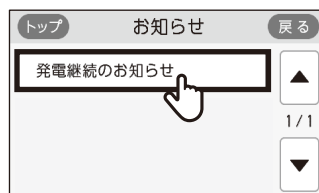
1. トップ画面より【メニュー】をタッチする



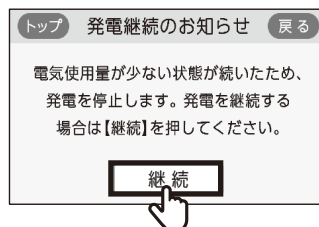
2. メニュー画面より【お知らせ】をタッチする



3. お知らせ画面より【発電継続のお知らせ】をタッチする



4. 発電継続のお知らせ画面より【継続】をタッチする 画面が手順 3 に戻り翌月も発電が継続されます。



発電を止める

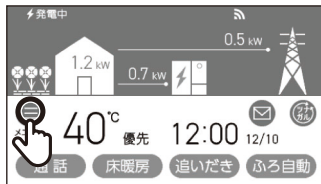
機器を保護するために発電停止の動作（「停止中」表示）を約3～5時間行ってから停止します。（時間は気温や発電ユニットの状態によって異なります）停止動作中に起動操作を行った場合停止動作完了後、起動します。

※お客さまの手動操作により、頻繁に起動操作・停止操作（発電禁止・不在停止）を繰り返すと故障の原因になるおそれがあり、保証の対象外になる場合があります。機器の耐久性維持のため、停止操作のご使用は10回/年までを目安とし、不在停止操作は10日以上不在にされる場合にご使用ください。

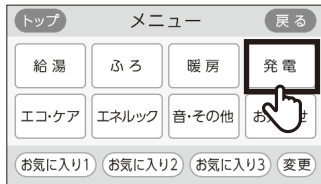
■ 機器の水抜きをするときなど、強制的に発電を停止させたいとき（発電禁止）

リモコン A

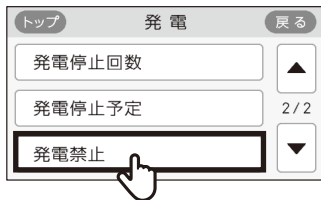
1. トップ画面より [メニュー] をタッチする



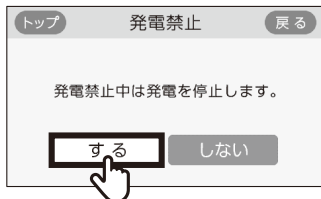
2. メニュー画面より [発電] をタッチする



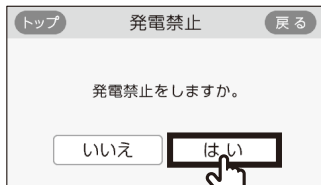
3. 発電画面より [発電禁止] をタッチする
表示されていない場合は、▼でページを送ってください。



4. 発電禁止画面より [する] をタッチする



5. 発電禁止画面より [はい] をタッチする



6. [設定しました。] と表示後手順 4 の画面に戻り、約3～5時間後に発電停止表示は消灯します。

リモコン B

1. トップ画面より [メニュー] をタッチする



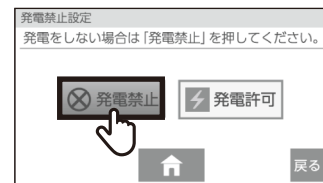
2. メニュー画面より [発電] をタッチする



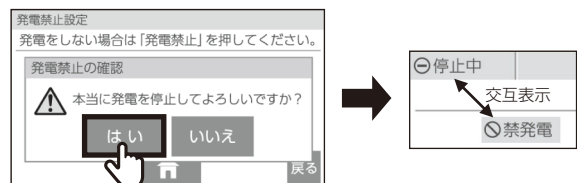
3. 発電メニュー画面より [発電禁止] をタッチする



4. 発電禁止設定画面より [発電禁止] をタッチする

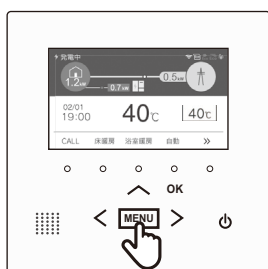


5. 発電禁止の確認画面より [はい] をタッチする
リモコントップ画面の左上に [停止中] と [禁発電] が交互に表示され、約3～5時間後に [禁発電] の表示になります。

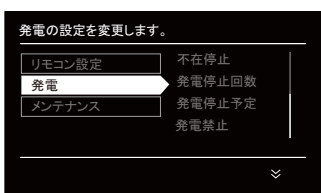


リモコン C

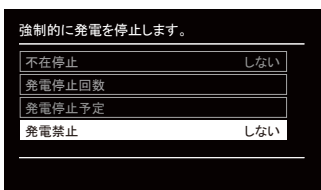
1. 「MENU」 スイッチを押す



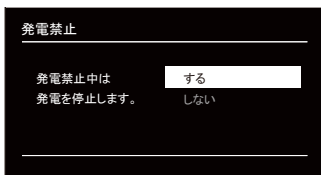
2. へまたは∨で「発電」を選択し、または「OK」を押す



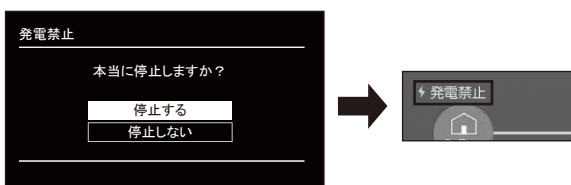
3. へまたは∨で「発電禁止」を選択し、または「OK」を押す



4. へを押し、「する」を選択して「OK」を押す

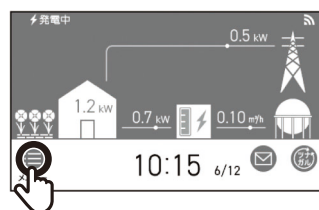


5. へを押し、「停止する」を選択して「OK」を押す
リモコントップ画面に「発電禁止」と表示され、約3～5時間後に発電停止表示は消灯します。

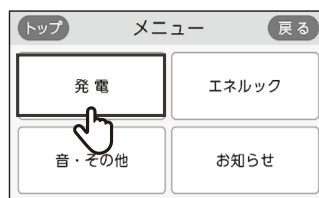


発電リモコン

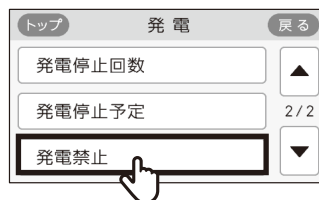
1. トップ画面より「メニュー」をタッチする



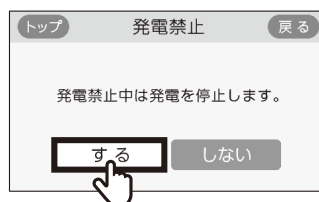
2. メニュー画面より「発電」をタッチする



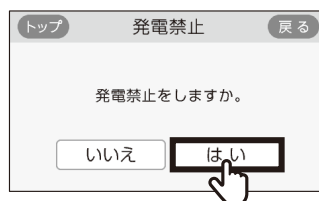
3. 発電画面より「発電禁止」をタッチする
表示されていない場合は、∨でページを送ってください。



4. 発電禁止画面より「する」をタッチする



5. 発電禁止画面より「はい」をタッチする



6. 「設定しました。」と表示後手順4の画面に戻り、約3～5時間後に発電停止表示は消灯します。

発電を止める

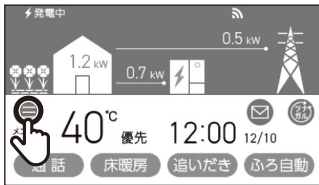
■ 10日以上家をあけるなど、発電をしばらく停止したいとき（不在停止）

- ※1か月以上長期不在にするときは、不在停止ではなく、発電禁止操作と水抜き（74ページ参照）を実施してください。
- ※10日以上リモコン操作・お湯・熱源機による暖房の使用がない場合は自動的に不在停止が[する]になります。
- ※給湯などの停止方法は、それぞれの取扱説明書を参照してください。



リモコンA

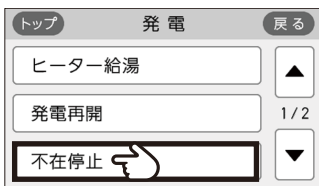
1. トップ画面より[メニュー]をタッチする



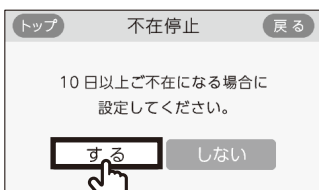
2. メニュー画面より[発電]をタッチする



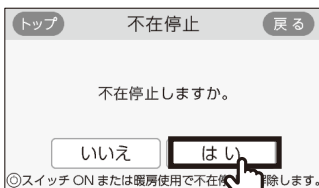
3. 発電画面より[不在停止]をタッチする



4. 不在停止画面より[する]をタッチする



5. 不在停止画面より[はい]をタッチする
液晶画面が消え、「ON/OFF」スイッチのランプが消灯します。



- ※不在停止設定を[する]にした後、リモコンの「ON/OFF」スイッチの「ON」操作、または5時間経過後は、リモコンの液晶画面のタッチで不在停止が解除されます。
- ※不在停止設定を[する]にした後、お風呂（お湯の使用）、または熱源機による暖房を使用されると、不在停止は解除されます。

リモコンB

1. トップ画面より[メニュー]をタッチする



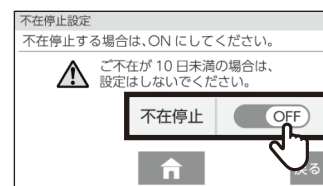
2. メニュー画面より[発電]をタッチする



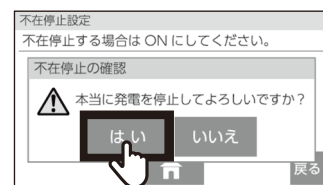
3. 発電メニュー画面より[不在停止]をタッチする



4. 不在停止設定画面より[OFF]をタッチする



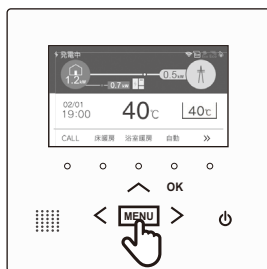
5. 不在停止の確認画面より[はい]をタッチする
液晶画面が消え、「ON/OFF」スイッチのランプが消灯します。



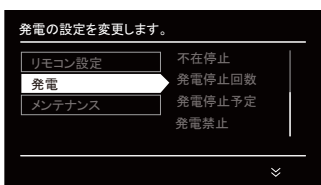
- ※不在停止設定を[ON]にした後、リモコンの「ON/OFF」スイッチの「ON」操作、または5時間経過後は、リモコンの液晶画面のタッチで不在停止が解除されます。
- ※不在停止設定を[ON]にした後、お風呂、または熱源機による暖房を使用されると、不在停止は解除されます。

リモコン C

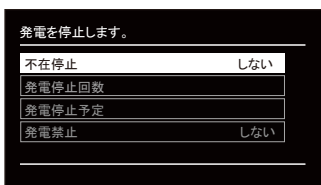
1. 「MENU」スイッチを押す



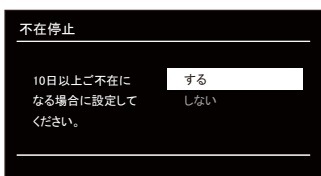
2. へまたは∨で「発電」を選択し、または「OK」を押す



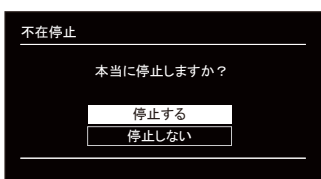
3. へまたは∨で「不在停止」を選択し、または「OK」を押す



4. へを押し、「する」を選択して「OK」を押す



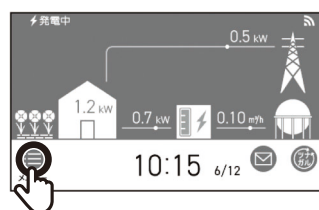
5. へを押し、「停止する」を選択して「OK」を押す
液晶画面が消え、「運転 ON/OFF」スイッチのランプが消灯します。



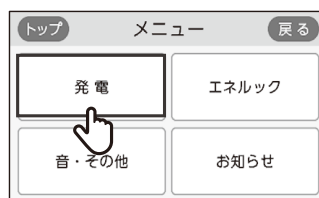
- ※不在停止設定を[する]にした後、リモコンの「ON/OFF」スイッチの「ON」操作、または5時間経過後は、リモコンの操作スイッチ（全てのスイッチに対応）を押すと、不在停止が解除されます。
- ※不在停止設定を[する]にした後、おふろ、または熱源機による暖房を使用されると、不在停止は解除されます。

発電リモコン

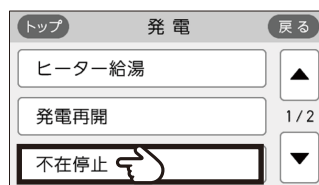
1. トップ画面より「メニュー」をタッチする



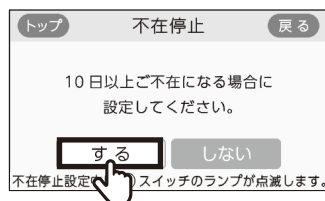
2. メニュー画面より「発電」をタッチする



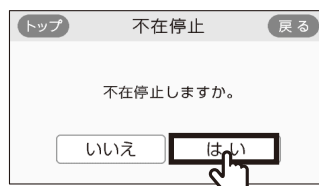
3. 発電画面より「不在停止」をタッチする



4. 不在停止画面より「する」をタッチする



5. 不在停止画面より「はい」をタッチする
液晶画面が消え、「ON/OFF」スイッチのランプが消灯します。



- ※不在停止設定を[する]にした後5時間経過後は、リモコンの「ON/OFF」スイッチの「ON」操作、またはリモコンの液晶画面のタッチ、お湯（水）の使用で不在停止が解除されます。

停電時に電気を使う

自立 概要 (停電時自立発電モデルをお使いのお客さまへ)

■ 発電ユニットが発電中に停電した場合は、発電を継続します

発電した電気と熱源機のお湯をご使用いただけます。
後付構成の場合は、熱源機の機種によっては、使用できないことがあります。

■ 停電時自立発電機能で使用できる電気の量は最大約 700W です

※熱源機で使用する電気の量も含まれますので、停電時自立発電専用コンセントからご利用できる電気の量は 700W よりも少なくなります。(リモコン A・リモコン B・リモコン C のみ)

■ 停電時自立発電時は、自動的に停電時自立発電専用コンセントに電気が供給されます

停電時自立発電専用コンセントには「エネファーム停電時自立発電専用」と表示されています。事前に設置場所を確認してください。

※停電時自立発電専用コンセントは停電しているときにだけお使いください。なお、停電が復旧すると同時に停電時自立発電専用コンセントからの電気の供給は止まりますので、ご注意ください。

■ 台風の接近などで停電のおそれがある場合は以下の操作を行うことで、停電時でも発電を継続させることができます

※ 2 世帯設定でご使用されているお客さまは、発電停止予定日の変更はできません。

ガスマイコンメーターがガス漏れの有無を確認するために発電ユニットは定期的に停止します。(詳細は、「ガスマイコンメーターがガス漏れの有無を確認するために一時的に停止させるとき」(30 ページ)をご参照ください)

停電が予想される期間中の発電ユニットのサイクル停止を避けるため、停電予想日の 2 ~ 3 日前に、あらかじめ発電ユニットを 24 時間以上停止させてください。

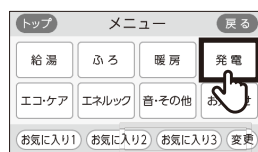
◆ お客さまが設定される場合

1. リモコンで発電停止予定日までの日数をトップ画面より[メニュー][発電][発電停止予定]を押して、確認する。
リモコンで発電停止予定日までの日数を確認してください。停電予想期間中に次回発電停止予定日がない場合は、手順 2 以降の操作は必要ありません。

リモコン A



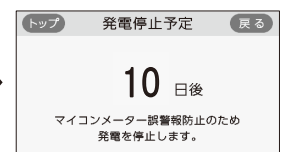
1. トップ画面より[メニュー]をタッチする



2. メニュー画面より[発電]をタッチする



3. 発電画面より[発電停止予定]をタッチする



4. 発電停止予定までの日数が表示される

リモコン B



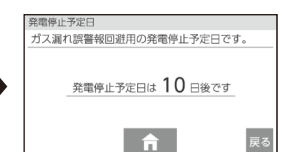
1. トップ画面より[メニュー]をタッチする



2. メニュー画面より[発電]をタッチする

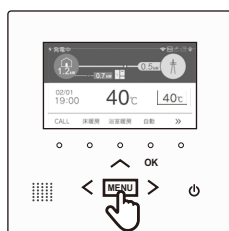


3. 発電メニュー画面より[発電停止予定日]をタッチする

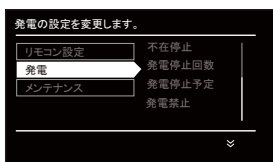


4. 発電停止予定までの日数が表示される

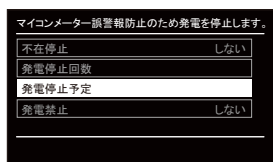
リモコン C



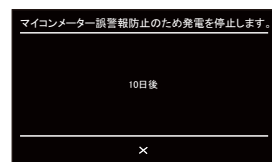
1. 「MENU」スイッチを押す



2. へまたは∨で「発電」を選択し、>または「OK」を押す

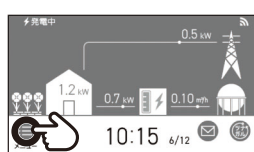


3. へまたは∨で「発電停止予定」を選択し、>または「OK」を押す



4. 発電停止予定までの日数が表示される

発電リモコン



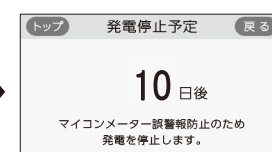
1. トップ画面より「メニュー」をタッチする



2. メニュー画面より「発電」をタッチする



3. 発電画面より「発電停止予定」をタッチする



4. 発電停止予定までの日数が表示される

2. 手順 1 の確認で、予想される停電開始日が該当する場合は、リモコン操作にて「発電禁止」操作（42 ページ参照）で発電ユニットを停止させる。
発電ユニット停止には約 3 ～ 5 時間必要です。停止完了後、リモコン画面が下記のように表示されます。
 - ・リモコン A・リモコン C・発電リモコン
リモコンの⚡が消灯する
 - ・リモコン B
リモコンの発電状況表示部が [⊖停止中][⊖禁発電] の交互表示から [⊖禁発電] の固定表示になる
その後、連続で 2 4 時間以上停止させ、その間に全てのガス機器（給湯・暖房など）を連続で 70 分以上停止させてください。
3. 連続 24 時間以上経過後に発電停止予定の日数が 26 日後になっていることを確認する。
遅くとも停電予想の 5 時間前までには「発電禁止を解除し発電をする」（34 ページ参照）の操作を実施してください。

■ お知らせ

停電時自立発電時は発電ユニットの蓄熱量が多いと、排気口から多くの湯気が出たり、運転音が大きくなることがありますが、故障ではありません。

以下の場合、使用できる電気の量を抑制したり、出力が不安定になることがあります。

- ・断水状態（ご家庭への給水が停止している状態）時
※断水状態から復帰するまで、お湯は使用しないでください。断水中にお湯の給湯栓を開くと、ごく稀にリモコンに [82F01] 等を表示し、運転を停止する場合があります。
- ・経年劣化した時
- ・発電ユニットの蓄熱量が多い場合
- ・停電時自立発電専用コンセントで使用する負荷が小さい場合

発電リモコンのみ

停電した場合、熱源機の電源が入っていない状態であっても給湯栓を開けた際に、約 20 ～ 30 ℃の温水が出る場合があります。

外気温が高く発電ユニット内水温が高い場合は、停電時自立発電を停止する場合があります。

※停止防止のために貯湯タンクのお湯を利用ください。

停電時に電気を使う

自立 主な電気製品の消費電力 (停電時自立発電モデルをお使いのお客さまへ)

停電時自立発電機能をご使用される前に、「安全のため必ず守ってください」(10～17ページ参照)をお読みいただき、安全にご使用ください。

- 数値は定格消費電力の一例です。実際の消費電力は、製品の種類や使用方法によって異なります。
- 電気製品の種類によっては、瞬間的に700Wを上回る電力負荷がかかるため、消費電力にかかわらず使用できないことがあります。
- 停電が復旧すると、停電時自立発電専用コンセントからの電気の供給は止まります。継続して使用される場合は、通常のコンセントに接続し直してください。
- 停電時自立発電開始直後は発電ユニットの状態によって、消費電力が700W以下の電気製品を使用した場合でも、一時的に使用できない場合がありますので、リモコン表示部の電力量を確認してから電気製品を接続してください。
- 後付構成の場合は、熱源機の機種によっては、使用できないことがあります。

製品名	消費電力の目安 (W)	製品名	消費電力の目安 (W)
携帯電話 (充電時)	15	卓上LED照明	20
ラジカセ	20	ガスファンヒーター	30
扇風機	40	ノートPC	50
液晶テレビ (42型) ※1	85	冷蔵庫 ※2	200
熱源機の暖房運転 ※3	180	熱源機の凍結防止運転 ※3	250
熱源機の給湯運転 ※3	100		

※1 テレビをご覧になる場合は、電波の受信に関する機器への電力の供給が必要です。

消費電力の目安には、それら機器の消費電力は含まれていません。

※2 機種によっては使用できないことがあります。

※3 使用されている熱源機の消費電力は、リモコンの取扱説明書でご確認ください。

(リモコンA・リモコンB・リモコンCのみ)

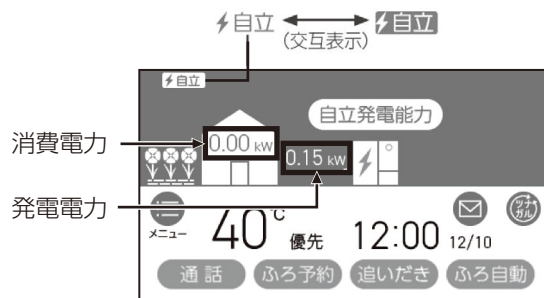
自立 停電発生時の対応 (停電時自立発電モデルをお使いのお客さまへ)

※ 災害時など、ガス漏れの危険性がある場合は使用を中止してください。事故の原因となることがあります。

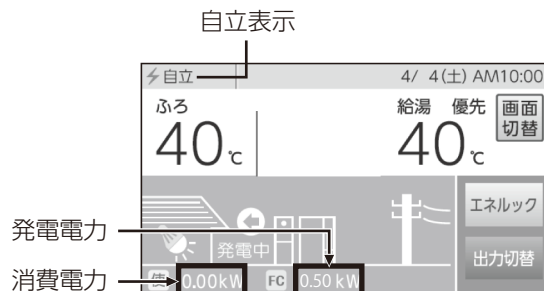
リモコン A リモコン B リモコン C

1. [自立]の文字部が表示され、発電電力が表示されていることを確認する
(リモコン A・リモコン C の場合、交互表示)

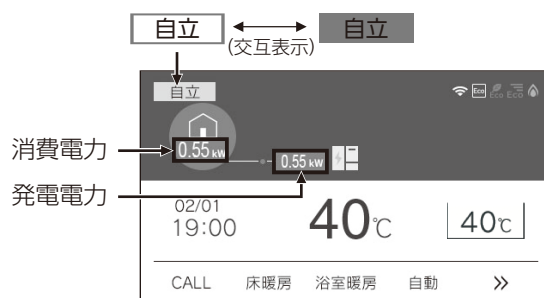
リモコン A



リモコン B



リモコン C

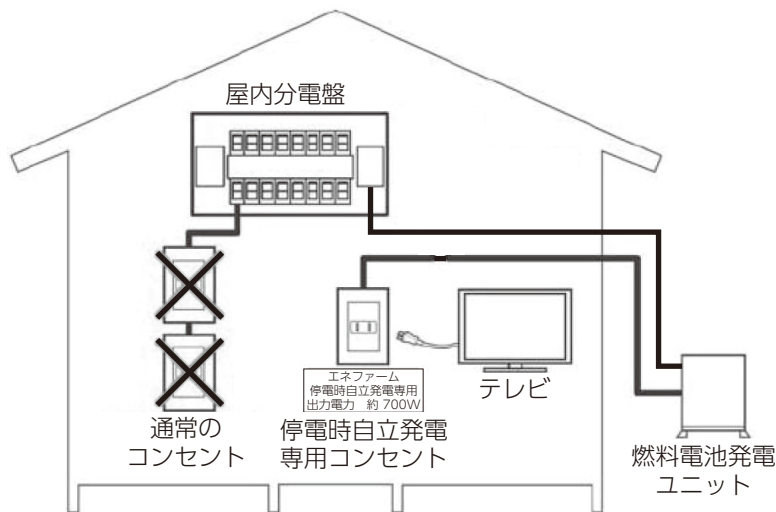


- 停電してから約 90 秒後に、自動的にリモコンの液晶画面が表示されます。
- 消費電力が大きい機器をつなぐ場合は、高出力設定 (56 ページ参照) に切り替えご使用ください。また、発電ユニットの状態によっては、最大出力が制限される場合があります。
- お客さまの電気使用状況や、機器の経年劣化により出力開始までの時間は変化します。(最大約 10 分間)

停電時に電気を使う

自立 停電発生時の対応 (停電時自立発電モデルをお使いのお客さまへ) (つづき)

2. 電気製品の電源プラグを停電時自立発電専用コンセントに差し込む



- 停電時は停電時自立発電専用コンセント以外のコンセントはご使用いただけません。また、停電時自立発電専用コンセントは、停電時にしか使用できません。
- リモコンの表示で発電電力と消費電力を確認しながら停電時自立発電専用コンセントに使用したい電気製品を一つずつ接続してください。
- 消費電力が発電電力を上回る場合（過負荷）は、停電時自立発電専用コンセントからの電気の供給が一時停止します。約 90 秒～ 10 分経過後、自動的に電気の供給を再開します。過負荷防止のため、停止中に接続していた電気製品をコンセントから取り外してください。
- 過負荷 2 回目以降は、一時停止した後の自動再開はしません。リモコン表示内容に従ってリモコン操作をしてください。
- 接続した電気製品の消費電力が発電量を上回らないよう、運転状態をこまめに確認してください。

3. 浴槽の排水栓を抜く

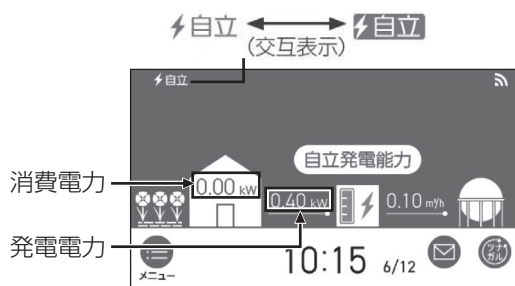
⚠ 警告

停電時自立発電時は浴槽の排水栓を抜く（入浴の際は、浴槽の栓をしてください）

停電時自立発電時は運転を継続するために排湯機能により自動でお風呂にお湯を出すことがあります。浴槽の排水栓を抜かないと、思わぬ事故や、浴槽のお湯があふれるなどの原因となります。（セット構成のみ）

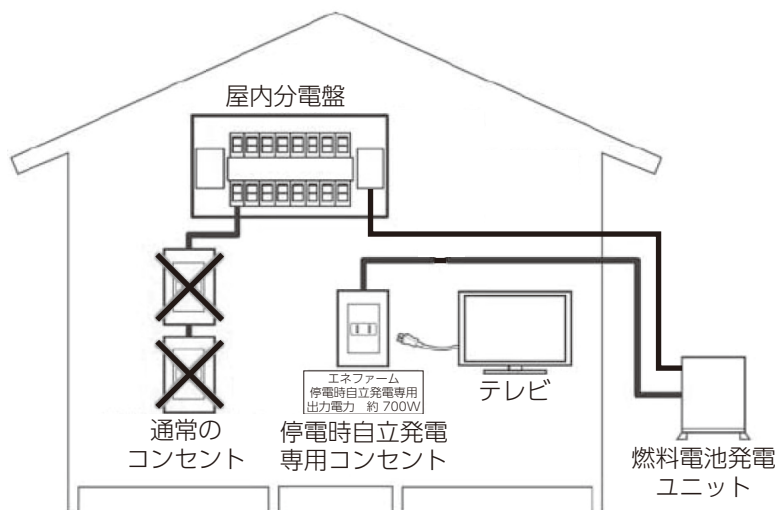
発電リモコン

1. [自立]の文字部が交互表示され、発電電力が表示されていることを確認する



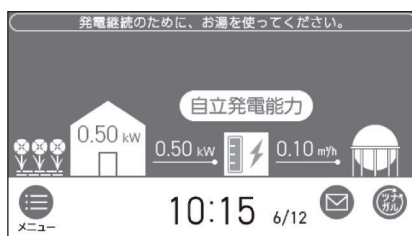
- 消費電力が大きい機器をつなぐ場合は、高出力設定（56 ページ参照）に切り替えご使用ください。また、発電ユニットの状態によっては、最大出力が制限される場合があります。
- お客様の電気使用状況や、機器の経年劣化により出力開始までの時間は変化します。（最大約 10 分間）

2. 電気製品の電源プラグを停電時自立発電専用コンセントに差し込む



- 停電時は停電時自立発電専用コンセント以外のコンセントはご使用いただけません。また、停電時自立発電専用コンセントは、停電時にしか使用できません。
- リモコンの表示で発電電力と消費電力を確認しながら停電時自立発電専用コンセントに使用したい電気製品を一つずつ接続してください。
- 消費電力が発電電力を上回る場合（過負荷）は、停電時自立発電専用コンセントからの電気の供給が一時停止します。約 90 秒～ 10 分経過後、自動的に電気の供給を再開します。過負荷防止のため、停止中に接続していた電気製品をコンセントから取り外してください。
- 過負荷 2 回目以降は、一時停止した後の自動再開はしません。リモコン表示内容に従ってリモコン操作をしてください。
- 接続した電気製品の消費電力が発電量を上回らないよう、運転状態をこまめに確認してください。

※停電時自立発電時に、リモコンに「発電継続のために、お湯を使ってください。」のメッセージが表示された場合は、停電時自立発電を継続させるために、貯湯タンクがお湯でいっぱいにならないよう、給湯栓を開けてお湯を使用してください。

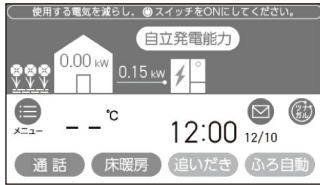


停電時に電気を使う

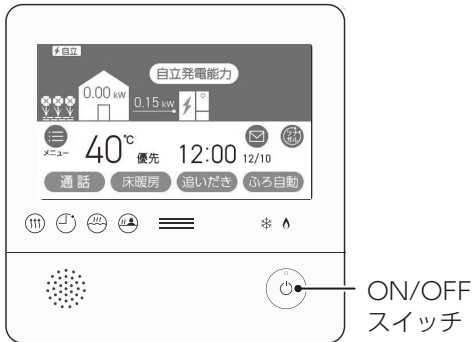
自立 過負荷 2 回目以降の復帰操作 (停電時自立発電モデルをお使いのお客さまへ)

リモコン A

1. リモコンのメッセージを確認する

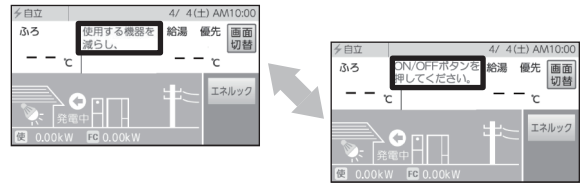


2. [ON/OFF] スイッチを ON する



リモコン B

1. リモコンのメッセージを確認する



2. [ON/OFF] スイッチを ON する

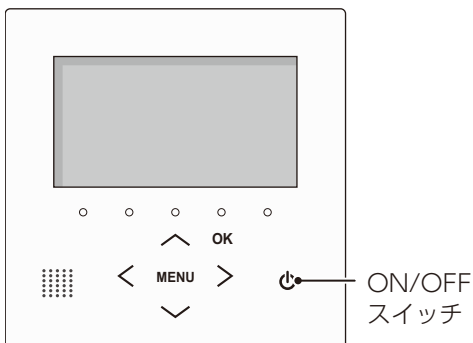


リモコン C

1. リモコンのメッセージを確認する

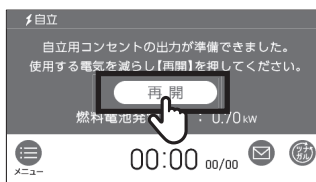


2. [ON/OFF] スイッチを入にする



発電リモコン

1. 下記画面が表示されたら [再開] をタッチする



自立 自動排湯について (停電時自立発電モデルをお使いのお客さまへ)

警告

停電時自立発電時は浴槽の排水栓を抜く (入浴の際は、浴槽の栓をしてください)

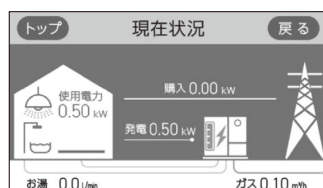
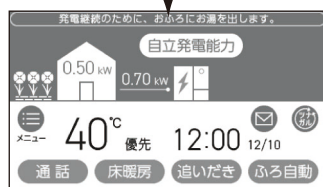
停電時自立発電時は運転を継続するために排湯機能により自動でお風呂にお湯を出すことがあります。浴槽の排水栓を抜かないと、思わぬ事故や、浴槽のお湯があふれるなどの原因となります。(セット構成のみ)

停電時自立発電時は運転を継続するために排湯機能*により自動でお風呂にお湯を出すことがあります。
* 排湯機能とは・・・貯湯タンクがお湯でいっぱいになると、リモコンの表示と音でお知らせした後、自動でお風呂にお湯を出します。

リモコンA

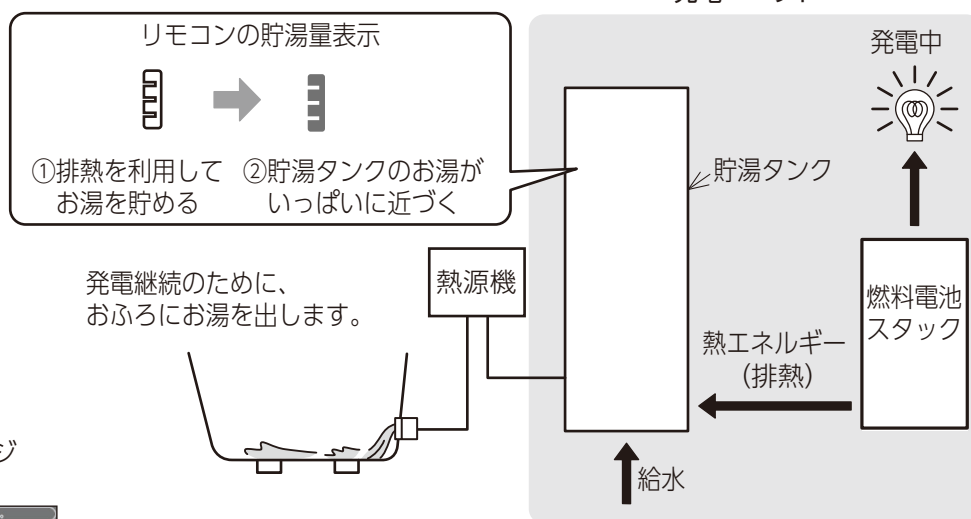
貯湯量表示がいっぱいに近づくと、リモコンから「発電継続のために、お風呂にお湯を出します。」表示と音でお知らせし、お風呂にお湯を約20リットル出します。
※状況により複数回お湯を出す場合があります。

排湯メッセージ



発電リモコン

発電リモコンでは自動排湯機能はありません。



- ・排湯アナウンス
排湯時には、リモコンの表示と音でお知らせします。
- ・排湯中は、リモコンの「ON/OFFスイッチ」がON/OFFにかかわらずONになります。
- ・貯湯量は、リモコンより[メニュー]→[エネルギー]→[現在状況]で左画面(一例)で確認ください。

停電時に電気を使う

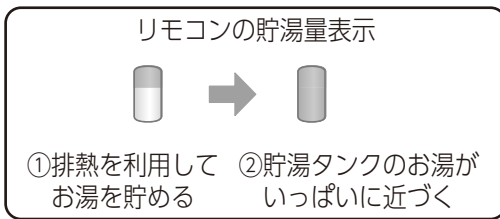
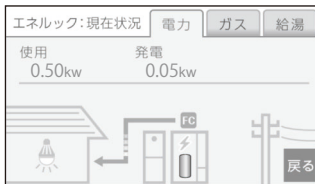
自立 自動排湯について (停電時自立発電モデルをお使いのお客さまへ) (つづき)

リモコン B

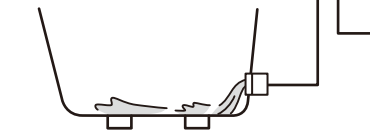
貯湯量表示がいっぱいになると、リモコンから「発電継続のために、お湯をおふろに出します。」表示と音声でお知らせし、おふろにお湯を約24リットル出します。

※状況により複数回お湯を出す場合があります。

排湯メッセージ



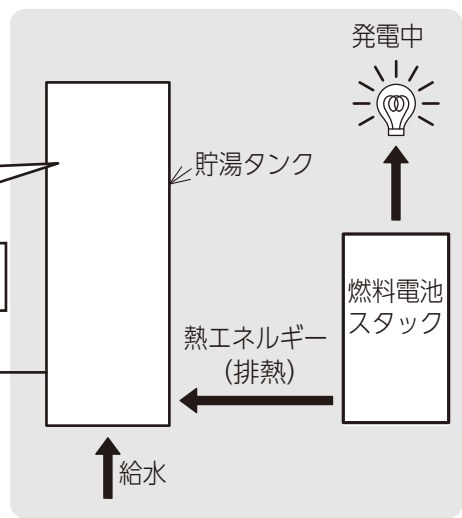
発電継続のために、お湯をおふろに出します。



・排湯アナウンス
リモコンから表示と音声でお知らせします。

・貯湯量は、リモコンより [エネルギー] → [現在状況] で左画面 (一例) で確認ください。

発電ユニット

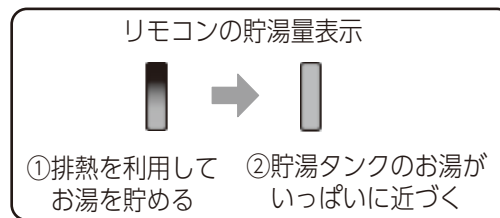


リモコン C

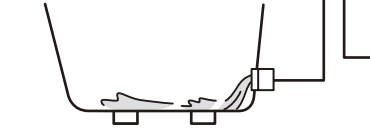
貯湯量表示がいっぱいになると、リモコンから「発電継続のために、お湯をふろに出します。」表示と音声でお知らせし、おふろにお湯を約20リットル出します。

※状況により複数回お湯を出す場合があります。

貯湯量がいっぱいになると排湯メッセージが表示されます。「発電継続のために、お湯をふろに出します。」



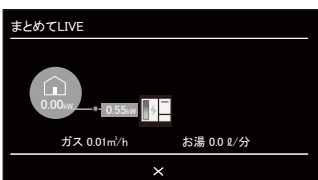
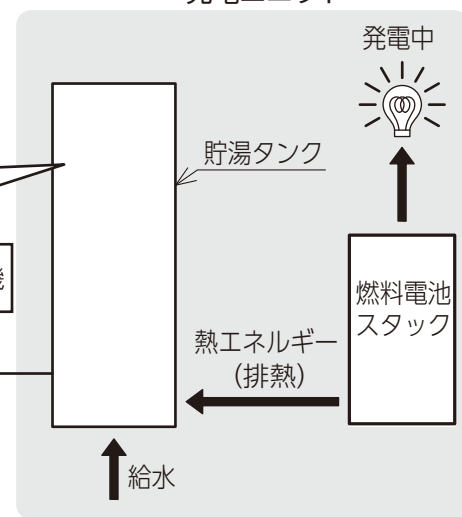
発電継続のために、お湯をふろに出します。



・排湯アナウンス
リモコンから表示と音声でお知らせ

・貯湯量は、リモコンより [MENU] → [エネルギー] → [まとめてLIVE] を選択し、左画面 (一例) で確認ください。

発電ユニット

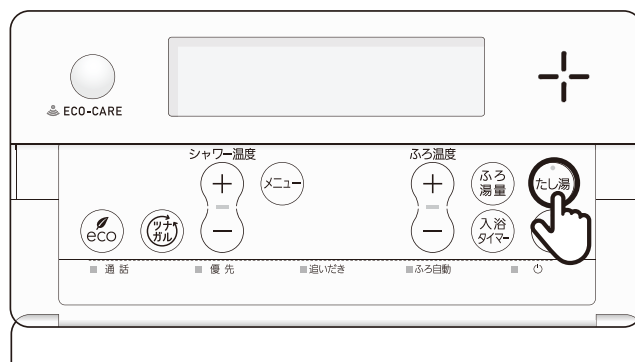


■ お知らせ

リモコン A

- お湯を使用するときはリモコンの給湯温度表示を確認し、手でお湯の温度を確認してから使用してください。
- 停電時自立発電時の自動排湯動作中に排湯を中止したい場合は、下記リモコン操作を行ってください。ただし発電を続けるために一定時間後に、繰り返し排湯を行うことがあります。

1. 浴室リモコンの「たし湯」ボタンを押す



リモコン B

お湯を使用するときはリモコンの給湯温度表示を確認し、手でお湯の温度を確認してから使用してください。

リモコン C

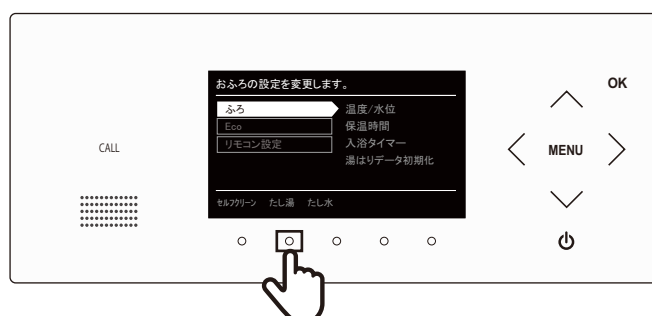
- お湯を使用するときはリモコンの給湯温度表示を確認し、手でお湯の温度を確認してから使用してください。
- 停電時自立発電時の自動排湯動作中に排湯を中止したい場合は、下記リモコン操作を行ってください。ただし発電を続けるために一定時間後に、繰り返し排湯を行うことがあります。

1. 浴室リモコンの「MENU」スイッチを押す



2. 「ふろ」を選択する

3. 画面「たし湯」の下にあるスイッチを押す



停電時に電気を使う

自立 発電出力を上げる場合 (戻す場合) (停電時自立発電モデルをお使いのお客さまへ)

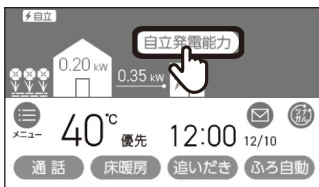
■ 高出力設定にする

停電時自立発電時、電力消費が少ない状態がしばらく続くと停電時自立発電出力を 700W よりも下げる場合があります。消費電力の大きい電気製品又は複数の電気製品を同時に使い始める場合は下記手順で高出力設定に切り替えてください。(ただし合計しても 700W をこえない)

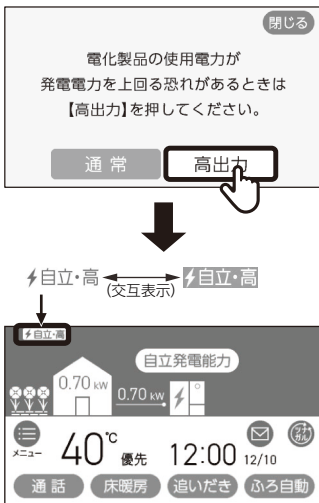
※発電出力が低出力から急に高出力に切り替わった場合は、機器内部温度が限度より高くないように発電出力を自動的に下げる場合があります。

リモコン A

1. トップ画面で発電量を確認し、発電出力が低い場合は [自立発電能力] をタッチする
[自立発電能力] 表示は、高出力発電が可能なお客さまのみ表示されます。



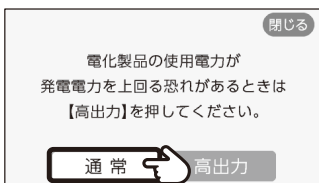
2. 自立発電能力画面で [高出力] をタッチする
トップ画面の左上部の文字が、[自立・高] に変わります。



※消費電力が少ない状態が続いた場合(約5分)、自動的に通常設定に戻ります。

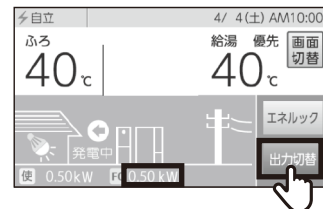
◆ 高出力設定を通常に戻す場合

1. 上記手順 2 で [通常] をタッチする
トップ画面の左上部の文字が、[自立] に変わります。

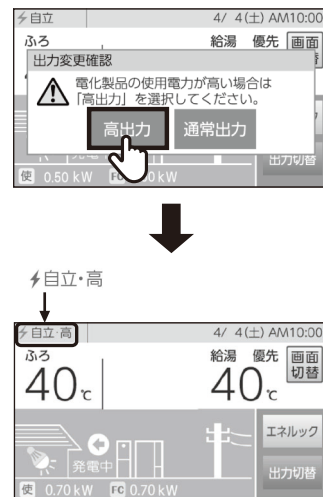


リモコン B

1. トップ画面で発電量を確認し、発電出力が低い場合は [出力切替] をタッチする
[出力切替] 表示は、高出力発電が可能なお客さまのみ表示されます。



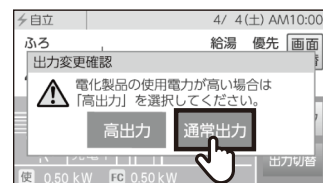
2. メッセージタイトル画面で [高出力] をタッチする
トップ画面の左上部の文字が、[自立・高] に変わります。



※消費電力が少ない状態が続いた場合(約5分)、自動的に通常設定に戻ります。

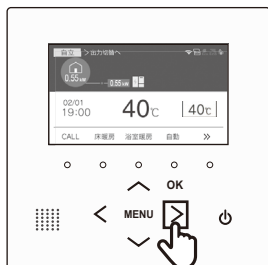
◆ 高出力設定を通常に戻す場合

1. 上記手順 2 で [通常出力] をタッチする
トップ画面の左上部の文字が、[自立] に変わります。

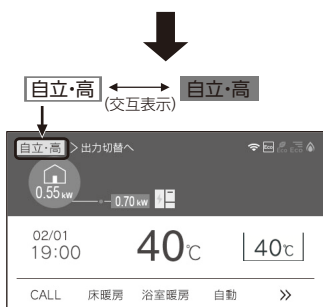
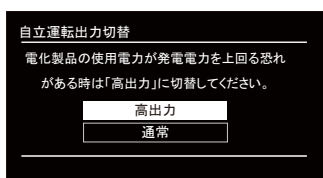


リモコン C

1. トップ画面で発電量を確認し、発電出力が低い場合は>を押す
[出力切替]表示は、高出力発電が可能なおきのみ表示されます。



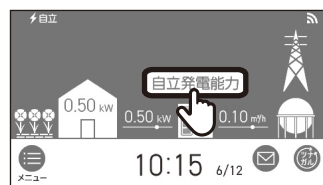
2. 自立運転出力切替画面でへを押し[高出力]を選択して「OK」を押す
トップ画面の左上部の文字が、[自立・高]に変わります。



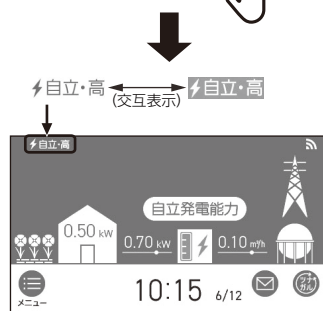
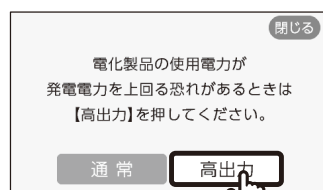
※消費電力が少ない状態が続いた場合(約5分)、自動的に通常設定に戻ります。

発電リモコン

1. トップ画面で発電量を確認し、発電出力が低い場合は[自立発電能力]をタッチする
[自立発電能力]表示は、高出力発電が可能なおきのみ表示されます。



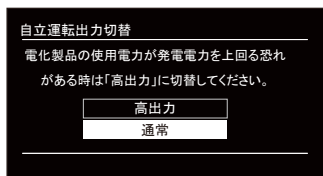
2. 自立発電能力画面で[高出力]をタッチする
トップ画面の左上部の文字が、[自立・高]に変わります。



※消費電力が少ない状態が続いた場合(約5分)、自動的に通常設定に戻ります。

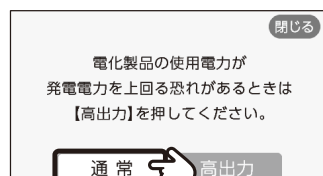
◆ 高出力設定を通常に戻す場合

1. 上記手順2で[通常]を選択して「OK」を押す
トップ画面の左上部の文字が、[自立]に変わります。



◆ 高出力設定を通常に戻す場合

1. 上記手順2で[通常]をタッチする
トップ画面の左上部の文字が、[自立]に変わります。



停電時にお湯を使う

停電の場合にお湯を使用するときは以下の操作を行ってください。

自立 停電時自立発電モデルをお使いのお客さまへ

リモコン A リモコン C

1. リモコンのトップ画面で、左上部の文字が [自立] 表示の交互表示になっていることを確認する
2. リモコンの消費電力表示から、熱源機が起動しても過負荷にならないことを確認する
発電に余力がない場合は、高出力設定 (56 ページ参照) にする、または他の電気製品を止めてください。
3. 給湯栓を開ける
熱源機からのお湯を使用することができます。

リモコン B

1. リモコンのトップ画面で、左上部の文字が [自立] 表示になっていることを確認する
2. リモコンの消費電力表示から、熱源機が起動しても過負荷にならないことを確認する
発電に余力がない場合は、高出力設定 (56 ページ参照) にする、または他の電気製品を止めてください。
3. 給湯栓を開ける
熱源機からのお湯を使用することができます。

発電リモコン

停電時に、停電時自立発電専用コンセントからの電力を使用して、熱源機からのお湯を使用することができます。(熱源機の機種によっては使用できません)

1. リモコンのトップ画面で、左上部の文字が [自立] 表示の交互表示になっていることを確認する
2. リモコンの消費電力表示から、熱源機が起動しても過負荷にならないことを確認する
発電に余力がない場合は、高出力設定 (56 ページ参照) にする、または他の電気製品を止めてください。
3. 停電時自立発電専用コンセントに熱源機の電源プラグを差し込む
熱源機からのお湯を使用することができます。

以降は、通常の熱源機使用方法でお使いください。

※ 停電の復旧後は、停電時自立発電専用コンセントに差ししてある熱源機の電源プラグは、元のコンセントに移動してください。

※ 熱源機の機種によっては、使用できないことがあります。

停電時に電気を使う

DC 概要 (停電時自立発電モデル(DC出力仕様)をお使いのお客さまへ)

ご使用の前に

発電

こんなときは

お手入れ

困ったときに

知っておいてください

■ 発電ユニットが発電中に停電した場合は、発電を継続します

発電した電気と熱源機のお湯をご使用いただけます。

■ 停電時自立発電 (DC 出力) 時は、蓄電池ユニットから全てのコンセントに電気が供給されます

■ 台風の接近などで停電のおそれがある場合は以下の操作を行うことで、停電時でも発電を継続させることができます

※ 2世帯設定でご使用されているお客さまは、発電停止予定日の変更はできません。

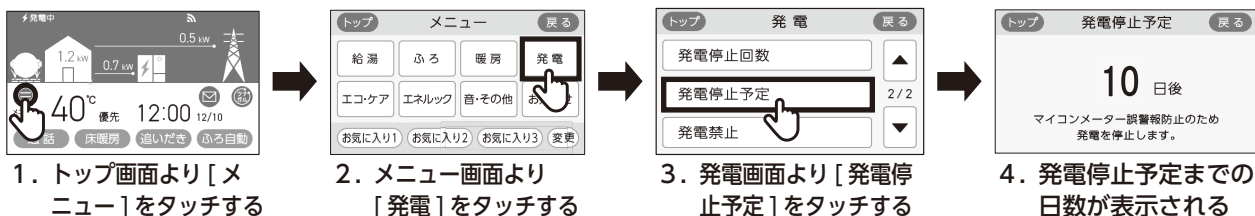
ガスマイコンメーターがガス漏れの有無を確認するために発電ユニットは定期的に停止します。(詳細は、「ガスマイコンメーターがガス漏れの有無を確認するために一時的に停止させるとき」(30 ページ)をご参照ください)

停電が予想される期間中の発電ユニットのサイクル停止を避けるため、停電予想日の 2～3 日前に、あらかじめ発電ユニットを 24 時間以上停止させてください。

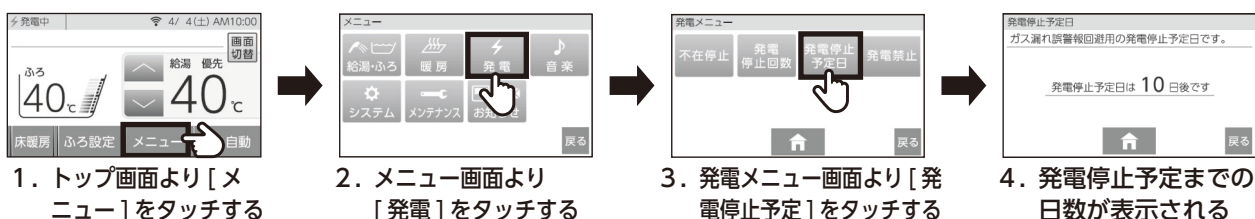
◆ お客さまが設定される場合

1. リモコンで発電停止予定日までの日数をトップ画面より [メニュー] [発電] [発電停止予定] を押して、確認する。
リモコンで発電停止予定日までの日数を確認してください。停電予想期間中に次回発電停止予定日がない場合は、手順 2 以降の操作は必要ありません。

リモコン A



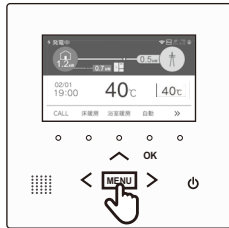
リモコン B



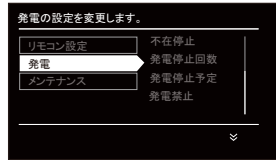
停電時に電気を使う

DC 概要 (停電時自立発電モデル(DC出力仕様)をお使いのお客さまへ) (つづき)

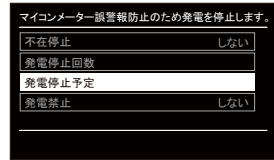
リモコン C



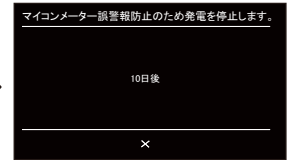
1. 「MENU」スイッチを押す



2. へまたは∨で「発電」を選択し、>または「OK」を押す

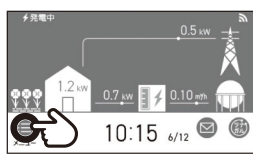


3. へまたは∨で「発電停止予定」を選択し、>または「OK」を押す

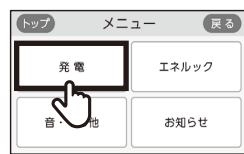


4. 発電停止予定までの日数が表示される

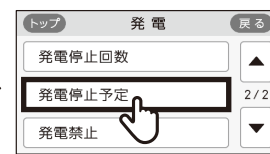
発電リモコン



1. トップ画面より「メニュー」をタッチする



2. メニュー画面より「発電」をタッチする



3. 発電画面より「発電停止予定」をタッチする



4. 発電停止予定までの日数が表示される

- 手順 1 の確認で、予想される停電開始日が該当する場合は、リモコン操作にて「発電禁止」操作 (42 ページ参照) で発電ユニットを停止させる。
発電ユニット停止には約 3 ~ 5 時間必要です。停止完了後、リモコン画面が下記のように表示されます。
 - リモコン A・リモコン C・発電リモコン
リモコンの⚡が消灯する
 - リモコン B
リモコンの発電状況表示部が [○停止中][○禁発電] の交互表示から [○禁発電] の固定表示になる
その後、連続で 2 4 時間以上停止させ、その間に全てのガス機器 (給湯・暖房など) を連続で 70 分以上停止させてください。
- 連続 24 時間以上経過後に発電停止予定の日数が 26 日後になっていることを確認する。
遅くとも停電予想の 5 時間前までには「発電禁止を解除し発電をする」(34 ページ参照) の操作を実施してください。

■ お知らせ

停電時自立発電 (DC 出力) 時は発電ユニットの蓄熱量が多いと、排気口から多くの湯気が出たり、運転音が大きくなる場合がありますが、故障ではありません。

- 停電時に蓄電池ユニットは自立運転していて、発電ユニットは発電出力 0 W の状態になることがありますが、故障ではありません。
数分以内に自動で再出力を開始します。
- 停電時自立発電 (DC 出力) 中にハイブリッド蓄電システムの過負荷状態などの異常を検出した場合、システム保護のため、約 6 分間 DC 出力しない状態となり、時間経過後に自動で再出力を行います。

発電リモコンのみ

停電した場合、熱源機の電源が入っていない状態であっても給湯栓を開けた際に、約 20 ~ 30 °C の温水が出る場合があります。

外気温が高く発電ユニット内水温が高い場合は、停電時自立発電 (DC 出力) を停止する場合があります。
※停止防止のために貯湯タンクのお湯を利用ください。

DC 停電発生時の対応 (停電時自立発電モデル (DC 出力仕様) をお使いのお客さまへ)

※ 災害時など、ガス漏れの危険性がある場合は使用を中止してください。事故の原因となることがあります。

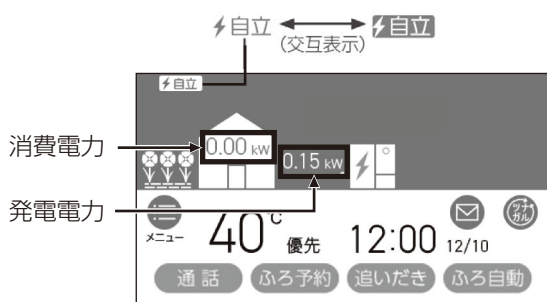
リモコン A リモコン B リモコン C

1. [自立]の文字部が表示され、発電電力が表示されていることを確認する
(リモコン A・リモコン C の場合、交互表示)

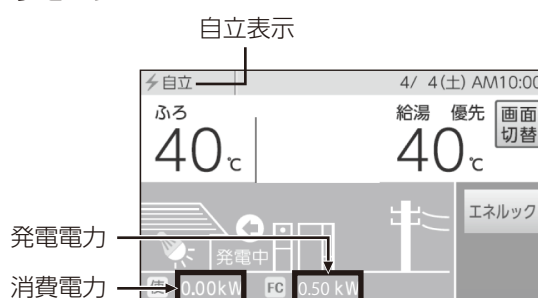
参考

停電時自立発電 (DC 出力) 中の発電電力・消費電力は正しく表示されませんが異常ではありません。消費電力は常時 0.00kW となり、発電電力は蓄電池供給量より多い値となります。

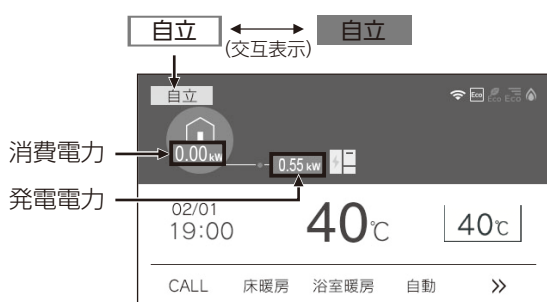
リモコン A



リモコン B



リモコン C



警告

停電時自立発電 (DC出力) 時は浴槽の排水栓を抜く (入浴の際は、浴槽の栓をしてください)
停電時自立発電 (DC出力) 時は運転を継続するために排湯機能により自動でお風呂にお湯を出すことがあります。浴槽の排水栓を抜かないと、思わぬ事故や、浴槽のお湯があふれるなどの原因となります。(セット構成のみ)

2. 浴槽の排水栓を抜く

発電リモコン

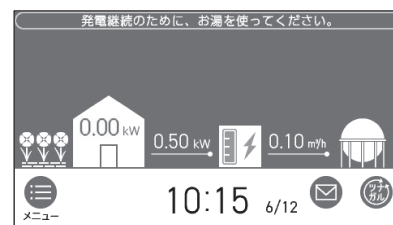
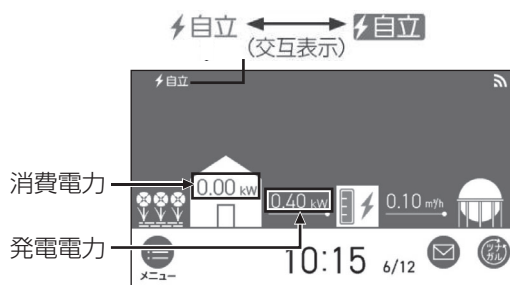
1. [自立]の文字部が交互表示され、発電電力が表示されていることを確認する

参考

停電時自立発電 (DC 出力) 中の発電電力・消費電力は正しく表示されませんが異常ではありません。消費電力は常時 0.00kW となり、発電電力は蓄電池供給量より多い値となります。

参考

停電時自立発電 (DC 出力) 時に、リモコンに [発電継続のために、お湯を使ってください。] のメッセージが表示された場合は、停電時自立発電 (DC 出力) を継続させるために、貯湯タンクがお湯でいっぱいにならないよう、給湯栓を開けてお湯を使用してください。



停電時に電気を使う

DC 自動排湯について

(停電時自立発電モデル (DC 出力仕様) をお使いのお客さまへ)

警告

停電時自立発電 (DC 出力) 時は浴槽の排水栓を抜く (入浴の際は、浴槽の栓をしてください) 停電時自立発電 (DC 出力) 時は運転を継続するために排湯機能により自動でお風呂にお湯を出すことがあります。浴槽の排水栓を抜かないと、思わぬ事故や、浴槽のお湯があふれるなどの原因となります。(セット構成のみ)

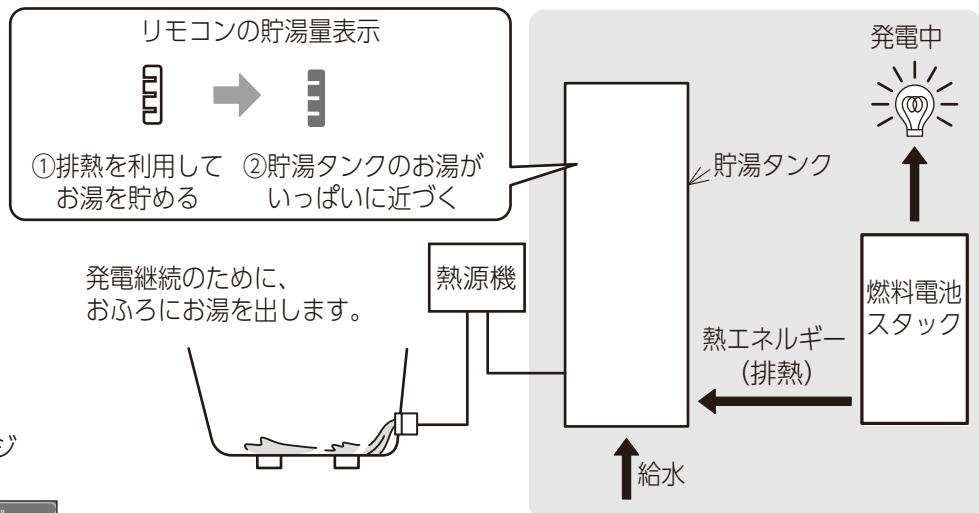
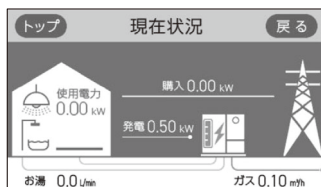
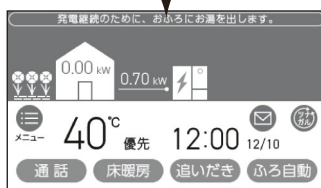
停電時自立発電 (DC 出力) 時は運転を継続するために排湯機能 * により自動でお風呂にお湯を出すことがあります。

* 排湯機能とは・・・貯湯タンクがお湯でいっぱいになると、リモコンの表示と音でお知らせした後、自動でお風呂にお湯を出します。

リモコン A

貯湯量表示がいっぱいに近づくと、リモコンから [発電継続のために、お風呂にお湯を出します。] 表示と音でお知らせし、お風呂にお湯を約 20 リットル出します。
※ 状況により複数回お湯を出す場合があります。

排湯メッセージ



発電継続のために、お風呂にお湯を出します。

- ・ 排湯アナウンス
排湯時には、リモコンの表示と音でお知らせします。
- ・ 排湯中は、リモコンの「ON/OFFスイッチ」がON/OFFにかかわらずONになります。

- ・ 貯湯量は、リモコンより[メニュー]→[エネルギー]→[現在状況]で左画面 (一例) で確認ください。

発電リモコン

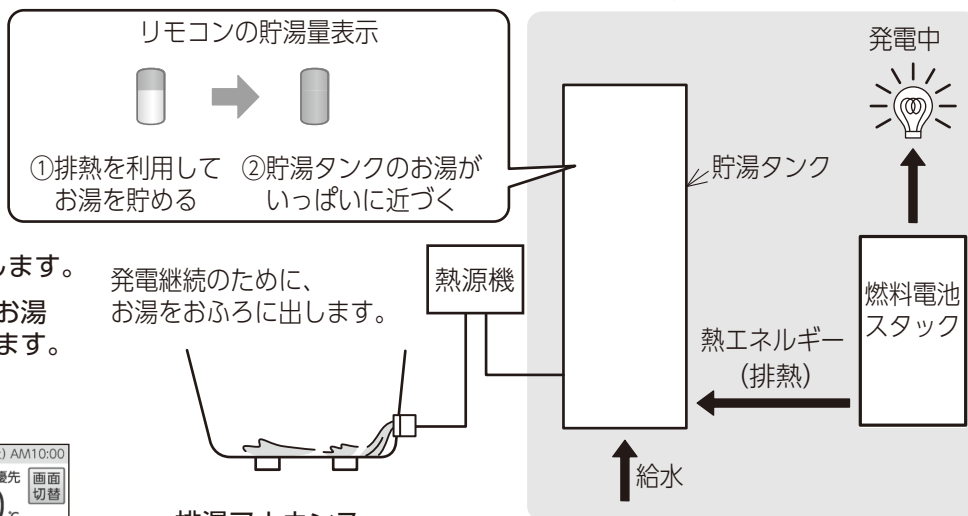
発電リモコンでは自動排湯機能はありません。

リモコン B

貯湯量表示がいっぱいに近づくと、リモコンから「発電継続のために、お湯をおふろに出します。」表示と音声でお知らせし、お風呂にお湯を約24リットル出します。

※状況により複数回お湯を出す場合があります。

排湯メッセージ



発電継続のために、お湯をおふろに出します。

- ・排湯アナウンス
リモコンから表示と音声でお知らせします。

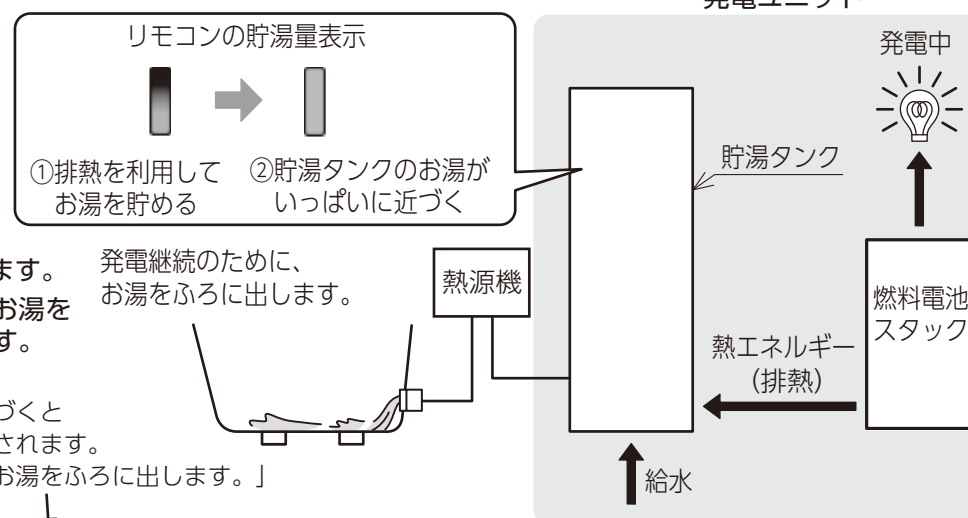
- ・貯湯量は、リモコンより「エネルギー」→「現在状況」で左画面（一例）で確認ください。

リモコン C

貯湯量表示がいっぱいに近づくと、リモコンから「発電継続のために、お湯をふろに出します。」表示と音声でお知らせし、お風呂にお湯を約20リットル出します。

※状況により複数回お湯を出す場合があります。

貯湯量がいっぱいに近づくと排湯メッセージが表示されます。「発電継続のために、お湯をふろに出します。」



発電継続のために、お湯をふろに出します。

- ・排湯アナウンス
リモコンから表示と音声でお知らせ

- ・貯湯量は、リモコンより「MENU」→「エネルギー」→「まとめてLIVE」を選択し、左画面（一例）で確認ください。



停電時に電気を使う

DC 自動排湯について

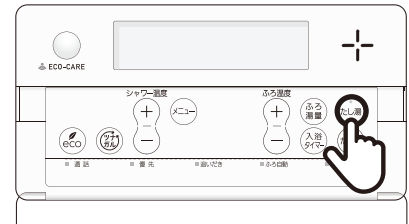
(停電時自立発電モデル(DC出力仕様)をお使いのお客さまへ) (つづき)

お知らせ

リモコン A

- お湯を使用するときはリモコンの給湯温度表示を確認し、手でお湯の温度を確認してから使用してください。
- 停電時自立発電 (DC 出力) 時の自動排湯動作中に排湯を中止したい場合は、下記リモコン操作を行ってください。ただし発電を続けるために一定時間後に、繰り返し排湯を行うことがあります。

- 浴室リモコンの「たし湯」 ボタンを押す



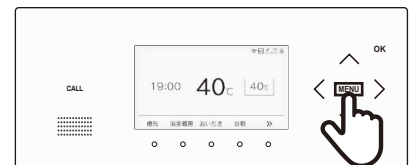
リモコン B

お湯を使用するときはリモコンの給湯温度表示を確認し、手でお湯の温度を確認してから使用してください。

リモコン C

- お湯を使用するときはリモコンの給湯温度表示を確認し、手でお湯の温度を確認してから使用してください。
- 停電時自立発電 (DC 出力) 時の自動排湯動作中に排湯を中止したい場合は、下記リモコン操作を行ってください。ただし発電を続けるために一定時間後に、繰り返し排湯を行うことがあります。

- 浴室リモコンの「MENU」 スイッチを押す
- 「ふろ」 を選択する



- 画面「たし湯」 の下にあるスイッチを押す



停電時にお湯を使う

停電の場合にお湯を使用するときは以下の操作を行ってください。

DC 停電時自立発電モデル (DC 出力仕様) をお使いのお客さまへ

リモコン A リモコン B リモコン C 発電リモコン

通常の熱源機使用方法でお使いください。

※ハイブリット蓄電システムの状態によっては、お湯が使えない場合があります。

※熱源機の機種によっては、使用できないことがあります。

こんなときは

断水のときは

■ 発電中に断水した場合

断水状態から復帰するまでお湯は使用しないでください。断水中にお湯の給湯栓を開くと、ごく稀にリモコンに [82F01] 等を表示し、運転を停止する場合があります。運転が停止した場合は、エラー発生時の処置方法 (86 ページ参照) を参照してください。

長期間使用しないときは

■ 10日以上不在にされる場合 (旅行等の場合)

リモコンで「不在停止」にし、発電ユニットを停止させてください。(手順は 44 ページを参照してください)
※ 発電ユニットのブレーカーは「ON」のままにしておいてください。

■ 1か月以上不在にされる場合

リモコンで「発電禁止」にし、発電ユニットを停止させた後、発電ユニットの水抜き (74 ページ参照) を実施してください。

※水抜き後の使用再開時には、専門のサービスマンがお伺いしますので、販売店またはもよりの大阪ガスにご連絡ください。

■ 1か月未満でも電源が確保できないことに加えて凍結のおそれがある場合 (気温が氷点下になる可能性がある場合)

リモコンで「発電禁止」にし、発電ユニットを停止させた後、発電ユニットの水抜き (74 ページ参照) を実施してください。

※水抜き後の使用再開時には、専門のサービスマンがお伺いしますので、販売店またはもよりの大阪ガスにご連絡ください。

気温が -10℃を下回るときは

■ 凍結が予想される場合

発電を停止しているときに気温が -10℃を下回ると、凍結防止機能が作動していても凍結が発生する可能性があります。気温が -10℃を下回ることが予想される場合は、「フロント R 小パネルの取り外し方法」(22 ページ) を参照し、発電ユニットのフロント R 小パネルを外した後、水抜き手順 (74 ページ参照) を実施してください。

-10℃を下回ったときの凍結による機器の破損は製品保証の対象外となります。

ガスの供給が途絶えたときは

■ 発電中にガスの供給が途絶えた場合

燃料ガスの供給圧力が低下すると、リモコンに [A0F00] を表示し、発電が停止する場合があります。ガスマイコンメーターの遮断、ガス栓等を確認し、エラー発生時の処置方法を参照してください。

ガスの供給が途絶えたときに温水を使いたいときは (ヒーター給湯モード)

ヒーター給湯モードを実施すると、発電ユニット内部の電気ヒーターを用いて貯湯タンクの水を昇温し、最高 40℃の温水を使用することができます。ただし、水温が低い場合等、環境条件によっては 40℃に達しない場合があります。

■ ヒーター給湯モードについて

- ヒーター給湯モードで温水の昇温完了するまでの目安時間、温水の温度、使用可能な目安量は下表のとおりです

季節	夏	春、秋	冬
昇温完了までの時間	約 8 時間	約 17 時間	約 24 時間
温水の温度	約 40℃	約 40℃	約 33℃
使用可能な目安量	約 80L	約 50L	約 50L

※設置環境により、上記の値と異なる場合があります。

- ヒーター給湯モードを使用するためには

- ・ 断水時は昇温は可能ですが温水の使用ができません。断水していないことを確認してください。
- ・ ご使用前に放熱器排気口の目張りを実施ください。(詳細は、「■放熱器排気口の目張り処理」を参照願います)実施しないと温水が貯まるのに時間が掛かったり、温水が貯まらないおそれがあります。

- ヒーター給湯 (リモコン B・リモコン C はヒーター給湯モード) が表示されない場合は

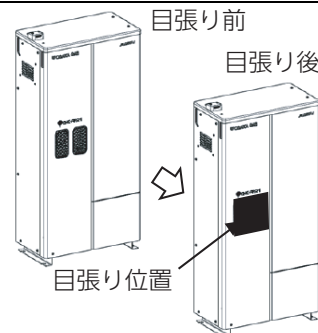
- ・ 使用可能な条件が成立していないとヒーター給湯モードを選択するボタンが表示されません。以下の場合は貯湯タンクの洗浄 (80 ページ参照) を実施してください。
 - ・ リモコン A、リモコン B、リモコン C の場合
発電が停止しており、発電禁止設定および ON/OFF スイッチが OFF でも表示されないとき
 - ・ 発電リモコンの場合
発電が停止しており、発電禁止設定でも表示されないとき

- その他ご注意ください

- ・ リモコン A、リモコン B の場合
ヒーター給湯モード中にリモコンの「ON/OFF」スイッチを ON にするとヒーター給湯モードが解除されます。
- ・ リモコン C の場合
ヒーター給湯モード中はリモコンの「ON/OFF」スイッチを受付ません。
- ・ 発電リモコンの場合
必ず熱源機の運転スイッチを「OFF」にしてください。「OFF」にしない場合、高温の温水が出てやけどをするおそれがあります。
- ・ ヒーター給湯モード中に停電が発生した場合、停電復旧後には通常の状態に戻りますので、温水を使用する場合は再度ヒーター給湯モードを実施ください。
- ・ 昇温完了前は温水の温度が低いことがあります。
- ・ 昇温完了前に温水を使用すると、昇温完了までの時間が長くなります。
- ・ 温水を使用開始した後は、可能な限り間隔を空けずにご使用ください。間隔が空くと温水の温度が下がります。
- ・ 温水を使い切るとヒーター給湯モードは自動解除されます。続けて温水を使いたい場合は再度ヒーター給湯モードを実施してください。
- ・ ヒーター給湯モードにて昇温完了後に温水を使用した場合、設置環境によっては温水がなくなってから表示が出るまでに 10 分以上かかる場合があります。
- ・ ガスの供給が復帰し、ヒーター給湯モードを解除した直後に温水をご使用される場合、高温の温水が出湯されるおそれがありますのでご注意ください。

■ 放熱器排気口の目張り処理

- ご使用前に放熱器排気口の目張りを実施ください。実施しないと温水が貯まるのに時間が掛かったり、温水が貯まらないおそれがあります。
- ガスの供給が復旧し、通常の発電運転に戻る際は目張り（マグネットシート等）を必ずはずしてください。発電出力を抑制したり、発電を停止する場合（リモコンにエラーコード [03F07]、[95F00] を表示することがあります）があります。
- ご使用開始時にお渡しするマグネットシートにて目張りが可能です。お手元にマグネットシートがない場合は、ご家庭の物で目張りを実施下さい。



＜ヒーター給湯モードの操作手順＞

手順	リモコン A	リモコン B	リモコン C	発電リモコン
1.	発電禁止にする (42 ページ参照)			
2.	発電禁止表示を確認後リモコンの「ON/OFF」スイッチを「OFF」にし、(「ON/OFF」スイッチ部の LED ランプを消します) 液晶画面部をタッチする	発電禁止表示を確認後リモコンの「ON/OFF」スイッチを「OFF」にし、(「ON/OFF」スイッチ部の LED ランプを消します) 液晶画面部をタッチする	発電禁止表示を確認後リモコンの「ON/OFF」スイッチを「OFF」にする (「ON/OFF」スイッチ部の LED ランプを消します)	発電禁止表示を確認後リモコンの「ON/OFF」スイッチを「ON」、または液晶画面部をタッチする ※ 必ず熱源機の運転スイッチを「OFF」にしてください。「OFF」にしない場合、高温の温水が出てやけどをするおそれがあります。
3.	トップ画面から [メニュー] をタッチする 	トップ画面から [メニュー] をタッチする 	[MENU] スイッチを押す 	トップ画面から [メニュー] をタッチする
4.	[発電] をタッチする 	[発電] をタッチする 	へまたは∨で [発電] を選択し、または「OK」を押す 	[発電] をタッチする
5.	[ヒーター給湯] をタッチする 	[ヒーター給湯モード] をタッチする 	へまたは∨で [ヒーター給湯モード] を選択し、または「OK」を押す 	[ヒーター給湯] をタッチする
6.	放熱器排気口の目張りを実施する (詳細は、「■放熱器排気口の目張り処理」を参照願います)			
7.	[する] をタッチする 	[OFF] をタッチし、[ON] にする 	へを押し、「ON」を選択し「OK」を押す 	[する] をタッチする

※1 「●ヒーター給湯 (リモコン B・リモコン C はヒーター給湯モード) が表示されない場合は」 (66 ページ参照) を行ってください。

こんなときは

ご使用の前に

手順	リモコン A	リモコン B	リモコン C	発電リモコン
8.	放熱器排気口が目張りされていることを確認後 [OK] をタッチする 	放熱器排気口が目張りされていることを確認後 [はい] をタッチする 	放熱器排気口が目張りされていることを確認後 [OK] を押す 	放熱器排気口が目張りされていることを確認後 [OK] をタッチする
9.	ヒーター給湯モードマークが点滅を始めます。点灯に変わると昇温完了です。 	ヒーター給湯モードマークが点滅を始めます。点灯に変わると昇温完了です。 	ヒーター給湯モードマークが点滅を始めます。点灯に変わると昇温完了です。 	ヒーター給湯モードマークが点滅を始めます。点灯に変わると昇温完了です。

発電

- 温水の使用時は、手で温度を確認してから使用してください。
- 温水を使用開始した後は間隔をあげずにご使用ください。

■ ご使用中に以下の画面になった場合

リモコン A	リモコン B	リモコン C	発電リモコン

温水がなくなりました。続けて温水をご使用になる場合は、「ヒーター給湯モードの操作手順」の手順 3 から実施してください。温水をご使用にならない場合は、放熱器排気口の目張りを取り外します。

お手入れ

リモコン A	リモコン B	リモコン C	発電リモコン

以下の操作をするとこの画面になります。

- リモコンの [ON/OFF] スイッチを [ON] にした (発電リモコンを除く)
- メニュー画面より発電禁止を解除した

リモコン A、リモコン B、発電リモコンの場合

ヒーター給湯モードを再開したい場合は、[OK] または [はい] をタッチ後「ヒーター給湯モードの操作手順」を手順 1 から実施してください。温水をご使用にならない場合は、放熱器排気口の目張りを取り外します。

リモコン C の場合

「ヒーター給湯モードを解除する手順」を実施願います。

困ったときに

リモコン A	リモコン B	リモコン C	発電リモコン

以下の場合、この画面を表示しヒーター給湯モードが自動的に解除されます。

- 故障が発生した場合 (詳細は、「エラーコード表」(88 ページ) を参照願います)
- 故障対応中の場合
- タンクリフレッシュが入った場合
- 断水時にタンク排水バルブから、貯湯タンクの水を雑用水として使用した場合

リモコン表示に従い [OK]、[はい]、[決定] をタッチ後、表示されているエラーの処置を行ってください。(詳細は、「エラー発生時の処置方法について」(86 ページ) を参照願います)

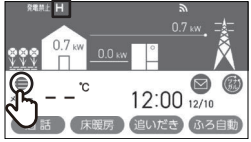


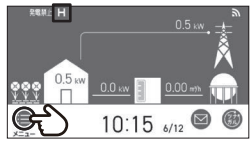


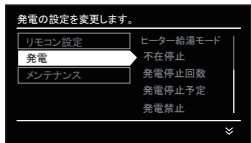
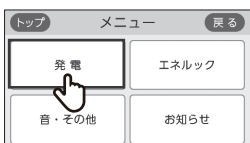

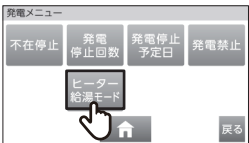
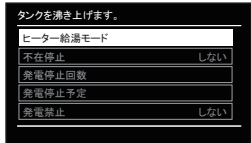
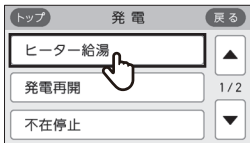
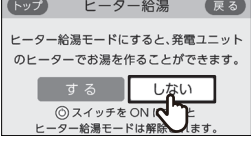
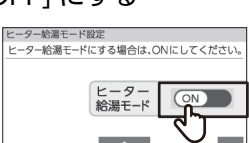
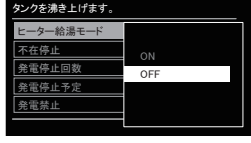
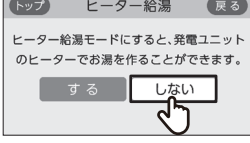
知っておいてください

■ ヒーター給湯モードを終了する

● ヒーター給湯モードを解除する手順

ヒーター給湯モードの表示中にヒーター給湯モードを解除したい場合は、下記手順を実施してください。

※ヒーター給湯モードの表示がされていないときでも、手順 1 は必ず実施願います。

手順	リモコン A	リモコン B	リモコン C	発電リモコン
1.	放熱器排気口の目張り（マグネットシート等）を取り外してください。発電出力を抑制したり、発電を停止したりする場合（リモコンにエラーコード [03F07]、[95F00] を表示することがあります）があります。目張りの取り外しを行わなかったことが原因による対応は、有償となります。			
2.	トップ画面から [メニュー] をタッチする 	トップ画面から [メニュー] をタッチする 	[MENU] スイッチを押す 	トップ画面から [メニュー] をタッチする 
3.	[発電] をタッチする 	[発電] をタッチする 	へまたは∨で [発電] を選択し、または [OK] を押す 	[発電] をタッチする 
4.	[ヒーター給湯] をタッチする 	[ヒーター給湯モード] をタッチする 	へまたは∨で [ヒーター給湯モード] を選択し、または [OK] を押す 	[ヒーター給湯] をタッチする 
5.	[しない] をタッチする 	[ON] をタッチし、[OFF] にする 	∨を押し、[OFF] を選択し [OK] を押す 	[しない] をタッチする 

■ ヒーター給湯モード終了後、発電運転を再開する

手順	リモコン A	リモコン B	リモコン C	発電リモコン
1.	放熱器排気口の目張りが取り外されていることを確認する ※ 発電出力を抑制したり、発電を停止する場合があります。目張りの取り外しを行わなかった場合の故障修理は、有償となります。			
2.	メニュー画面より発電禁止を解除する（42 ページ参照）			

こんなときは

災害時等緊急停止のときは

■ ガス栓を閉にし、屋内分電盤の専用ブレーカーを OFF にする

再使用時は、「ご使用前の確認」(21 ページ参照)を行ってください。

■ 凍結のおそれがある場合 (気温が氷点下になる可能性がある場合) は水抜きをする

「フロント R 小パネルの取り外し方法」(22 ページ)を参照し、発電ユニットのフロント R 小パネルを外した後、水抜き手順 7 ~ 12 (76 ページ参照)を実施してください。

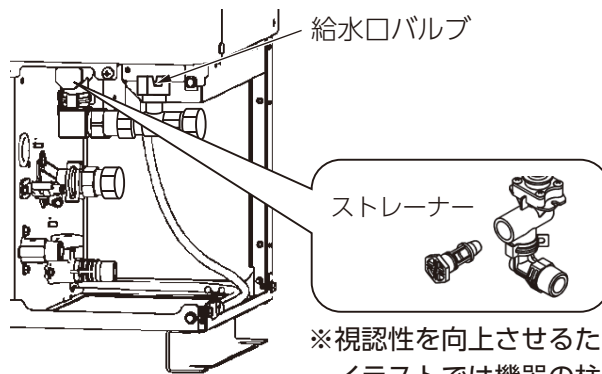
※安全のため、この手順の前に「安全のため必ず守ってください」(10 ~ 17 ページ)をお読みください。
電源供給がないため、貯湯タンク内のお湯の冷却ができません。やけどする場合がありますので排出されるお湯に触れないようにしてください。

■ 断水した場合の再使用のときは

給水栓 (レバー式の場合はレバーを水側に切り替えて) を開け、汚れた水を十分に流してから使用してください。汚れがひどい場合は、給水接続口のストレーナーを掃除してください。

◆ ストレーナーの掃除方法

1. 給水口バルブを閉じる
2. 給水接続口のストレーナーをマイナスドライバーまたはコインで反時計回りに回転させて取り外す
3. ストレーナーの目詰まりを掃除し、元の場所に取り付ける
4. 給水口バルブを開ける



自立 停電のときは (停電時自立発電モデルをお使いのお客さまへ)

■ 発電中に停電した場合

停電時自立発電機能により発電を継続します。

発電した電気は停電時自立発電専用コンセントより出力します。(停電してから約 90 秒後に出力開始します) (49 ページ参照してください)

● 停電が復旧した場合

停電が復旧してから約 5 分後に、自動的に通常運転に切り替わります。

※停電時自立発電専用コンセントは停電しているときにだけお使いください。なお、停電が復旧するとすぐに停電時自立発電専用コンセントへの電気の供給は止まりますので、ご注意ください。

■ 待機中・起動中・停止中に停電した場合

起動中、停止中の場合は即時停止し、停電中は起動しません。

● 停電が復旧した場合 (起動中に停止した場合、停止中の場合)

・リモコンの日時設定 (詳細はリモコンの取扱説明書を参照) をしてください。

停電時間が 48 時間を超えていない場合は、自動的に再起動します (発電禁止による停止中は自動再起動はしません)。停電時間が 48 時間を超えている場合は、暗証番号を入力 (詳細はリモコンの取扱説明書を参照) 後、再起動します。ただし、内部温度が高い場合は、冷却 (約 10 ~ 12 時間) 後、自動再起動になります。

※暗証番号とは機器を設置業者からお客さまに引き渡しする際、お客さまに登録していただいた番号です。

自立 工事などで停電、断水、ガス停止が事前に分かっているときは (停電時自立発電モデルをお使いのお客さまへ)

■ 停電が事前に分かっている場合

- ・ 事前準備
事前準備は特にありません。
ただし、停電予定期間中に発電をさせたい場合は、「発電停止予定日」を確認し、変更する必要がある場合は、「■台風の接近などで停電のおそれがある場合は以下の操作を行うことで、停電時でも発電を継続させることができます」(46 ページ参照)を行ってください。
- ・ 停電復旧後
必要な操作は特にありません。

■ 断水が事前に分かっている場合

- ・ 事前準備
事前準備は特にありません。
※断水中にお湯を使用すると、ごく稀に発電が停止する場合がありますため、お湯は使用しないでください。
- ・ 水道復旧後
給水栓(レバー式の場合はレバーを水側に切り替えて)を開け、汚れた水を十分に流してから使用してください。汚れがひどい場合は、給水接続口のストレーナを掃除(「■断水した場合の再使用のときは」(70 ページ参照))してください。

■ ガス停止が事前に分かっている場合

- ・ 事前準備
ガスが停止する半日以上前に「発電禁止」操作(42 ページ参照)により、発電ユニットを停止してください。
- ・ ガス復旧後
「■発電禁止を解除し発電をする」(34 ページ参照)を行ってください。

停電のときは(標準モデルをお使いのお客さまへ)

■ 発電中に停電した場合

停電中は、アイドル状態になり、復旧待機しています。(最長 48 時間) ガス、水は閉めないでください。
※お客さまの発電ユニットの運転状態によっては停電中に運転が停止する場合があります。
※アイドル状態とは、運転をしていますが発電電力を出力していない(0W)状態のことです。

● 停電が復旧した場合

停電が復旧してから約 5 分後に、自動的に通常運転に切り替わります。

■ 待機中・起動中・停止中およびアイドル中に停電した場合

起動中、停止中、およびアイドルが 48 時間経過後の場合は即時停止し、停電中は起動しません。

● 停電が復旧した場合(起動中およびアイドル中に停止した場合、停止中の場合)

- ・ リモコンの日時設定(詳細はリモコンの取扱説明書を参照)をしてください。
停電時間が 48 時間を超えていない場合は、自動的に再起動します(発電禁止による停止中は自動再起動はしません)。停電時間が 48 時間を超えている場合は、暗証番号を入力(詳細はリモコンの取扱説明書を参照)後、再起動します。ただし、内部温度が高い場合は、冷却(約 10 ~ 12 時間)後、自動再起動になります。
- ※暗証番号とは機器を設置業者からお客さまに引き渡す際、お客さまに登録していただいた番号です。

こんなときは

工事などで停電、断水、ガス停止が事前に分かっているときは (標準モデルをお使いのお客さまへ)

■ 停電が事前に分かっている場合

- ・ 事前準備
停電する半日以上前に「発電禁止」操作 (42 ページ参照) により、発電ユニットを停止してください。
- ・ 停電復旧後
「■ 発電禁止を解除し発電をする」 (34 ページ参照) を行ってください。

■ 断水が事前に分かっている場合

- ・ 事前準備
事前準備は特にありません。
※断水中にお湯を使用すると、ごく稀に発電が停止する場合がありますため、お湯は使用しないでください。
- ・ 水道復旧後
給水栓 (レバー式の場合はレバーを水側に切り替えて) を開け、汚れた水を十分に流してから使用してください。汚れがひどい場合は、給水接続口のストレーナを掃除 (「■ 断水した場合の再使用のときは」 (70 ページ参照)) してください。

■ ガス停止が事前に分かっている場合

- ・ 事前準備
ガスが停止する半日以上前に「発電禁止」操作 (42 ページ参照) により、発電ユニットを停止してください。
- ・ ガス復旧後
「■ 発電禁止を解除し発電をする」 (34 ページ参照) を行ってください。

DC 停電のときは (停電時自立発電モデル (DC 出力仕様) をお使いのお客さまへ)

■ 発電中に停電した場合

停電時自立発電機能 (DC 出力仕様) により発電を継続し、蓄電池ユニットに充電します。
詳しくは蓄電池ユニットの取扱説明書を参照してください。

● 停電が復旧した場合

停電が復旧してから約 5 分後に、自動的に通常運転に切り替わります。

■ 待機中・起動中・停止中に停電した場合

起動中、停止中の場合は即時停止し、停電中は起動しません。

● 停電が復旧した場合 (起動中に停止した場合、停止中の場合)

- ・ リモコンの日時設定 (詳細はリモコンの取扱説明書を参照) をしてください。
停電時間が 48 時間を超えていない場合は、自動的に再起動します (発電禁止による停止中は自動再起動はしません)。停電時間が 48 時間を超えている場合は、暗証番号を入力 (詳細はリモコンの取扱説明書を参照) 後、再起動します。ただし、内部温度が高い場合は、冷却 (約 10 ~ 12 時間) 後、自動再起動になります。
- ※暗証番号とは機器を設置業者からお客さまに引き渡しする際、お客さまに登録していただいた番号です。

DC 工事などで停電、断水、ガス停止が事前に分かっているときは (停電時自立発電モデル (DC 出力仕様) をお使いのお客さまへ)

■ 停電が事前に分かっている場合

- ・ 事前準備
事前準備は特にありません。
ただし、停電予定期間中に発電をさせたい場合は、「発電停止予定日」を確認し、変更する必要がある場合は、「■台風の接近などで停電のおそれがある場合は以下の操作を行うことで、停電時でも発電を継続させることができます」(59 ページ参照) を行ってください。
- ・ 停電復旧後
必要な操作は特にありません。

■ 断水が事前に分かっている場合

- ・ 事前準備
事前準備は特にありません。
※断水中にお湯を使用すると、ごく稀に発電が停止する場合がありますため、お湯は使用しないでください。
- ・ 水道復旧後
給水栓 (レバー式の場合はレバーを水側に切り替えて) を開け、汚れた水を十分に流してから使用してください。汚れがひどい場合は、給水接続口のストレーナを掃除 (「■断水した場合の再使用のときは」(70 ページ参照)) してください。

■ ガス停止が事前に分かっている場合

- ・ 事前準備
ガスが停止する半日以上前に「発電禁止」操作 (42 ページ参照) により、発電ユニットを停止してください。
- ・ ガス復旧後
「■発電禁止を解除し発電をする」(34 ページ参照) を行ってください。

DC 蓄電池ユニットの蓄電池残量が 0% のときは (停電時自立発電モデル (DC 出力仕様) をお使いのお客さまへ)

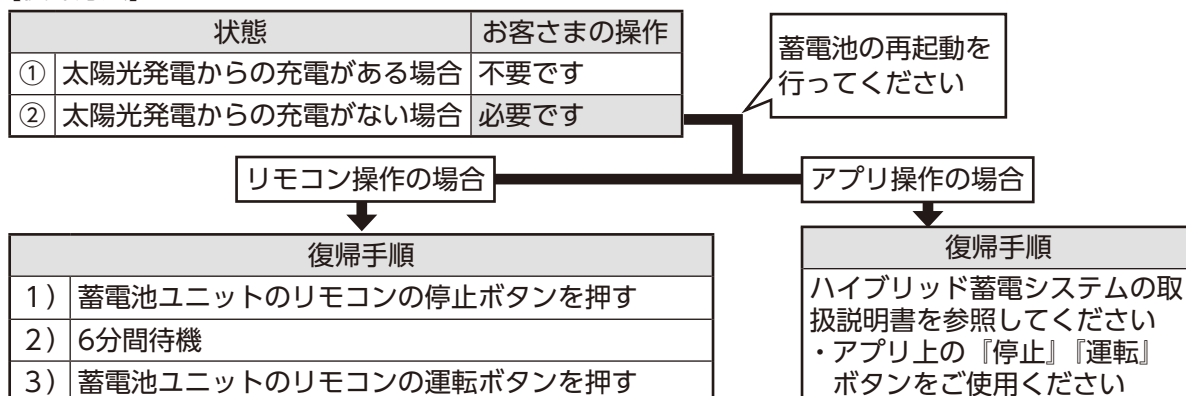
■ エリーパワー製 (システム型式: EPS-40S, EPS-40D)

蓄電池残量が 0% の状態で、発電ユニットが停電時自立発電 (DC 出力) を開始する場合、蓄電池ユニットの保護制御が働き停電時自立発電 (DC 出力) できない場合があります。

その場合、以下の復帰方法 (※) を行ってください。

※操作はリモコンとアプリの 2 通りがあります。いずれかを選択してください。

【復帰方法】



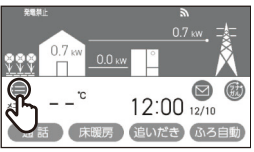
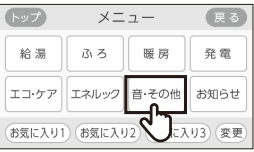
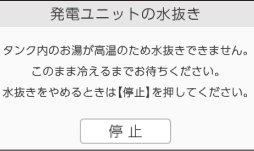
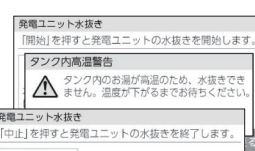
水抜きするとき

発電ユニットの水を抜く

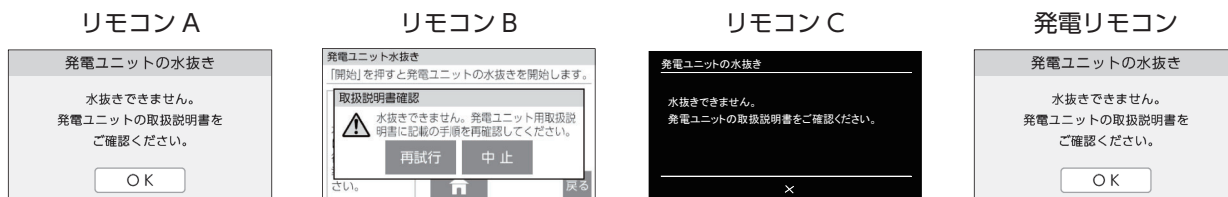
水抜きをするときは、発電が停止している必要があります。
前日までに、発電ユニットを「発電禁止」による停止操作(42 ページ参照)で停止させて、水抜きをしてください。

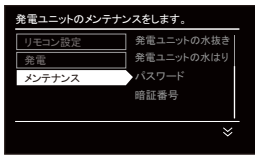
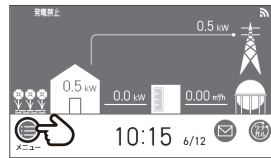
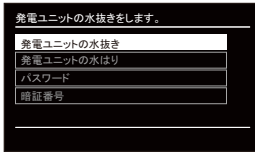
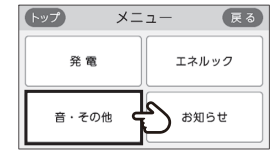
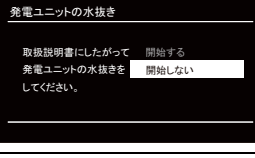
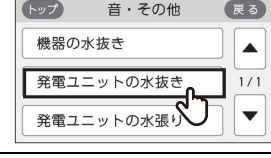
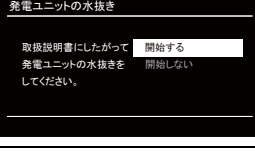
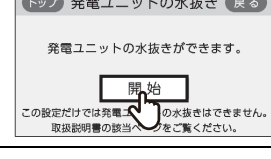
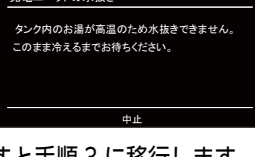
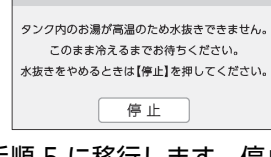
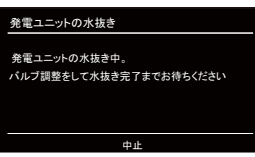
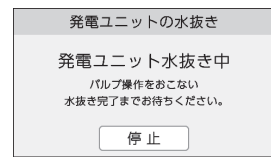
■ 水抜き手順

- 安全のため、この手順の前に「安全のため必ず守ってください」(10～17 ページ)をお読みください。
- やけど予防のため、リモコン操作によるタンク内水温の冷却(手順1～6)を行ってから、バルブ操作による水抜き(手順7～10)を行ってください。
- 使用開始時には専門のサービスマンがお伺いしますので、販売店または大阪ガスにご連絡ください。

手順	リモコン A	リモコン B
1.	リモコンの「ON/OFF」スイッチを「OFF」にし、 (「ON/OFF」スイッチ部の LED ランプを消す) 液晶画面部をタッチする	リモコンの「ON/OFF」スイッチを「OFF」にし、 (「ON/OFF」スイッチ部の LED ランプを消す) 液晶画面部をタッチする
2.	トップ画面より [メニュー] をタッチする 	トップ画面より [メニュー] をタッチする 
3.	メニュー画面より [音・その他] をタッチする 	メニュー画面より [メンテナンス] をタッチする 
4.	音・その他画面より [発電ユニットの水抜き] を タッチする 	メンテナンス画面より [発電ユニット水抜き] を タッチする 
5.	[開始] をタッチする 	[開始] をタッチする 
—	タンク内温度が低い場合でも約 10 分間は冷却 します。 タンク内水温が下がると 手順 6 に移行します。 	タンク内温度が低い場合でも約 10 分間は冷却 します。 タンク内水温が下がると 手順 6 に移行します。 
	※ [停止] をタッチすると手順 5 に移行します。停止 させない場合は、[停止] をタッチしないでください。	※ [中止] をタッチすると手順 5 に移行します。停止 させない場合は、[中止] をタッチしないでください。
6.	タンク内水温が下がったので、「フロント R 小 パネルの取り外し方法」 (22 ページ) を参照し、 発電ユニットのフロント R 小パネルを外した 後、手順 7 のバルブ操 作をする 	タンク内水温が下がったので、「フロント R 小 パネルの取り外し方法」 (22 ページ) を参照し、 発電ユニットのフロント R 小パネルを外した 後、手順 7 のバルブ操 作をする 

- 水抜き手順で下記画面が表示される場合は、発電ユニットが停止状態ではありません。発電ユニットが完全に停止後、再度操作してください。



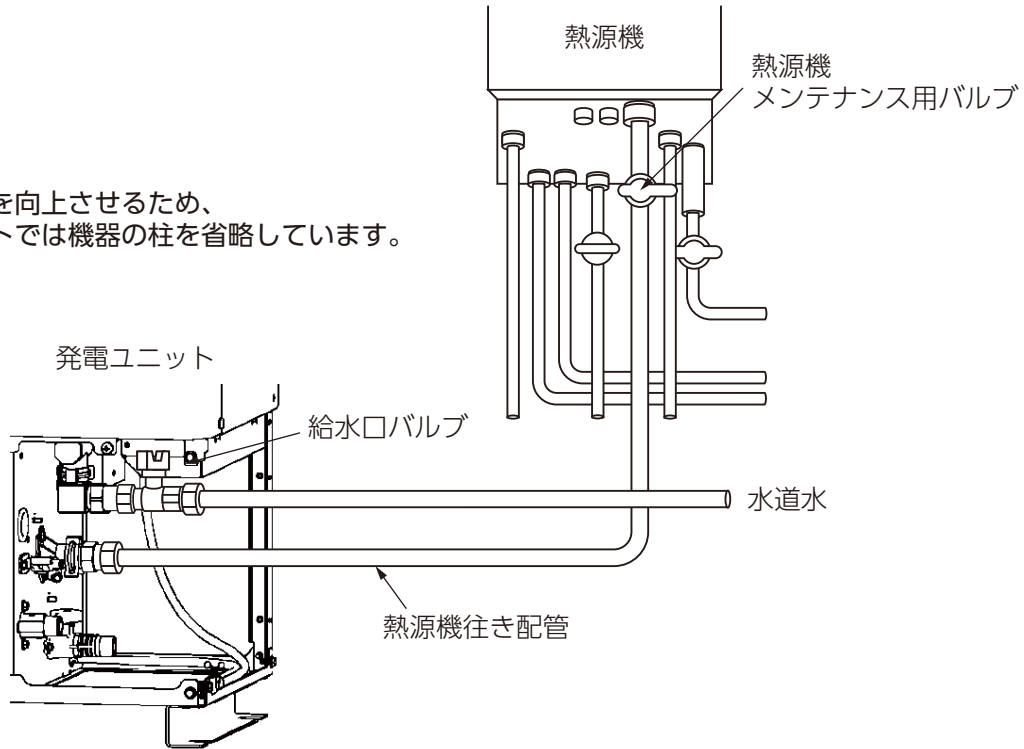
手順	リモコン C	発電リモコン
1.	リモコンの「ON/OFF」スイッチを「OFF」にし、（「ON/OFF」スイッチを消灯させる）「MENU」スイッチを押す	リモコンの「ON/OFF」スイッチを「ON」、または液晶画面部をタッチする
2.	へまたは∨で [メンテナンス] を選択し、または「OK」を押す 	トップ画面より [メニュー] をタッチする 
3.	へまたは∨で [発電ユニットの水抜き] を選択し、または「OK」を押す 	メニュー画面より [音・その他] をタッチする 
4.	へを押す 	音・その他画面より [発電ユニットの水抜き] をタッチする 
5.	「OK」を押す 	[開始] をタッチする 
—	タンク内温度が低い場合でも約 10 分間は冷却します。タンク内水温が下がると手順 6 に移行します。 ※ [中止] を選択し「OK」を押すと手順 3 に移行します。停止させない場合は、[OK] スイッチを押さないでください。 	タンク内温度が低い場合でも約 10 分間は冷却します。タンク内水温が下がると手順 6 に移行します。 ※ [停止] をタッチすると手順 5 に移行します。停止させない場合は、[停止] をタッチしないでください。 
6.	タンク内水温が下がったので、「フロント R 小パネルの取り外し方法」(22 ページ) を参照し、発電ユニットのフロント R 小パネルを外した後、手順 7 のバルブ操作をする 	タンク内水温が下がったので、「フロント R 小パネルの取り外し方法」(22 ページ) を参照し、発電ユニットのフロント R 小パネルを外した後、手順 7 のバルブ操作をする 

水抜きするときは

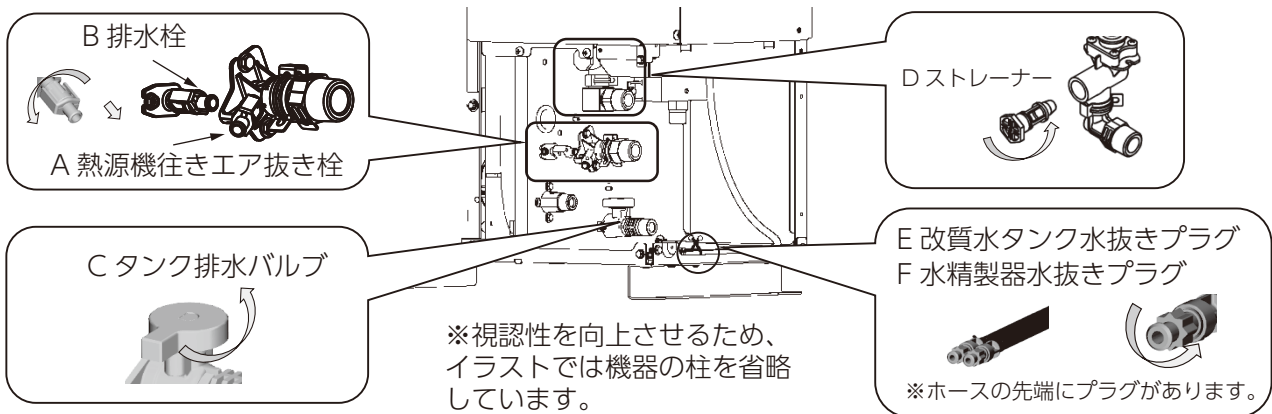
7. 下記バルブの操作をする

- 給水口バルブを閉じます。
- 熱源機行き配管途中の熱源機メンテナンス用バルブを閉じます。

※視認性を向上させるため、イラストでは機器の柱を省略しています。



- C タンク排水バルブをゆっくりと開けます。
- E 改質水タンク水抜きプラグと F 水精製器水抜きプラグを反時計回りに 1 回転させ、改質水を抜きます。(全て排水されるまで、約 30 分かかります)



8. リモコンの画面がトップ画面に移行したら、A 熱源機行きエア抜き栓、B 排水栓を反時計回りに回転させてから手前に軽く引いて開ける

※60分経過してもトップ画面に移行しない場合は、手順6の[停止],[中止],[決定]のいずれか(74、75ページ参照)をタッチして水抜きを停止し、C,E,Fのバルブまたは栓、プラグが開いていることを確認後、再度手順1より実施してください。

9. 給水接続口のストレーナーをマイナスドライバーまたはコインで反時計回りに回転させて外し、外した箇所から水が出なくなったら、D ストレーナーをもとどおりに組み付ける

10. タンクの排水配管および A 熱源機行きエア抜き栓、E、F の水抜きプラグから水が出なくなったことを確認し、E、F の水抜きプラグを時計回りに回して締める


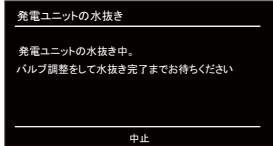
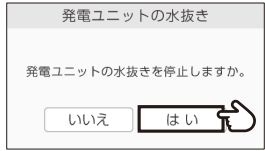

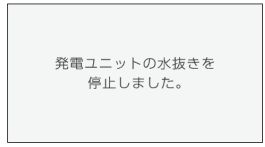
11. A 熱源機行きエア抜き栓を閉め、B 排水栓、C タンク排水バルブを閉じる

12. 発電ユニットと熱源機のガス栓を閉じ、分電盤内の発電ユニット専用ブレーカーを「OFF」にする

13. 22 ページの「フロント R 小パネルの取り付け方法」を参照し、発電ユニットのフロント R 小パネルを取り付ける

■ 水抜きを途中で停止する方法

※画面に「発電ユニットの水抜き」が表示されている状態であれば水抜きを停止できます。

手順	リモコン A	リモコン B	リモコン C	発電リモコン
1.	<p>[停止] をタッチする</p> 	<p>[中止] をタッチする</p> 	<p>「中止」(画面下のスイッチ) を押す</p> 	<p>[停止] をタッチする</p> 
2.	<p>[はい] をタッチする ※ [いいえ] をタッチすると手順1の画面に戻ります。</p> 	<p>トップ画面に移行される</p> 	<p>「OK」または画面「×」下のスイッチを押す</p> 	<p>[はい] をタッチする ※ [いいえ] をタッチすると手順1の画面に戻ります。</p> 
3.	<p>下記のリモコン表示を確認する</p> 		<p>下記画面に移行される</p> 	<p>下記のリモコン表示を確認する</p> 

水抜きするとき

災害時などに貯湯タンクのお湯を取り出す

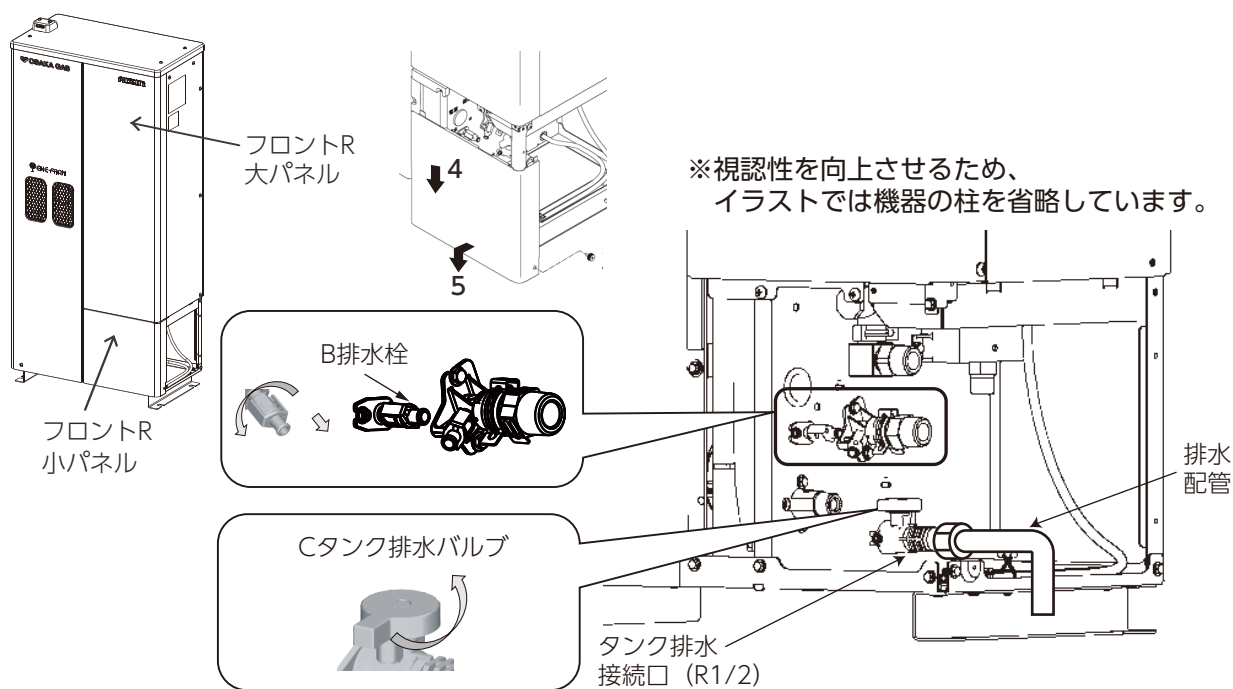
断水で水道水を使用できない場合でも、貯湯タンクのお湯（水）を取り出して雑用水として利用できます。

※ 取り出した場合、発電できなくなります。復旧後に発電運転するためには水張りが必要です。（82～83ページ参照）

※ 安全のため、この手順の前に「安全のため必ず守ってください」（10～17ページ）をお読みください。やけどする場合がありますので排出されるお湯に触れないようにしてください。

■ 取り出し手順

1. リモコンの発電状況表示（27ページ参照）、発電モードマーク（28ページ参照）の表示が消えて、発電ユニットが停止していることを確認する
停止していない場合は、「発電禁止」による停止操作（42ページ参照）で停止させてください。
2. 分電盤内の発電ユニット専用ブレーカーと熱源機に接続されたブレーカーを遮断する
3. フロントR小パネル右側面下のねじを外す
4. フロントR小パネルを下に数mmスライドさせる
5. フロントR小パネルの下端を手前に寄せながら下方向にスライドさせて取り外す



6. Cタンク排水バルブの先よりお湯（水）を受けられるようにする
7. 給水口バルブと熱源機メンテナンス用バルブを閉じる（76ページ参照）
8. Cタンク排水バルブをゆっくり開ける
9. B排水栓を反時計回りに回転させてから手前に軽く引いて開ける
取り出したお湯（水）は、雑用水として使用してください。
取水が終わったら、B排水栓、Cタンク排水バルブを閉じます。
10. 「フロントR小パネルの取り付け方法」（22ページ）を参照し、発電ユニットのフロントR小パネルを取り付ける

■ 再起動するとき

- 「水張り手順」（82ページ参照）を実施してください。
- 停電した場合は、日時がリセットされている場合がありますので、日時の設定を行ってください。48時間以上停電した場合は、暗証番号の入力を行ってください。手順詳細はリモコンの取扱説明書を参照してください。

お手入れと周囲の確認

お手入れ

※ 機器のお手入れには、手袋を着用してください。

■ 機器の外観（パネルおよび放熱器吸気口のフィルタ）が汚れている場合、水に濡らした柔らかい布をかたく絞って、軽く拭きとってください

- 機器を高水圧での水洗いはしないでください。
- 外観のお手入れに、ガソリン・シンナー・ベンジン・みがき粉・スプレーなどを使わないでください。
- お手入れの際、パネルおよび放熱器吸気口のフィルタを外さないでください。

■ 1年に1回程度、発電ユニット内の貯湯タンクの洗浄をしてください

手順	操作内容	リモコン A	リモコン B	リモコン C	発電リモコン
1.	発電ユニットを停止させる。 （「発電禁止」を参照）				42 ページ
2.	発電停止完了後、水抜きをする。 （「水抜き手順」を参照）				80、81 ページ
3.	水抜き終了後、水張りをする。 （「水張り手順」を参照）				82、83 ページ
4.	発電ユニットを起動する。 （「発電禁止を解除し発電をする」を参照）				34 ページ

※ 上記手順 2 の開始から手順 3 の終了までは熱源機は使用できなくなります。

周囲の確認

■ 発電ユニット、熱源機周辺に異常がないことの確認を月に1回程度行ってください

- 機器の周囲に可燃物および、障害物がないことを確認してください。
- 機器の排気口、吸気口、換気出口が塞がれていないことを確認してください。
- 据付金具が緩んでいないことを確認してください。

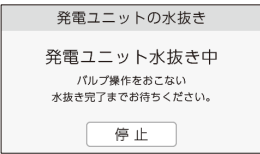

貯湯タンクの洗浄をする

※この操作開始後水張り完了までは、熱源機を使用することはできません。

貯湯タンクの水抜き手順

※安全の為、水抜き操作の前に「安全のため必ず守ってください」（10～17ページ）を参照ください。
 ※やけど予防のため、リモコン操作によるタンク内水温の冷却（手順1～6）を行ってから、バルブ操作による水抜き（手順7～11）を行ってください。

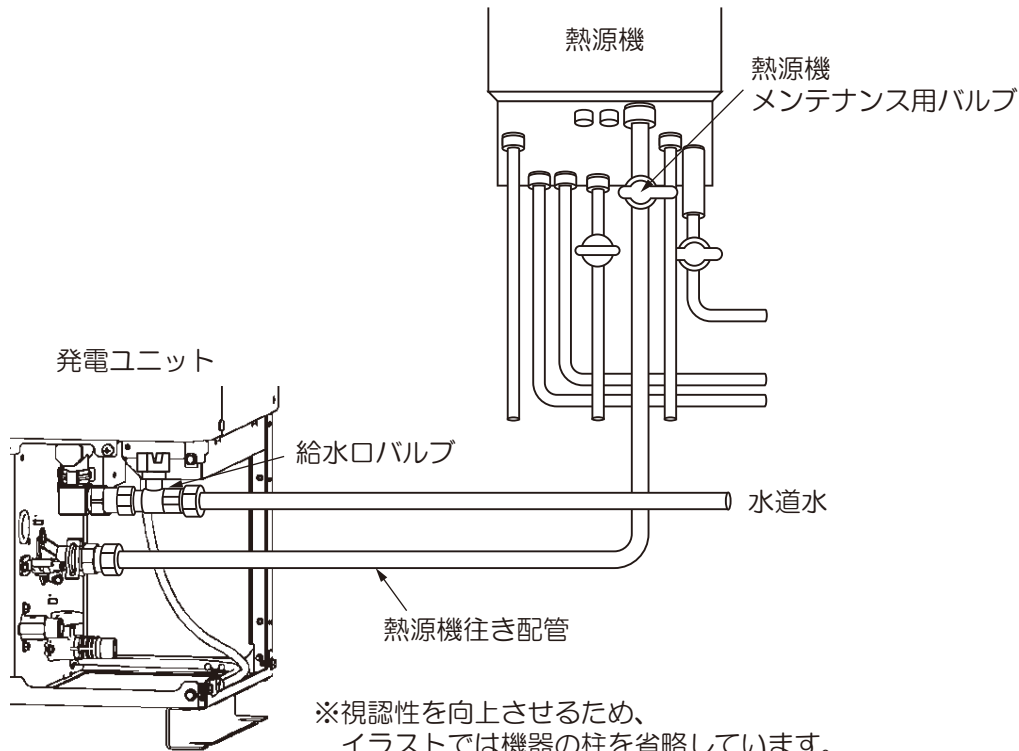
手順1～5は、74ページ参照してください。

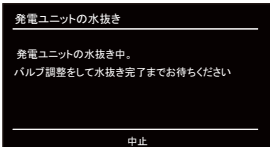
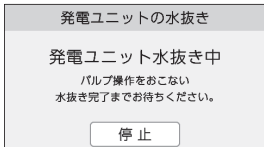
手順	リモコン A	リモコン B
6.	<p>タンク内水温が下がったので、「フロント R 小パネルの取り外し方法」（22 ページ）を参照し、発電ユニットのフロント R 小パネルを外した後、手順 7 のバルブ操作をする</p> 	<p>タンク内水温が下がったので、「フロント R 小パネルの取り外し方法」（22 ページ）を参照し、発電ユニットのフロント R 小パネルを外した後、手順 7 のバルブ操作をする</p> 

共通

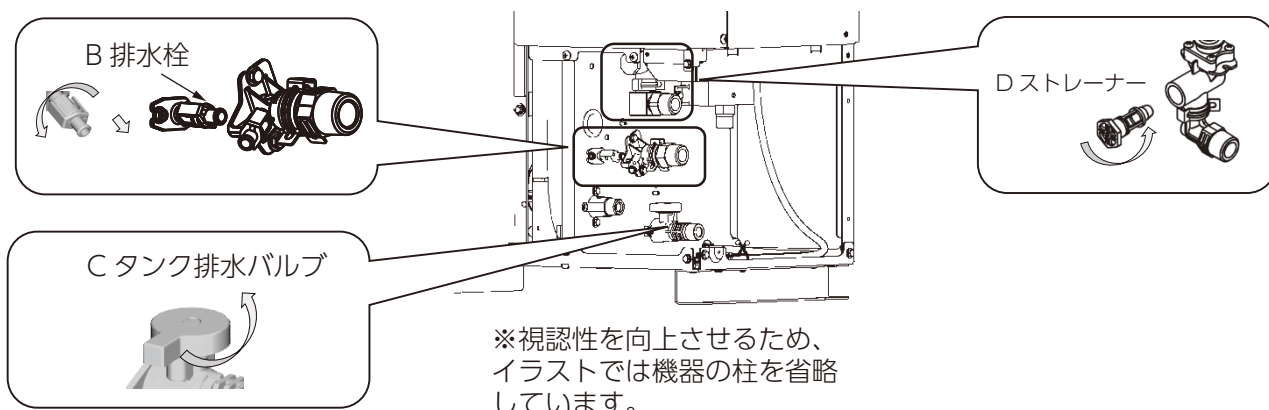
7. 下記のバルブの操作をする

- ・給水口バルブを閉じます。
- ・熱源機行き配管途中の熱源機メンテナンス用バルブを閉じます。



手順	リモコン C	発電リモコン
6.	<p>タンク内水温が下がったので、「フロント R 小パネルの取り外し方法」(22 ページ) を参照し、発電ユニットのフロント R 小パネルを外した後、手順 7 のバルブ操作をする</p> 	<p>タンク内水温が下がったので、「フロント R 小パネルの取り外し方法」(22 ページ) を参照し、発電ユニットのフロント R 小パネルを外した後、手順 7 のバルブ操作をする</p> 



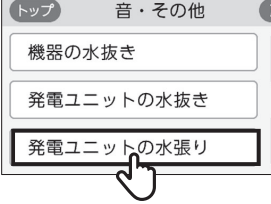
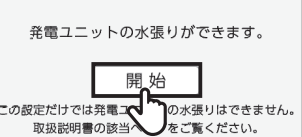
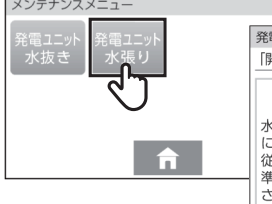
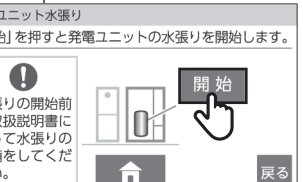
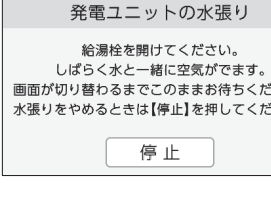

- C タンク排水バルブをゆっくりと開けます。

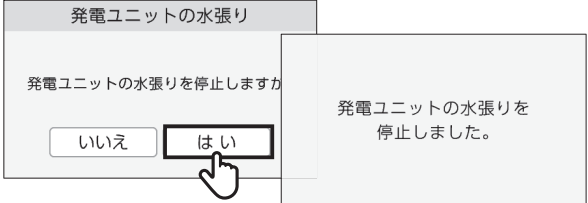
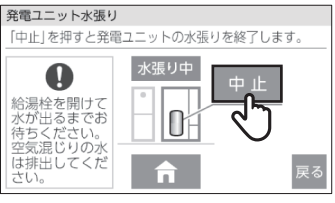


8. リモコンの画面がトップ画面に移行したら、B 排水栓を反時計回りに回転させてから手前に軽く引いて開ける
 ※60 分経過してもトップ画面に移行しない場合は、手順 6 の [停止],[中止],[決定] のいずれか(上表参照) をタッチして水抜きを停止し、C のバルブまたは栓が開いていることを確認後、再度手順 1 より実施してください。
9. 給水配管接続口の D ストレーナをマイナスドライバーまたはコインで反時計回りに回転させて、取り外す
10. D ストレーナの目詰まりを掃除し、元の場所に取り付ける
11. タンク排水配管よりお湯(水)が出なくなったら、B 排水栓を閉め、C タンク排水バルブを閉じる

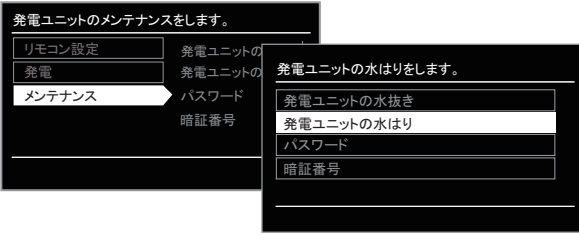

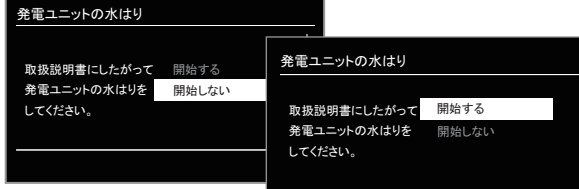
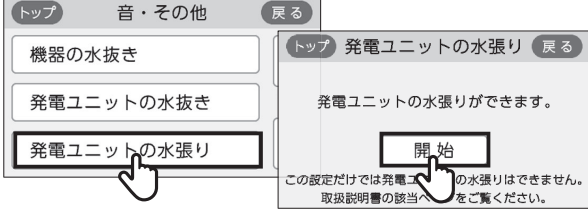
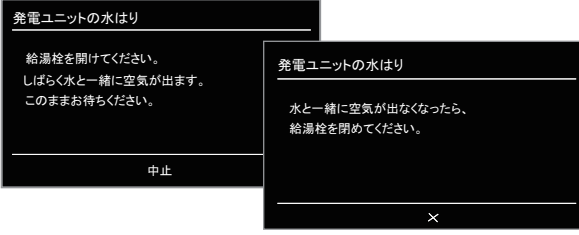
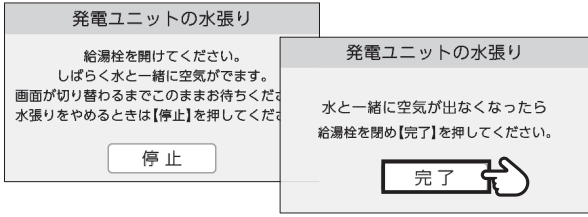
貯湯タンクの洗浄をする

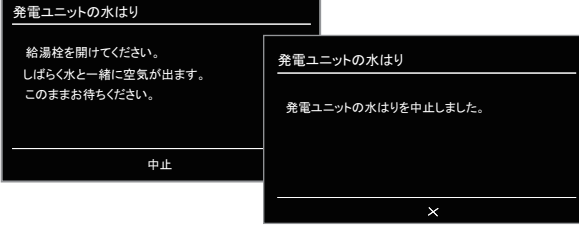
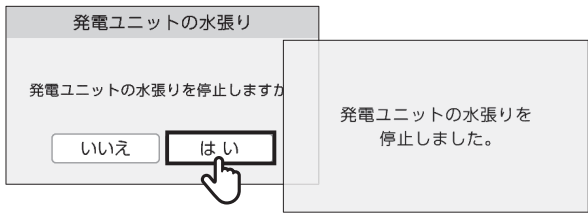
水張り手順

手順	リモコン A	リモコン B
1.	リモコンの「ON/OFF」スイッチを「OFF」にし、 （「ON/OFF」スイッチ部の LED ランプを消す） 液晶画面部をタッチする	リモコンの「ON/OFF」スイッチを「OFF」にし、 （「ON/OFF」スイッチ部の LED ランプを消す） 液晶画面部をタッチする
2.	トップ画面より [メニュー] → [音・その他] を タッチする 	トップ画面より [メニュー] → [メンテナンス] を タッチする 
3.	音・その他画面より [発電ユニットの水張り] → [開始] をタッチする  	メンテナンス画面より [発電ユニットの水張り] → [開始] をタッチする  
4.	「フロント R 小パネルの取り外し方法」(22 ページ) を参照し、発電ユニットのフロント R 小パネルを外した後、発電ユニットの給水口バルブ・熱源機メンテナンス用バルブを開ける (80 ページ参照)	「フロント R 小パネルの取り外し方法」(22 ページ) を参照し、発電ユニットのフロント R 小パネルを外した後、発電ユニットの給水口バルブ・熱源機メンテナンス用バルブを開ける (80 ページ参照)
5.	屋内の給湯栓を開ける。給湯栓から空気が出なくなったら、給湯栓を閉めてから、[完了] をタッチする ※ 給湯栓・・ 屋内の給湯蛇口です。 	屋内の給湯栓を開ける。給湯栓から空気が出なくなったら、給湯栓を閉めてから、[確認] をタッチする ※ 給湯栓・・ 屋内の給湯蛇口です。 
6.	「フロント R 小パネルの取り付け方法」(22 ページ) を参照し、発電ユニットのフロント R 小パネルを取り付ける	「フロント R 小パネルの取り付け方法」(22 ページ) を参照し、発電ユニットのフロント R 小パネルを取り付ける

途中で停止する場合	屋内の給湯栓を閉めてから、手順 5 画面の [停止] をタッチし、下画面の [はい] をタッチする ※ [いいえ] をタッチすると前の画面に戻ります。 	屋内の給湯栓を閉めてから、[中止] をタッチする 
-----------	---	--

※ 水張りを途中で停止した場合は、再度手順 1 から実施してください。

手順	リモコン C	発電リモコン
1.	リモコンの「ON/OFF」スイッチを「OFF」にし、 （「ON/OFF」スイッチを消灯させる） 「MENU」スイッチを押す	リモコンの「ON/OFF」スイッチを「ON」、または 液晶画面部をタッチする
2.	へまたは∨で [メンテナンス] を選択し、または 「決定」を押す、その後へまたは∨で [発電ユニットの水はり] を選択し、または「OK」を押す 	トップ画面より [メニュー] → [音・その他] を タッチする 
3.	へを押して「OK」を押す 	音・その他画面より [発電ユニットの水張り] → [開始] をタッチする 
4.	「フロント R 小パネルの取り外し方法」(22 ページ) を参照し、発電ユニットのフロント R 小パネルを外した後、発電ユニットの給水口バルブ・熱源機メンテナンス用バルブを開ける (80 ページ参照)	
5.	屋内の給湯栓を開ける。給湯栓から空気が出なくなったら、給湯栓を閉めてから、「OK」を押す ※ 給湯栓・・屋内の給湯蛇口です。 	熱源機の給湯スイッチを「OFF」にし、屋内の給湯栓を開ける。給湯栓から空気が出なくなったら、給湯栓を閉めてから、[完了] をタッチする ※ 給湯栓・・屋内の給湯蛇口です。 
6.	「フロント R 小パネルの取り付け方法」(22 ページ) を参照し、発電ユニットのフロント R 小パネルを取り付ける	

途中で停止する場合	屋内の給湯栓を閉めてから、画面「中止」下のスイッチを押す 	屋内の給湯栓を閉めてから、手順 5 画面の [停止] をタッチし、下画面で [はい] をタッチする ※ [いいえ] ボタンを押すと前の画面に戻ります。 
-----------	---	--

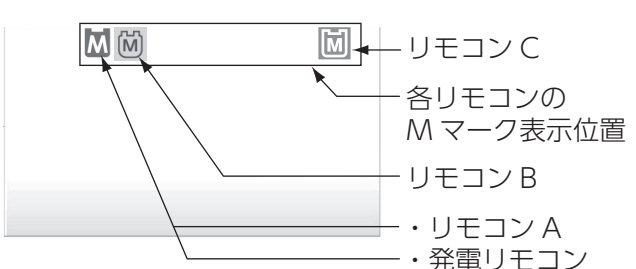
故障・異常かな？と思ったら

次の場合は、故障ではありません。

症状	原因
排気口から湯気が出ている。基礎が濡れている。	排気ガス中の水蒸気が凝縮し湯気が立つことがあります。排気口付近に結露が発生することがあります。結露の状況によっては機外へ排水し、基礎が濡れることがあります。
排気キャップの排気口周囲に、白い付着物がつく。	排気口付近の結露水に含まれる成分が付着する場合があります。付着した場合は布等により拭き取ることができます。
放熱器吸気口のフィルタに白い付着物がつく。	背面パネルに含まれる成分が放熱器吸気口のフィルタに付着する場合があります。付着した場合は布等により拭き取ることができます。
お湯を使っていないのに運転している。 お湯を使っているのに運転しない。	発電ユニットの発電・停止は、お湯を使う時間帯と必ずしも一致しません。
停止後も運転音がする。	機器を保護するために、停止後約 3 ～ 5 時間程度は運転しています。
排水配管から水がポタポタ出る。	排気ガス中の水蒸気が凝縮して水となり、排出されます。
発電出力が上昇するのに時間を要する。	モジュール内部の温度が急上昇しないようゆっくりと出力を上昇させています。
発電ユニットから臭いがする。	運転開始時に臭いがすることがありますが、異常ではありません。
起動時に数分程度音が大きくなる。	点火時に発生する燃焼音です。
自立運転時に音が大きい。	運転継続のための冷却運転により放熱器の音が大きくなる場合があります。

故障・異常かな？と思ったらときは、まずリモコンの表示をご確認ください。

※ 熱源機およびリモコンの取扱説明書も合わせてご確認ください。

症状	原因	処置方法
発電表示が消え、発電停止時に M マークを表示して停止している。	ガスマイコンメーターがガス漏れの有無を確認するための一時的な停止 (※ 詳細は、「 ■台所リモコン画面 (トップ画面) / ② 発電モードマークの見かた 」の (28 ページ)) をご参照してください。	M マークの表示開始から約 7 ～ 9 時間経過後に自動で運転を再開します。ただし、ガスのご使用状況や機器の動作状況により、リモコンに [01900] を表示し停止を継続する場合があります。その場合は 86 ページを参照し、処置を行ってください。 M マーク、発電表示は、リモコン画面上部に表示されます。詳細は各リモコン説明部 (26 ページ) を参照してください。 
リモコンに何も表示されない。	熱源機に接続されたブレーカーが OFF になっている。 もしくは、熱源機の電源プラグが抜けている。 停電時に発電ユニットが停止している。	熱源機に接続された専用ブレーカーを ON にしてください。もしくは、熱源機の電源プラグをさしてください。 ※ リモコンが表示したら、リモコンの時計合わせを行ってください。 停電時、発電ユニットがエラーで発電を継続できなくなった可能性があります。 停電が復旧した後、リモコンにエラーが表示された場合は、86、87 ページに記載の処置方法に従って処置を行ってください。

症状	原因	処置方法
リモコンに何も表示されない。(停電時自立発電モデルの場合)	停電時に停電時自立発電専用コンセントに接続している電気製品の消費電力が発電量を超えている。	接続した電気製品をすみやかに取り外してください。
[01900] を表示して停止している。	発電ユニット停止中に熱源機がガス使用が継続し、ガスマイコンメーターがガス漏れの有無を確認できなかった。	処置方法は、86 ページを参照してください。
発電エラーと [** F **] が交互に表示されている。	エラーが発生している。	停止完了までお待ちください。リモコン画面左上にある、発電マークと状態表示 ([停止中]) が消えたら停止完了です。86、87 ページを参照し、エラーの処置を行ってください。
発電ユニットのセルフチェック実施中を知らせる表示がされている。	故障診断のための一時的な停止。	しばらくお待ちください。 24 時間経過しても発電ユニットのセルフチェック実施中を知らせる表示が消えない場合は、販売店またはもよりの大阪ガスに連絡してください。
発電中にリモコン画面左上の [発電中] 表示が [電圧抑制] と表示される。	商用電源の電圧が設定値 (電力会社による指定値) を超えないように、発電ユニットが電圧を自動検出し、発電量を自動で抑制します。	商用電源の電圧が正常に戻れば [電圧抑制] の表示は消え [発電中] に戻ります。頻繁に発生する場合は、お買い上げの販売店または電力会社にご相談ください。
発電が停止しリモコン画面左上の [発電中] の表示欄に [↓] が表示される。	お客様の電力の使用量が少ない状態が継続し、十分な省エネ効果が得られないため発電を一定期間停止しています。	お客様の電気使用量が増加すれば自動的に再発電します。電気使用量が増加しなければ長期間発電を停止する場合があります。停止中に起動する場合は【メニュー】→【発電メニュー】から【発電再開】を選択し【開始】または【はい】、【する】を実行ください。
発電出力がご家庭の使用電力を大幅に下回り、リモコン画面左上に [出力抑制] と表示されている。	下記の場合は、運転を継続させるために発電出力を抑制します。 ・外気温が高いとき ・熱が滞留するような設置環境	1 日のうち数時間以上が出力抑制となる可能性がありますので、しばらくお待ちください。 24 時間経過しても発電出力に一切変化がない場合は販売店またはもよりの大阪ガスにご連絡ください。
発電ユニットの起動時に数分程度音が大きくなる。	点火時に発生する燃焼音です。	音が継続して止まらない場合は、販売店またはもよりの大阪ガスにご連絡ください。
リモコン設定よりも熱いお湯が出る。 お湯を出しても温度が上がらない。 お湯を出しても、熱くなったりぬるくなったりして、お湯の温度が安定しない。	この商品は、熱源機のガス消費量を抑えるために、熱源機に供給する水の温度を発電ユニットの排熱により予熱しています。このため、少ない流量でお湯をお使いの場合、設定温度よりも高めのお湯が出る場合があります。さらにお湯の流量を絞ると、燃焼を停止する場合があります。	お湯の量を増やしてご使用ください。 ※ 混合水栓でお湯と水とを混ぜてお使いの場合は、水栓から流れるお湯の量よりも熱源機を流れるお湯の量が少なくなります。混合水栓のレバーをお湯側にしてお使いください。
後付構成で、熱源機が「給湯切」なのに お湯が出てくる。	熱源機が「給湯切」でも、発電ユニットの貯湯タンクの湯がなくなるまで、最高で 30℃の水が供給されます。	故障ではありません。 水をご使用されたい場合は、混合水栓を水側にしてご使用ください。
リモコンに「発電 ×」が表示される。	・自動運転状態に設定されていない。 ・試運転が未完了の状態。	販売店またはもよりの大阪ガスにご連絡ください。
宅内主幹ブレーカーより異常音がする。発電開始後宅内主幹ブレーカーが落ちる。	ブレーカーの異常が考えられます。	ブレーカーの種類によっては交換が必要となる場合があります。 販売店またはもよりの大阪ガスにご連絡ください。

エラー発生時の処置方法

お願い

- お客さま自身で部品の点検・調整はしないでください。
- 機器の異常に気付いたときは、販売店またはもよりの大阪ガスに連絡してください。

■ エラー発生時の処置方法について

- リモコンにエラーコード 5 桁を表示します。
エラーコードの表示が 3 桁の場合は熱源機側の不具合です。熱源機の取扱説明書を参照してください。
- リモコンに次ページのエラーコードが表示された場合、処置方法に従い処置を行ってください。
- 86、87 ページ以外のエラーコードについては、販売店またはもよりの大阪ガスにご連絡ください。

■ エラーリセット（異常解除）の方法

「ON/OFF」スイッチを一度「OFF」にしてから、再度押して「ON」にします。
(23 ページ参照)

- ※エラー発報時は停止工程に約 10 ～ 12 時間かかります。
エラーをリセットしても、停止工程が終了するまで再起動しません。

表示	故障内容	原因	処置方法
01900	ガスマイコンメーター内管漏えい警報防止（後付構成では発生しないエラーです）	機器の異常ではありません。発電ユニットが「ガスマイコンメーター確認マーク」を表示して停止中に、熱源機のガス使用が継続し、ガスマイコンメーターがガス漏れの有無を確認できなかった場合に表示します。	<ul style="list-style-type: none"> • 全てのガス機器（暖房を含む）を連続で 70 分以上停止してください。^{*1}ただし、機器が凍結予防動作などを行った場合、この表示が消えないことがあります。その場合はさらに連続で 70 分以上ガス機器を停止してください。作業を実施しても表示が消えない場合は、販売店またはもよりの大阪ガスに連絡してください。 • 床暖房の長時間使用により頻繁に [01900] が表示される場合は、給湯や浴室暖房乾燥機などガス機器を使用しない時間帯に、床暖房リモコン等のタイマー設定により床暖房を 70 分以上停止する時間帯を設定ください。
01F00	通常停止回数警告	起動停止の回数が多すぎます。	このまま使用を継続されると、故障の原因になるおそれがあり、保証の対象外となる場合がありますので、販売店またはもよりの大阪ガスにご連絡ください。
01F01	シャットダウン回数警告		
03F00	ホットモジュール起動許可条件成立待ち	発電ユニットが高温であるため起動できません。	冷却されるまでお待ちください。（約 10 ～ 12 時間（時間は気温によって異なります））

*1 70 分間は以下の表示を目安としてください。

- リモコン A の場合： → 
- リモコン B の場合： → 
- リモコン C の場合： → 

表示	故障内容	原因	処置方法	
03F06	水抜き状態時起動警告	水抜き、水張りが中止された状態で発電ユニットの起動操作が実施された。	発電禁止操作を行い、エラーをリセットし、水張りを実施後、発電ユニットを起動してください。参照ページは下記となります。 (42、86、82、34 ページ)	
05F00	メンテナンス時間超過	定期交換部品の交換が必要です。	販売店またはもよりの大阪ガスにご連絡ください。	
05F03	可燃ガスセンサー			
05F04	時間超過			
08F00	自立運転保護動作	電力使用量が少ないため、保護停止しています。	給湯および電力使用量が 350W 以上必要です。	
10F00	可燃ガスセンサー 1 ガス漏れ異常	発電ユニット内部でガス漏れが発生した場合、もしくは発電ユニット外部から自動車の排気ガスなどの可燃性ガスが流入した場合に、ガスを検知して停止しています。	ガス供給を遮断していますが念のため発電ユニット専用ガス栓を閉じて、販売店またはもよりの大阪ガスにご連絡ください。	
10F10				
10F01				可燃ガスセンサー 2 ガス漏れ異常
10F11				
19F00	漏電・過電流ブレーカー保護作動	主幹ブレーカーが ON の状態で発電ユニット専用ブレーカーを OFF した可能性があります。	エラーをリセット (86 ページ参照) してください。原因に該当しない場合は、大阪ガスにご連絡ください。	
769	通信異常 (熱源機のエラー)	発電ユニット専用ブレーカーが OFF になっている可能性があります。	発電ユニット専用ブレーカー (21 ページ参照) を ON し、エラーをリセット (86 ページ参照) してください。発電ユニット専用ブレーカー ON でも再発する場合は、大阪ガスにご連絡ください。	
82F01	排熱回収水出口温度 高温異常	断水している可能性があります。	発電禁止操作を実施後に、エラーをリセット (86 ページ参照) してください。給水されていることを確認後、発電ユニットの水張り操作を実施してください。水張り完了後、「発電禁止からの再開」を実施してください。再発する場合は、販売店またはもよりの大阪ガスにご連絡ください。	
A0F00	原燃料供給圧低または原燃料流量計故障	ガス栓が閉まっているか、ガスマイコンメーターが遮断されています。	ガス栓が閉まっている場合は、ガス栓を開けてください。 ガスマイコンメーターが遮断している場合は、ガスマイコンメーターを復帰させてから、リモコンでエラーをリセットしてください。 操作方法がわからない場合はガス供給事業者までご連絡ください。	
E0F00	商用電流検出異常 (誤配線)	購入電力の検出に異常がある可能性があります。	販売店またはもよりの大阪ガスにご連絡ください。	
E4F00	商用電流検出異常			
F9F00	逆潮流検出			

- **DC** 以下のエラーコードが表示された場合は、蓄電池ユニットの不具合の可能性があります。
08F03 C7F28 C7F29 C7F30 C7F31 C7F32 E5F00 E5F01 B3F01

エラー表示

発電ユニットに不具合が生じたとき、熱源機のリモコンにエラーコード[** F **]が表示されます。

発電ユニットのエラーコード一覧 (1 / 2)

表示	故障内容
01F00	通常停止回数警告
01F01	シャットダウン回数警告
01F02	省エネ性低下検出
02F00	通常停止回数警告 (起動禁止)
02F01	シャットダウン回数警告 (起動禁止)
03F00	ホットモジュール起動許可条件成立待ち
03F01	スタック保護待機状態
03F06	水抜き状態時起動警告
03F07	改質水水量保護動作中
03F08	エア流量計フィルタ詰まり解消動作
05F00	メンテナンス時間超過 1
05F03	可燃ガスセンサー時間超過
05F04	可燃ガスセンサー時間超過
08F00	自立運転保護動作
08F02	水不足による保護停止
08F03	自立時過負荷検出
10F00	可燃ガスセンサー 1 ガス漏れ異常
10F01	可燃ガスセンサー 2 ガス漏れ異常
10F10	可燃ガスセンサー 1 ガス漏れ異常
10F11	可燃ガスセンサー 2 ガス漏れ異常
11F00	着火異常
12F00	燃焼部 #1 失火異常
12F01	燃焼部 #2 失火異常
12F04	失火による出力異常
12F05	失火継続異常
15F00	起動異常
17F00	温度ヒューズ作動
19F00	漏電・過電流ブレーカー保護作動
20F00	冷却ファン故障
30F00	改質入口温度センサー故障
30F01	改質入口温度高温異常
30F02	改質入口温度低温異常
30F03	改質入口温度センサー不定故障
42F00	モジュール温度センサー故障
42F01	モジュール温度高温異常
42F02	モジュール温度低温異常
42F04	モジュール温度センサー不定故障
43F00	燃焼排ガス温度センサー故障
43F01	燃焼排ガス温度高温異常
43F02	燃焼排ガス温度低温異常
47F00	還流ガス温度センサー故障
47F02	還流ガス温度低温異常

表示	故障内容
50F01	停止時原燃料流量異常
52F02	エア流量異常
53F00	給湯混合弁原点復帰異常
55F00	可燃ガスセンサー 1 異常
55F01	可燃ガスセンサー 2 異常
55F10	可燃ガスセンサー 1 異常
55F11	可燃ガスセンサー 2 異常
57F01	伝導度上限異常または水位センサー短絡故障
59F00	燃焼触媒故障
60F00	原燃料流量偏差異常
60F01	原燃料ガスブロー DUTY 上限異常
61F00	エア流量偏差異常
61F01	エアブロー故障
62F00	改質水ポンプ故障
63F00	フロートスイッチ断線故障
63F01	フロートスイッチ短絡故障
64F00	排熱回収水ポンプ故障
66F00	改質水補給異常
67F00	水位異常または水位センサー短絡故障
67F01	水位センサー断線故障
67F04	改質水ライン水張り異常
68F00	原燃料入口電磁弁駆動回路異常
68F01	原燃料入口電磁弁異常
70F00	インバーター通信異常
70F01	インバーター連系パラメーター受信異常
72F01	給湯器ラインまたはインバーター異常
72F03	自立出力リレー固着警告
72F04	自立出力リレー固着異常
72F05	給湯器電源リレー系統側固着警告
72F06	給湯器電源リレー系統側固着異常
74F00	フラッシュメモリ故障
76F00	セット構成給湯器通信異常
76F01	後付構成用発電連係リモコン通信異常
76F02	リモコンアンマッチ
76F03	リモコン電源電圧低下異常
77F00	改質水ポンプ駆動回路異常
77F02	制御装置可燃ガスセンサー増幅回路異常
77F03	制御装置 LP ガスセンサー増幅回路異常
77F04	制御装置パラメーター破損異常
77F05	FC メンテデータ差異異常
77F06	FC パラメーター差異異常
77F08	原燃料流量計通信異常

発電ユニットのエラーコード一覧 (2 / 2)

表示	故障内容
77F09	カソード エア流量計通信異常
77F10	原燃料流量計測値フリーズ異常
77F11	カソード エア流量計測値フリーズ異常
78F15	直流ヒーター過電流警告
79F00	コントローラスイッチ部短絡故障
80F00	排熱回収水入口温度センサー故障
80F01	排熱回収水入口温度高温異常
82F00	排熱回収水出口温度センサー故障
82F01	排熱回収水出口温度高温異常
82F02	排熱回収水出口温度低温異常
82F04	排気熱交換器故障または排熱回収水出口温度センサー不定故障
83F00	補機室上部温度センサー故障
83F01	補機室上部温度高温異常
85F00	水道水温度センサー故障
86F00	混合湯温度センサー故障
86F01	混合湯温度高温異常
86F02	水道水温度センサー／混合湯温度センサー精度異常
88F00	自立ヒーター温度センサー故障
88F01	自立ヒーター上部温度高温異常
88F02	自立ヒーター上部温度高温警告
93F00	停止時間タイムアウト
95F00	改質水タンク水量不足またはフロートスイッチ故障
A0F00	原燃料供給圧低下または原燃料流量計故障
B0F00	ホットモジュール高温状態検出
B0F02	改質触媒高温状態
B1F02	水張り時エア抜き警告
B1F03	排熱回収水ライン水なし異常
B3F01	DC 出力機 蓄電池機種未設定警告
B4F01	点火ヒーター連続通電時間オーバー
B4F03	排熱回収水ライン凍結防止ヒーター空焚き異常
B6F00	パソコン通信異常
B8F00	改質水タンク水なし状態検出
C0F00	スタックトータル電圧低下
C0F02	コンバーター過電流警告
C0F03	直流リンク過電圧警告
C2F00	スタックトータル電圧未確立
C4F00	直流不足電圧検出
C5F01	インバーター DC/DC 部温度高温異常
C5F02	インバーター DC/AC 部温度高温異常
C5F03	インバーター低温警告
C5F04	インバーター高温異常
C6F01	EEPROM 異常
C7F00	ハードウェア故障
C7F01	インバーター温度センサー故障

表示	故障内容
C7F02	連系リレー故障
C7F04	24V 補機電源電圧上限異常
C7F05	24V 補機電源電圧下限異常
C7F06	24V 補機電源通電警告
C7F07	2.5V 補機電源電圧上限異常
C7F08	2.5V 補機電源電圧下限異常
C7F12	5V 補機電源電圧上限異常
C7F13	5V 補機電源電圧下限異常
C7F14	スタック電流通信異常
C7F15	商用電流回路異常
C7F17	インバーターソフトウェアバージョン異常
C7F23	自立周波数不確定異常
C7F25	自立構成異常
C7F26	自立発電電圧不安定異常
C7F27	自立発電電圧不安定警告
C7F28	自立出力準備中シーケンス異常
C7F29	DC 出力機 DC 出力電流検出回路異常
C7F30	DC 出力機 地絡電流検出回路異常
C7F31	DC 出力機 地絡電流異常
C7F32	DC 出力機 DC 出力不足電圧異常
C9F00	インバーター入力過電流
E0F00	商用電流検出異常 (誤配線)
E1F00	CT 自動補正不能
E1F01	CT 誤取り付け警告
E1F02	CT 自動検出時電力不足異常
E4F00	商用電流検出異常
E5F00	DC 出力機 自立時過負荷検出異常
E5F01	DC 出力機 停電検出用ライン誤配線またはハイブリッドパワコン電源 OFF 異常
E7F00	N 相過電流異常
F0F00	系統過電圧警告
F1F00	系統不足電圧警告
F2F00	系統周波数上昇警告
F3F00	系統周波数下降警告
F4F00	単独運転受動方式検出
F5F00	単独運転能動方式検出
F6F00	系統瞬時過電圧
F7F00	直流過電圧検出
F7F01	リンク不足電圧検出
F7F02	リンク過電圧検出
F7F03	出力電流直流分流出検出
F7F05	インバーター側通信異常
F7F06	瞬時過電流
F9F00	逆潮流検出
01900	ガスマイコンメーター内管漏えい警報防止

ご使用の前に

発電

こんなときは

お手入れ

困ったときに

知っておいてください

点検について

■ 逆流防止装置の点検

この機器は給水用具（逆流防止装置）を内蔵しています。機器を安全・快適にお使いいただくために、(社)日本水道協会発行の「給水用の維持管理指針」に示されている定期点検の実施をおすすめします。時期は4～6年に1回程度をおすすめします。(有償)

■ 発電ユニットの点検

機器への通電開始から12.5年経過後に停止します。引き続き安全にご使用になるためには、点検および定期交換部品、その他の部品の交換が必要になります。(有償)

◆ リモコンの液晶画面上部に下記のお知らせが表示されたときは、販売店またはもよりの大阪ガスに連絡してください。

- [発電ユニットの点検時期が近づいています。]
- [発電ユニットの点検が必要です。]
- [発電ユニットの点検時期を過ぎています。] (エラーコード [05 F 00] も点滅)

※[発電ユニットの点検時期を過ぎています。]の表示になると、発電ユニットは自動的に停止します。

◆ 点検は、専門のサービスマンが実施いたします。

おもな仕様

商品コード		192-AS15 192-AS17		192-AS16	
型式名		FCCS07 C2NJ	FCCS07 C2PJ	FCCS07 C2NH	FCCS07 C2PH
製品名		エネファーム type S 燃料電池発電ユニット 停電時自立発電モデル 停電時自立発電モデル (DC 出力仕様)		エネファーム type S 燃料電池発電ユニット	
ガスの種類		都市ガス 13A	LP ガス	都市ガス 13A	LP ガス
燃料電池の種類		SOFC (固体酸化物形燃料電池)			
設置方法		屋外設置据置型			
タンク貯湯温度		約 60℃			
タンク容量		25L			
外形寸法 mm		高 1274× 幅 600× 奥行 330 (突起部含まず)			
重量 kg		86 (乾燥重量)		85 (乾燥重量)	
接続口	ガス	TU (R1/2 おねじ)			
	給水・給湯	R 3/4 (おねじ)			
	タンク排水	R1/2 (おねじ)			
	ドレン排水	R1/2 (おねじ)			
電源		単相 3 線式 100/200V			
発電	定格出力 W	700 (停電時自立発電時 700)		700	
	電圧 V	100			
	周波数 Hz	50/60			
発電 (停電時自立発電モデル (DC 出力仕様))		定格出力 700W 電圧 連系時 AC100V (50/60Hz) 停電時自立発電時 最大 DC290V		—	
効率	発電効率 (LHV) %	55※1	53	55※1	53
	総合効率 (LHV) %	87	85	87	85
最大ガス消費量 (定常運転時)		1.30kW-LHV	1.32kW-LHV	1.30kW-LHV	1.32kW-LHV
インバーター	インバーター方式	自励式電圧型電流制御方式			
	電圧調整方式	PWM 方式			
	絶縁方式	高周波絶縁方式			
	接続電気方式	単相 3 線式			
	出力電気方式	単相 2 線式 101V			
運転環境温度 ℃		-10 ~ 43			
不在停止の使用目安		10 回 / 年以下			
起動時間 (発電準備)		約 4 ~ 5 時間 ※2 (機器の状態および気温によって異なります)			
停止動作時間		約 3 ~ 5 時間 (機器の状態および気温によって異なります)			

※1 都市ガス 13A (LNG) の場合に、連続で 3 時間以上安定して定格発電を継続した際の発電効率です。
上記以外の場合は、定格発電効率 54% (総合効率 87%) となります。

※2 発電の停止動作中に起動操作を行った場合でも、停止動作の完了後に再起動となります。

ご使用の前に

発電

こんなときは

お手入れ

困ったときに

知っておいてください

外形図

ご使用の前に

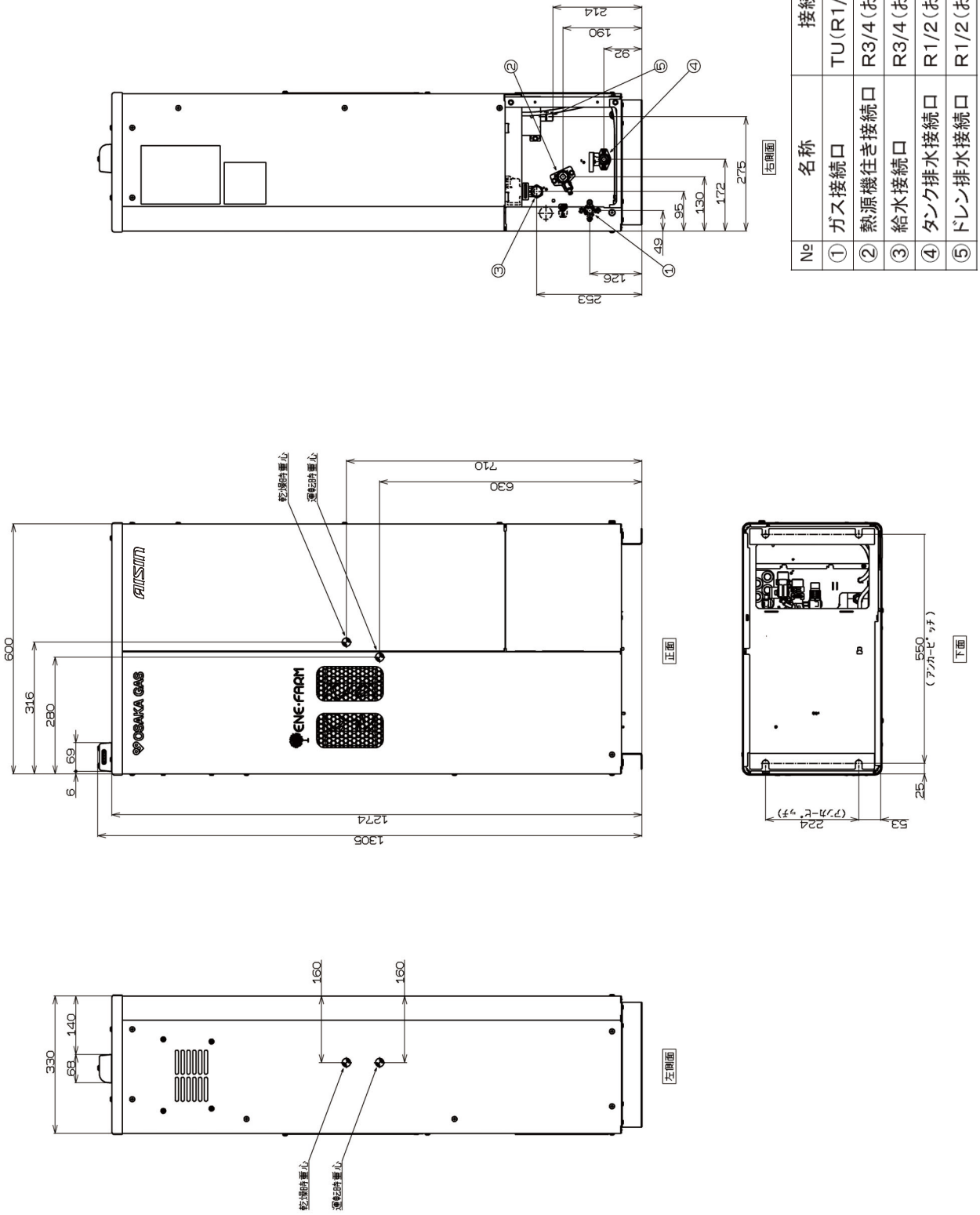
発電

こんなときは

お手入れ

困ったときに

知っておいてください



アフターサービスと保証について

修理を依頼するとき

修理を依頼される前に、「故障・異常かな?と思ったら」(84～85ページ)の項目を見て、今一度ご確認ください。不具合があるときはご自分で修理せず、販売店またはもよりの大阪ガスにご連絡ください。

修理の際、エラー発生時に記録した運転データ*を機器から取得し、原因解析に使用します。

※運転データには電気、お湯等のお客さま使用状況を含みます。

アフターサービスをお申し付けいただくときは、次のことをお知らせください。

1. 商品コード・・・192-AS15/192-AS16/192-AS17
2. 品名・・・エネファーム type S (燃料電池発電ユニット)
3. ガス種・・・都市ガス(13A)/LPガス
4. お買い上げ年月日
5. 故障の状況・・・できるだけ詳しく(エラーコードなど)
6. ご住所、お名前、電話番号
7. 訪問ご希望日

保証について

- この燃料電池発電ユニットには保証書がついています。必ず「販売店名・お買い上げ日等」が記入されていることを確認してください。
- 保証書の内容をよくお読みになった後は大切に保管してください。
- 無償修理期間経過後の故障修理については、修理によって機能が維持できる場合、有償で修理いたします。

引越または機器を移設する場合

燃料電池発電ユニットを安全で快適にご使用いただくため次のことをご確認ください。

移設工事は、お買い上げの販売店またはもよりの大阪ガスに依頼し、お客さまご自身ではなさないでください。

- 引越などで燃料電池発電ユニットを移動・再設置する場合は専門の技術が必要ですので、前もってお買い上げの販売店またはもよりの大阪ガスにご相談ください。
- 燃料電池発電ユニットを処分する場合は、お客さまご自身で解体・廃棄は絶対にしないでください。法規制の対象物質が含まれるため、決められた方法で解体・廃棄する必要があります。解体・廃棄につきましては、本製品を購入された販売店に依頼してください。
- 都市ガス仕様からLPガス仕様、LPガス仕様から都市ガス仕様への変更はできません。

※ご使用による人体・周辺環境への影響はありません。

補修用性能部品について

燃料電池発電ユニットの補修用性能部品の保有期間は製造打ち切り後12年です。

性能部品とは製品の性能を維持するために必要な部品です。

熱源機・リモコンを買い替える場合

- 熱源機との組み合わせ、あるいはリモコンとの組み合わせによっては安全・性能が担保できずやけど等の事故が発生するおそれがあります。
- 熱源機、リモコンを買い替える場合は必ず、販売店またはもよりの大阪ガスにご相談ください。

アフターサービスと保証について

大阪ガス製エネファームフルメンテナンスサポートサービスのご案内

1. フルメンテナンスサポートサービスとは

フルメンテナンスサポートサービス（以下、「本サービス」といいます。）は、大阪ガス株式会社（以下、「大阪ガス」といいます。）または大阪ガスが指定するガス会社との間でガス使用契約を締結し、その使用場所で大阪ガス製エネファーム（以下、「エネファーム」といいます。）をご利用いただいているお客さま（以下、「お客さま」といいます。）を対象に、大阪ガスがエネファームの故障時の修理を無償で実施するサービスです。本サービスの内容は、次ページ以降の「フルメンテナンスサポートサービス利用規約」（以下、「利用規約」といいます。）によります。

2. 注意事項

- (1) 利用規約第3条第2項に定める事由に該当する場合は、本サービスの提供期間内においても、故障時の修理は有償となります。（以下、抜粋）
 - ①ご使用上の誤り、または不当な修理や改造による故障および損傷
 - ②お買い上げ後の取付場所の移動、落下等による故障および損傷
- (2) 利用規約第5条第1項に定める事由に該当する場合は、本サービスの提供を終了させていただきます。（以下、抜粋）
 - ①大阪ガスの事前の同意なく、本サービスの対象機器の所有者が変更された場合
 - ②大阪ガスの事前の同意なく、本サービスの対象機器の設置場所が変更された場合
 - ③大阪ガスまたは株式会社エネアーク関西、豊岡エネルギー株式会社、びわ湖ブルーエナジー株式会社の4社（または大阪ガスの指定するガス事業者）とガス使用契約を締結し、本サービスの提供を受けていたお客さまがガス使用契約を解約し、4社以外の他のガス会社との間でガス使用契約を締結した場合
- (3) 前記（2）により本サービスの提供が終了した場合（利用規約第5条ご参照）や、利用規約に従い有償となる場合（利用規約第3条ご参照）には、数千元～数十万円の費用が必要となります。

【フルメンテナンスサポートサービス利用規約】

フルメンテナンスサポートサービス(以下、「本サービス」といいます。)は、大阪ガス株式会社(以下、「大阪ガス」といいます。)または大阪ガスが指定するガス会社との間でガス使用契約を締結し、その使用場所で大阪ガス製エネファーム(以下、「エネファーム」といいます。)をご利用いただいているお客さま(以下、「お客さま」といいます。)を対象に、大阪ガスがエネファームの故障時の修理を無償で実施するサービスです。大阪ガスまたは大阪ガスが指定する業務代行店が、以下の各条に従い、本サービスを提供いたします。

第1条(本サービスの提供期間)

本サービスの提供期間は、次の通りとします。但し、①または②により定まるサービス提供開始日が、次条に定める本サービスの対象機器の設置日から起算して1年を経過している場合は、設置日から起算して1年を経過した日をサービス提供開始日とします。

①大阪ガスとの間でガス使用契約を締結し、エネファームをお使いいただく場合

サービス提供開始日：設置されたエネファームが初めて系統連系を実施した日またはガスの開栓日のいずれか遅い日

サービス提供終了日：サービス提供開始日から起算して10年を経過する日

②大阪ガスが指定するガス会社との間でガス使用契約を締結し、エネファームをお使いいただく場合

サービス提供開始日：設置されたエネファームが初めて系統連系を実施した日

サービス提供終了日：サービス提供開始日から起算して10年を経過する日

第2条(本サービスの対象機器)

本サービスの対象機器(以下、「対象機器」といいます。)は、エネファームを構成する燃料電池発電ユニット、燃料電池発電ユニットと同時に設置した当社指定のバックアップ熱源機、リモコンセット並びにバックアップ熱源機に接続されている大阪ガス製の端末機および別売部品とし、バックアップ熱源機以外の温水機器及び、給湯配管、風呂配管、温水配管、予熱配管、信号線等の施工部分、は含まないものとします。

2.前項の端末機とは、「床暖房リモコン」、「浴室暖房乾燥機」、「ヌックシルエ」等をいい、別売部品とは、「自動電源切替器」、「マルチ計測ユニット」、「ネットアダプタ」、「ドレンアップユニット」をいいます。

3.前条の定めにかかわらず、端末機および別売部品のサービス提供終了日は、接続しているエネファームのサービス提供終了日もしくは当該端末機または当該別売部品の設置日から起算して10年を経過する日のいずれか早い方とします。

4.本サービスの提供期間終了後、発電機能をご利用いただかず、給湯機能のみを継続してご利用になる場合は措置が必要になります。なお、給湯単独機能への切り替え措置は有償となります。

第3条(故障時の修理)

本サービスの提供期間内に対象機器が故障したときは、大阪ガスはお客さまの依頼によりすみやかに技術者を派遣し、適切な修理を行います。修理に要した基本料、技術料および部品代金等の費用は無償となります。なお、本サービスの提供期間終了後においても、お客さまの依頼があるときは、修理が不可能または著しく困難な場合を除き、有償で故障の修理を行います。

2.前項の定めにかかわらず、次の各号のいずれかに該当する場合は、本サービスの提供期間内においても、修理は有償となります。

①ご使用上の誤り、または不当な修理や改造による故障および損傷

②お買い上げ後の取付場所の移動、落下等による故障および損傷

③火災、塩害、地震、風水害、落雷、煤煙、降灰、酸性雨、腐食性等の有害ガス、ほこり、異常気象、異常電流・電圧・周波数・電磁波、ねずみ・鳥・蜘蛛・昆虫類等の侵入、その他天変地異または戦争、暴動等破壊行為による故障および損傷

④水道管の錆など異物の流入による故障および損傷

⑤車両船舶に備品として搭載された場合に生じた故障および損傷

⑥音、振動、塗装の退色、メッキの軽微な傷、錆など設計仕様の範囲内の感覚的な現象の場合

⑦ガス発電・給湯・暖冷房システムのうち、大阪ガスまたは大阪ガス指定以外の業者の施工部分およびその施工部分に起因した故障および損傷

⑧業務用の場所(喫茶店、理美容院、飲食店、事務所等)で長時間ご使用になられた場合

⑨商品に表示しているガス以外のガスでご使用になられた場合

⑩温泉水、井戸水、地下水を給水したことに起因する不具合

⑪本規約の字句を書きかえられた場合。

⑫大阪ガスが定める定期点検以外での消耗品の交換に伴う、部材費、手数料、基本料

アフターサービスと保証について

- ⑬ 停電時以外で停電時自立発電機能を頻繁に使用したこと起因する故障および損傷
- ⑭ 手動操作による「起動」「停止」を頻繁に繰り返し行い、機器の耐久性が低下したことによる故障および損傷
※ SOFCタイプの「不在停止」操作は、10回/年を目安とし、10日以上不在となる場合にご利用ねがいます。
- ⑮ エネファーム燃料電池発電ユニット(SOFCタイプ)の最大発電出力の低下範囲が日本ガス機器検査協会の検査規定に定める下限値(定格出力の90%)の80%を下回らない場合
- ⑯ 機器の性能・耐久性維持のための定期点検など、大阪ガスからのお願いにご協力いただけず発生した機器の耐久性低下による故障および損傷
- ⑰ 商品に同梱の工事説明書および取扱説明書に指示する方法以外の工事設計または取扱等が原因で生じた故障および損傷

第4条(本サービスの提供に対する協力等)

お客さまは、本サービスの提供が円滑に行われるように、大阪ガスおよび大阪ガスの業務代行店に全面的に協力するものとし、次の各号に定める事項について承諾するものとします。

- ① 本サービスの提供に要する電気、水道、ガス料金その他の費用がお客さまの負担となること
 - ② 本サービスの提供は、原則として、大阪ガスの通常営業時間中に行うこととし、止むを得ず大阪ガスの通常営業時間外に本サービスの提供を行う必要がある場合は、お客さまと大阪ガスが協議のうえ、大阪ガスが指定する時間帯に行うこと
 - ③ お客さまは、転宅または対象機器の譲渡、移転をする場合、大阪ガスまたは大阪ガスの業務代行店に事前に連絡すること
2. 大阪ガスまたは大阪ガスの業務代行店は、本サービスの提供にあたり、十分な注意を払い、誠意をもってこれを行うものとします。

第5条(本サービスの提供の終了について)

次の各号のいずれかに該当する場合は、サービス提供終了日より前であっても、本サービスの提供を終了することについて、お客さまは承諾するものといたします。

- ① 大阪ガスの事前の同意なく、対象機器の所有者が変更された場合
(大阪ガスが事前に所有者の変更に同意した場合は、本規約にかかるお客さまの地位は、対象機器の新所有者に移転するものとします。この場合、対象機器の旧所有者は、大阪ガスへ何らの請求も行えないものといたします。)
- ② 大阪ガスの事前の同意なく、対象機器の設置場所が変更された場合
- ③ 大阪ガスまたは株式会社エネアーク関西、豊岡エネルギー株式会社、びわ湖ブルーエナジー株式会社の4社とガス使用契約を締結し、本サービスの提供を受けていたお客さまがガス使用契約を解約し、4社以外の他のガス会社との間でガス使用契約を締結した場合
- ④ お客さまが、暴力団、暴力団関係企業をはじめとする反社会的勢力またはその構成員または準構成員に該当することが判明した場合や、自らまたは第三者を利用して次のいずれかに該当する行為をした場合
 - イ. 暴力的な要求行為
 - ロ. 法的な責任を超えた不当な要求行為
 - ハ. 取引に関して、脅迫的な言動をし、または暴力を用いる行為
 - ニ. 風説を流布し、偽計を用いまたは威力を用いて大阪ガスの信用を毀損し、または大阪ガスの業務を妨害する行為
 - ホ. その他イないしニに準ずる行為
- ⑤ その他止むを得ない事情により永続的にサービスの提供ができないと大阪ガスが判断した場合2. 前項の規定により本サービスの提供を終了した場合、お客さまに損害が生じたとしても、大阪ガスは何ら法的な責任を負わないものとします。但し、大阪ガスの責めに帰すべき事由に起因する場合は、この限りではありません。

第6条(本サービスの提供ができない場合等の免責)

次の各号のいずれかに該当する場合は、大阪ガスは本サービスの提供を免れるものとします。

- ① 長期のご不在や、メンテナンススペースの確保が出来ていないなどの止むを得ない事情により、本サービスの提供を行うことができないと大阪ガスが判断する場合
- ② その他止むを得ない事情により一時的に本サービスの提供を行うことができない場合

2. 大阪ガスは、対象機器の故障発生に伴ってお客さままたは第三者に発生したいかなる損害についても法的な責任を負わないものといたします。但し、大阪ガスの責めに帰すべき事由に起因する場合は、この限りではありません。

第7条(管轄裁判所)

本サービスに関する一切の訴訟については、大阪地方裁判所を第一審の専属的合意管轄裁判所とします。

第8条(その他)

本サービスに関する疑義または本規約に定めのない事項については、お客さまおよび大阪ガスの双方が誠意をもって協議し、円満に解決を図るものとします。

【お客さま情報の利用目的】

当社は、本サービスの提供に関して、当社が直接または業務委託先等を通じて、または電話帳・宅地図等の刊行物等により、お客さまの氏名、住所、電話番号等の情報（以下「お客さま情報」といいます。）を取得しますが、これらの情報は以下の目的に利用させていただきます。

- ①エネルギー供給およびその普及拡大
- ②エネルギー供給設備工事
- ③エネルギー供給設備・消費機器(厨房、給湯、空調等)の修理・取替・点検等の保安活動
- ④漏洩・火災自動通報、供給の遠隔遮断等のエネルギー供給事業に関連するサービスの提供
- ⑤ エネルギー消費機器・警報器等の機器および住宅設備の販売(リース・レンタル等を含む)、設置、修理・点検、商品開発、アフターサービス
- ⑥上記各種事業に関するサービス・製品のお知らせ・PR、調査・データ集積・分析、研究開発
- ⑦その他上記①から⑥に附随する業務の実施

なお、当社は、本サービスの提供を円滑に進めるため、業務代行店等に業務の一部を委託することがあります。その際、当社からこれらの業務委託先に必要な範囲でお客さま情報を提することがあります。その場合、当社は、業務委託先との間で取扱いに関する契約を結ぶ、適切な監督を行います。

アフターサービスと保証について

保証書

お買い上げいただきました商品につきまして、本保証書の内容により保証させていただきます。
本書はお買い上げ店、お買い上げ日が記載されている保証登録カードまたは領収書などとともに大切に保管してください。

商品名	燃料電池発電ユニット
型式	192-AS15
	192-AS16
	192-AS17

1. 保証期間

保証期間は、お買い上げの日から2年間です。お買い上げ日については、保証登録カードまたは領収書などをご確認ください。

別途指定部品
● 3年保証部品 ホットモジュール、電装基板、ポンプ、プロアモーター、ラジエター、ラジエターファン
● 5年保証部品 貯湯タンク

2. 保証の内容

取扱説明書、本体貼付ラベルの記載に従った正常なご使用状態で、保証期間中に故障した場合には、お買い上げ店もしくは当社代理店が無料修理させていただきます。なお、無料修理ができない場合の免責事項を記載しておりますのでご確認ください。

3. 保証の範囲

保証は機器本体および当社または当社指定業者の施工部分を対象とします。

4. 補修用部品の保有期間と有料修理について

当社は、当商品製造中止後12年を基準に補修用性能部品を調達したうえ、修理によって性能が維持できる場合はお買い上げ店もしくは当社代理店が有料で修理いたします。

但し、当商品の製造中止後12年経過後であっても、補修用性能部品の在庫があり、修理が可能な場合は、有料修理致します。

5. 免責事項

つぎのような場合には、保証期間内でも有料修理となります。

- 1) 使用上の誤り、および不当な修理や改造による故障および損傷。
- 2) お買い上げ後の取り付け場所の移動、落下による故障および損傷。
- 3) 火災、塩害、地震、風水害、落雷、煤煙、降灰、酸性雨、腐食性などの有毒ガス、ほこり、異常気象、異常電流・電圧・周波数・電磁波、ねずみ・鳥・くも・昆虫類などの侵入、その他天変地異または戦争、暴動など破壊行為による故障および損傷。
- 4) 車輛・船舶に備品として搭載された場合に生じた故障および損傷。
- 5) 音、振動、塗装の退色、軽微な傷、錆など設計仕様の範囲内の感覚的な現象の場合。
- 6) ガス発電、給湯冷暖房システムのうち、当社または当社指定以外の業者の施工部分およびその施工部分に起因する故障および損傷。
- 7) 業務用の場所（喫茶店、理美容院、飲食店、事務所など）で長期間ご使用された場合。
- 8) 商品に表示している以外のガスでご使用になられた場合。
- 9) 本書および保証登録カードまたは領収書のご提示がない場合。
- 10) 保証登録カードまたは領収書にお買い上げ店、お買い上げ日の記入のない場合、あるいはお買い上げ店の訂正印無しで、本書または保証登録カード、領収書などの字句を書きかえられた場合。
- 11) ご使用場所が当社のガス供給区域外で、当社が指定するガス事業者以外の場合。（出張料等を別途いただきます）
- 12) 当社が定める定期点検以外での消耗品（水精製機、可燃性ガスセンサ）の交換に伴う部材費（部品費）、手数料など。
- 13) 水道水以外の水質の影響による機器の劣化や、水道管のさび等異物の流入による故障および損傷
- 14) 商品に同梱の工事説明書及び取扱説明書に指示する方法以外の工事設計または取扱等が原因で生じた不具合、故障および損傷。

（裏面もご覧ください）

アフターサービスと保証について

6. お客さまへ

- 1) 無料修理やアフターサービスなどについてご不明の場合は、お買い上げ店もしくは、もよりの大阪ガスへお問い合わせください。
- 2) 保証登録カードまたは領収書にお買い上げの店名の記載のないものについては無効となりますので購入時に必ずご確認ください。
- 3) 本書は再発行しませんので、紛失しないように大切に保管してください。
- 4) ご転居の場合またはご贈答用品で保証登録カードまたは領収書に記載してあるお買い上げ店に修理をご依頼できない場合には、もよりの大阪ガスへご連絡ください。
お問合せ先については別添、大阪ガスのお問合せ先をご参照願います。
- 5) 本書は日本国内においてのみ有効です。This warranty is valid only in Japan.
- 6) この保証書によってお客さまの法律上の権利を制限するものではありません。

※ 保証登録カード・領収書 貼付欄

お買い上げ店名、お買い上げ日が記載されている保証登録カード、または領収書とセットで保管してください。

サービス履歴

年 月 日	サ ー ビ ス メ モ	担当者

大阪ガス株式会社

大阪市中央区平野町 4-1-2
TEL ファイナル 0120-000-555
(お客さまセンター)